

NEC

P C 9 8 -

NX

PC98-**NX** SERIES

VersaPro

VA70J/VH

活用ガイド ハードウェア編

本機の機能

周辺機器を使う

システムの設定

マニュアルの 主な内容

このパソコンには、次のマニュアルが用意されています。



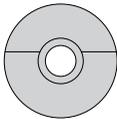
『はじめにお読みください』
このパソコンの接続方法やWindowsのセットアップ手順について説明しています。

- ・型番の確認
- ・添付品の接続
- ・Windowsのセットアップ
- ・マニュアル紹介



『活用ガイド 再セットアップ編』
このパソコンを再セットアップする場合の方法について説明しています。

- ・再セットアップの方法



『アプリケーションCD-ROM / マニュアル CD-ROM』
『活用ガイド ハードウェア編』、『活用ガイド ソフトウェア編』がPDF形式で収録されています。利用方法については『はじめにお読みください』をご覧ください。

『活用ガイド ハードウェア編』
このパソコンの取り扱い方法などを説明しています。

- ・キーボード、ハードディスク、CD-ROMドライブなどの取り扱い
- ・周辺機器の接続と利用方法
- ・システム設定について

『活用ガイド ソフトウェア編』
アプリケーションの利用方法、追加と削除の方法について説明しています。また、さまざまなトラブルへの対応方法をQ&A形式で説明しています。

- ・アプリケーションの利用方法
- ・他のOSを利用する場合の設定
- ・トラブル解決Q&A



はじめに

このマニュアルは、パソコンの取り扱い方法について説明するものです。

周辺機器やオプションを接続してパソコンを拡張する場合、パソコンの設定を変更する場合などに、このマニュアルをご利用ください。

2001年 5月 初版

対象機種

VA70J/VH

853-810060-044-A

このマニュアルの表記について

このマニュアルでは、パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。



警告

注意事項を守っていただけない場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



注意

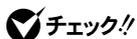
注意事項を守っていただけない場合、人が傷害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみの発生が想定されることを示します。



感電注意

注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左のマークは感電の可能性が想定されることを示しています。このほかに、毒物注意、破裂注意、高温注意についても、それぞれ記載しています。

このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります。



チェック!

してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性ががあります。



用語

パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。

利用の参考となる補足的な情報をまとめています。



参照

マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。

このマニュアルで使用している表記の意味

CD-ROMモデル	CD-ROMドライブを内蔵しているモデルのことです。
CD-R/RWモデル	CD-R/RWドライブを内蔵しているモデルのことです。
CD-R/RW with DVD-ROMモデル	CD-R/RW with DVD-ROMドライブを内蔵しているモデルのことです。
LAN内蔵モデル	LANインターフェイスを内蔵しているモデルのことです。
内蔵指紋センサモデル	指紋センサを内蔵しているモデルのことです。
Windows Meモデル	セットアップ時にWindows Meを選んでセットアップしたモデルのことです。
Windows 98モデル	セットアップ時にWindows 98を選んでセットアップしたモデルのことです。
Windows 2000 Professionalモデル	Windows 2000 Professionalがあらかじめインストールされているモデルのことです。

<p>【 】</p> <p>「スタート」ボタン 「プログラム」 「アクセサリ」 「メモ帳」</p> <p>「コントロールパネル」 を開く</p>	<p>【 】で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。</p> <p>「スタート」ボタンをクリックし、現れたポップアップメニューから「プログラム」を選択し、横に現れるサブメニューから「アクセサリ」「メモ帳」を順に選択する操作を指します。</p> <p>「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」をクリックする操作を指します。</p> <p>Windows Meで、「コントロールパネル」の画面に操作したいアイコンが表示されていない場合は、「すべてのコントロールパネルのオプション」を表示する。をクリックしてアイコンを表示させてください。</p>
--	--

このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

本文中の表記	正式名称
Windows	次のいずれかを指します。 <ul style="list-style-type: none"> Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版 Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system 日本語版 Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版
Windows 2000、 Windows 2000 Professional	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system 日本語版
Outlook 2000	Microsoft® Outlook® 2000
Outlook 2002	Microsoft® Outlook® Version 2002
インターネット エクスプローラ	Microsoft® Internet Explorer 5.5 または Microsoft® Internet Explorer 5.01
BaySwapユーティリティ	Phoenix BaySwap™

このマニュアルで使用しているイラストと画面

- ・本機のイラストや記載の画面は、モデルによって異なることがあります。
- ・本書に記載の画面は、実際の画面とは多少異なることがあります。



当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（ロゴ）は参加各国の間で統一されています。

技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータは、電気通信事業法第50条第1項の規定に基づく技術基準等適合認定を受けています。申請回線と認定番号は次のとおりです。なお、専用回線等との接続は、一般のお客様には行いませんので、必ずご購入元にご相談ください。

対象機種	電話回線
VA70J/VH	A01-0281JP

本機の直流回路の抵抗値は324 です。線路抵抗条件によっては使用できないことがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人電子情報技術産業協会のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

瞬時電圧低下について

[バッテリバックを取り付けていない場合]

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。

[バッテリバックを取り付けている場合]

本装置にバッテリバック実装時は、社団法人電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインを満足しますが、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

レーザー安全基準について

CD-ROMモデル、CD-R/RWモデル、CD-R/RW with DVD-ROMモデルには、レーザーに関する安全基準（JIS-C-6802、IEC825）クラス1適合のCD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブのいずれかが内蔵されています。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。万が一不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBIT-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。ご購入元までご連絡ください。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- (5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じて、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6) 海外における保守・修理対応は、海外保証サービス NEC UltraCareSM International ServiceSM 対象機種に限り、当社の定める地域・サービス拠点にてハードウェアの保守サービスを行います。サービスの詳細や対象機種については、以下のホームページをご覧ください。
<http://www.ultracare.nec.co.jp/jpn/>
- (7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているMicrosoft[®] Windows[®] Me、Microsoft[®] Windows[®] 98、Microsoft[®] Windows[®] 2000 Professionalは本機でのみご使用ください。また、本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでしかご利用になれません(詳細は「ソフトウェアのご使用条件」および「ソフトウェア使用条件適用一覧」をお読みください)
- (8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (9) ハードウェアの保守情報をセーブしています。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Outlook、Windows Media、およびWindowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Pentiumは、Intel Corporationの登録商標です。

SpeedStepは、Intel Corporationの商標です。

Hayesは、米国Hayes Microcomputer Productsの登録商標です。

MNPIは、Microcom, Inc.の登録商標です。

PS/2はIBM社が所有している商標です。

SymantecおよびpcAnywhereは、Symantec Corporationの米国における登録商標です。

Virtual CDはFar Stone Tech, Inc.の登録商標です。

IntelおよびLANDeskは、Intel Corporationの米国およびその他の国々における登録商標です。

Intel[®] LANDesk[®] Client Manager (with NEC Extensions)は、Intel[®] LANDesk[®] Client Managerのテクノロジーを使用しています。

cdmaOneは、CDGの登録商標です。

BaySwapは米国フェニックス テクノロジーズ社の米国における商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

©NEC Corporation 2001

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

輸出に関する注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。

本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。

また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等はありません。(ただし、海外保証サービス NEC UltraCareSM International Service 対象機種については、海外でのハードウェア保守サービスを実施致します。)

本製品の輸出(個人による携行を含む)については、外国為替および外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。

必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。

輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせ下さい。

Notes on export

This product(including software)is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards.NEC will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan.NEC does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.(Only some products which are eligible for NEC UltraCareSM International Service can be provided with hardware maintenance service outside Japan.)

Export of this product(including carrying it as personal baggage)may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law.Export without necessary permit is punishable under the said law.Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

本機の機能	15
各部の名称	16
本体前面	16
本体背面	17
本体底面	17
表示ランプ	18
表示ランプの名称と役割	18
ワンタッチスタートボタン	20
ワンタッチスタートボタンを使う	20
ワンタッチスタートボタンの設定を変更する	20
キーボード	23
キーの名称	23
キーの使い方	24
キーボードの設定をする	26
NXパッド	27
NXパッドの使い方	27
スクロールスライドスイッチを使う	28
NXパッドドライバをインストールする	29
NXパッドの設定をする	32
内蔵ハードディスク	33
ハードディスク使用上の注意	33
ハードディスクの購入時の状態	33
領域の確保とフォーマット	34
FAT32ファイルシステムの利用	38
ハードディスクのメンテナンス	39
フロッピーディスクドライブ	40
フロッピーディスクドライブの取り付け方と取り外し方	40
各部の名称と役割	40
使用できるフロッピーディスクの種類	40
使用上の注意	41
CD-ROMドライブ・CD-R/RWドライブ・ CD-R/RW with DVD-ROMドライブ	42
各部の名称と役割	42
使用できるディスク	42
使用上の注意	43
Virtual CD 2を使う	44

液晶ディスプレイ	48
画面表示を調整する	48
表示できる解像度と表示色	49
解像度と表示色を変更する	50
バーチャルスクリーン(Windows 2000を除く)	51
デュアルディスプレイ機能	52
画面回転機能	55
バッテリー	58
バッテリーで本機を使うときの注意	58
充電のしかた	59
バッテリー残量の確認	60
バッテリーリフレッシュ	61
バッテリーパックの交換	63
バッテリー容量を増やす	65
省電力機能	68
省電力機能とは	68
省電力機能使用上の注意	69
スタンバイ状態(サスペンド)にする	71
休止状態(ハイバネーション)にする	72
スタンバイ状態または休止状態から復帰(レジューム)する	74
省電力機能の設定をする	75
休止状態の設定の解除と再設定(Windows 98のみ)	79
電源の自動操作	81
Intel® SpeedStep™テクノロジー	82
セキュリティ機能	84
本機のセキュリティ機能	84
パスワード	84
ハードディスクのパスワード	88
指紋認証機能	91
スマートカード / 指紋認証ユニット	91
その他のセキュリティ機能を使う	92
サウンド機能	93
ボリュームコントロールを表示させる	93
表示項目を切り替える	93
光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力機能について	94
内蔵モデム	96
電話回線との接続	96
ダイヤル設定のしかた	98
通信機能使用上の注意	100
インターネットへの通信環境を切り替える	102

携帯電話 / PHS接続機能	108
携帯電話またはPHSとの接続	108
接続先を設定する	109
ダイヤル設定のしかた	109
携帯電話 / PHS接続機能使用上の注意	112
いろいろなデータ通信を行う	112
LAN(ローカルエリアネットワーク)	114
LANへの接続	114
運用上の注意	115
本機の運用管理	116
周辺機器を使う	123
接続できる周辺機器	124
本体に接続できる周辺機器一覧	124
周辺機器の利用	126
周辺機器利用上の注意	126
プリンタ	131
プリンタの接続	131
プリンタの設定	132
マウス	133
別売のマウスの設定方法	133
NXパッドを使用する設定に戻す	137
他社製のマウスドライバを使用するときの注意	140
外部ディスプレイ	141
CRTディスプレイの接続	141
プロジェクタの接続	142
テレビの接続	143
外部ディスプレイの設定	144
PCカード	147
使用上の注意	147
PCカードのセットのしかたと取り出し方	148
PCカードの設定	150
メモリ	151
メモリ容量について	151
メモリの取り付け方と取り外し方	151

IEEE1394コネクタ	159
IEEE1394とは	159
IEEE1394対応機器を接続する	159
VersaBay IV	162
VersaBay IVで使用できる機器	162
VersaBay IVの機器を交換するための準備	162
VersaBay IVの機器を交換する	163
USBコネクタ	166
USBとは	166
USBコネクタに接続する	166
その他の機器	170
本機で使用できるその他の機器	170
パラレルコネクタ	170
ヘッドホン / オーディオ / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子	171
DCコネクタ	172

システムの設定

173

BIOSセットアップメニュー	174
BIOSセットアップメニューを使ってできること	174
BIOSセットアップメニューを日本語表示にするには	174
BIOSセットアップメニューを使う	175
BIOSセットアップメニューを終了する	176
工場出荷時の値に戻す	177
設定項目一覧	178
起動順位の設定	183

付録

185

本機のお手入れ	186
お手入れをはじめの前に	186
お手入れをする	187
補足情報	188
別売のUSBポートバー使用時の設定	188
サウンド機能について(Windows Meモデルのみ)	190
機能一覧	195
仕様一覧	195
内蔵FAXモデム機能仕様	198
携帯電話 / PHS接続機能	200
内蔵LAN機能仕様	201

割り込みレベルとDMAチャンネル	202
割り込みレベルとDMAチャンネルについて	202
索引	205

P A R T

1

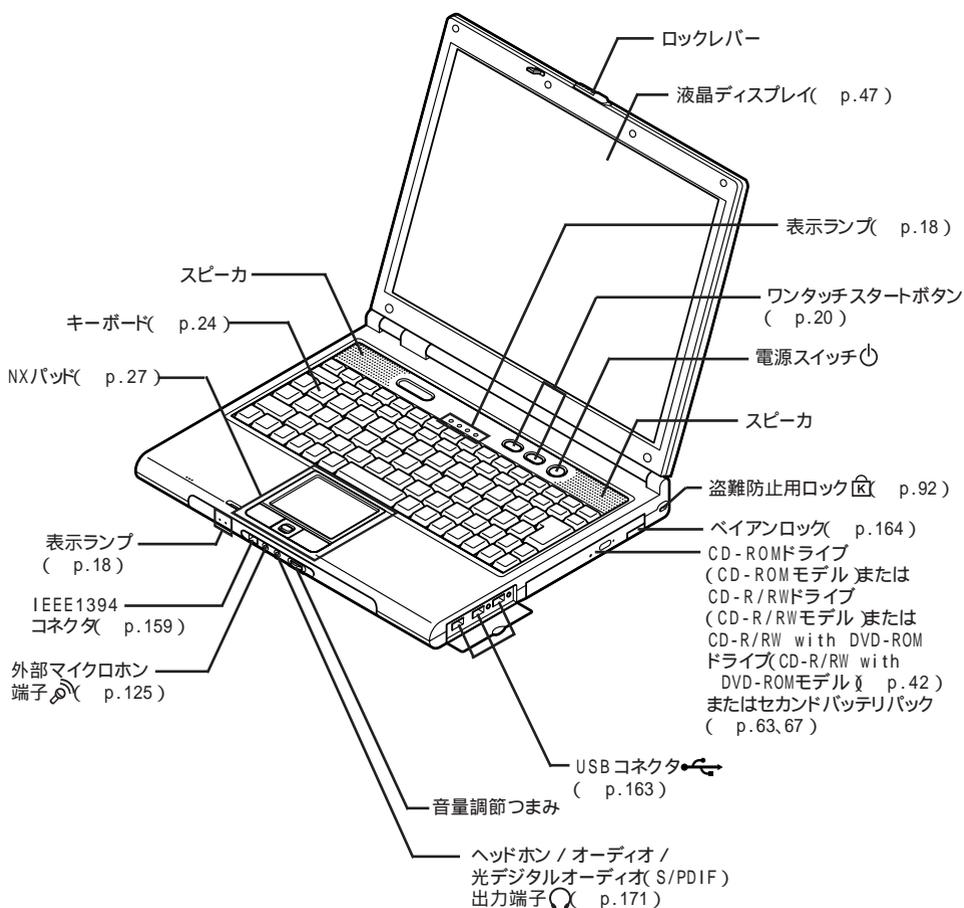
本機の機能

本機の各部の名称といろいろな機能について説明しています。

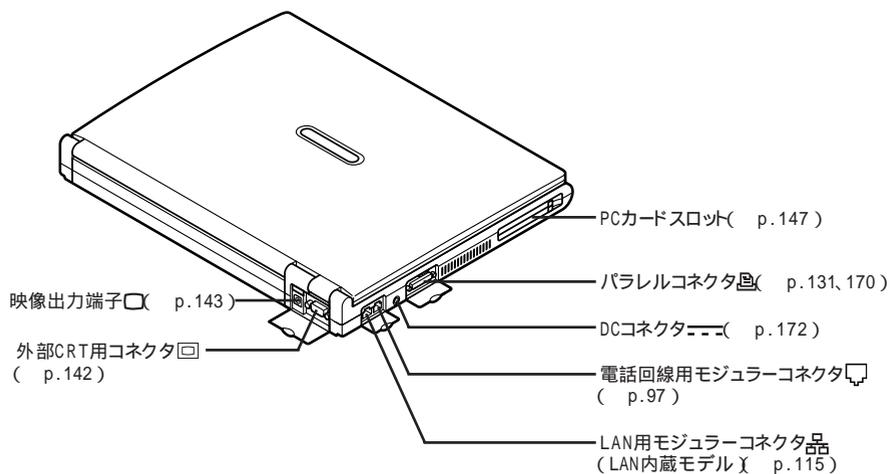
各部の名称

本機の各部の名称と配置について説明しています。それぞれの機能や取り扱い方については、参照ページをご覧ください。

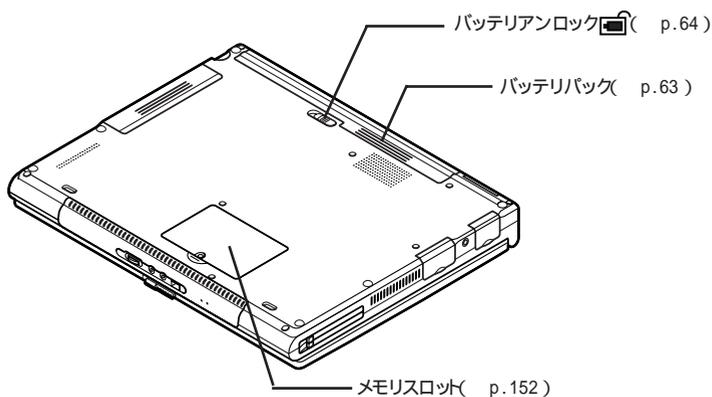
本体前面



本体背面

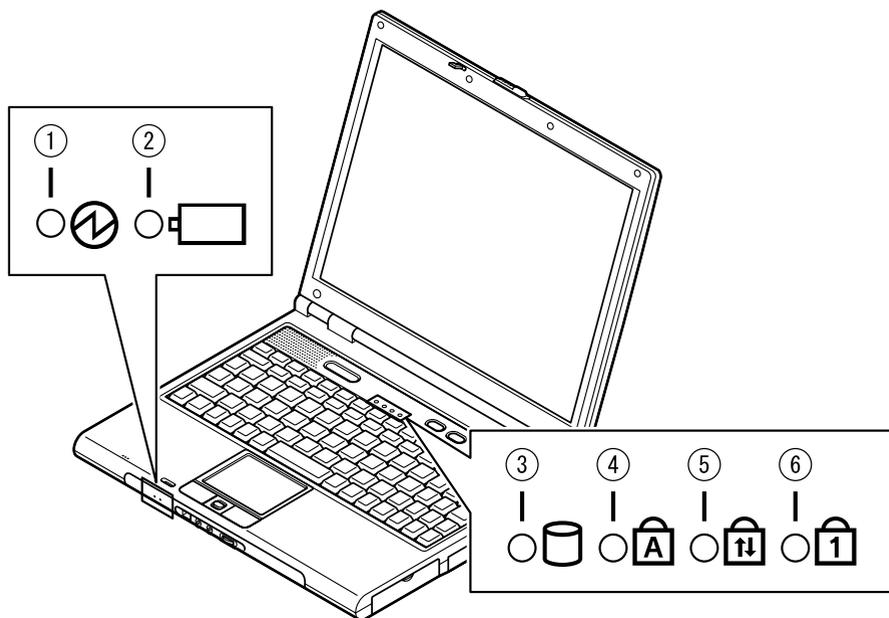


本体底面



表示ランプ

表示ランプの名称と役割



電源ランプ (⚡)

ランプ		本機の状態
緑	点灯	電源が入っている
	点滅	スタンバイ状態
黄色	点灯	バッテリー容量が少ない
	点滅	スタンバイ状態でバッテリー容量が少ない
オレンジ	点灯	バッテリー容量が残りわずか
	点滅	スタンバイ状態でバッテリー容量が残りわずか
消灯		電源が切れている、または休止状態

バッテリー充電ランプ()

ランプ	本機の状態	
オレンジ	点灯	バッテリーパック充電中
緑	点灯	セカンドバッテリーパック充電中
消灯	ACアダプタが接続されていない、または充電完了 セカンドバッテリーパック接続中のみ	

アクセスランプ()

ランプ	本機の状態	
緑点灯	ハードディスク、CD-ROMなどのディスクにアクセス中	
消灯	ハードディスク、CD-ROMなどのディスクにアクセスしていない	

キャップスロックキーランプ()

ランプ	本機の状態	
緑点灯	【Caps Lock】がロックされている 英字を入力すると大文字になります。	
消灯	【Caps Lock】がロックされていない 英字を入力すると小文字になります。	

スクロールロックキーランプ()

ランプ	本機の状態	
緑点灯	【Scr Lk】がロックされている	
消灯	【Scr Lk】がロックされていない	

ニューメリックロックキーランプ()

ランプ	本機の状態	
緑点灯	【Num Lk】がロックされている キーを押すとキー右上の青い文字が入力されます。	
消灯	【Num Lk】がロックされていない キーを押すとキー上の白い文字が入力されます。	

ワンタッチスタートボタン

ワンタッチスタートボタンを使うと、ボタンを押すだけで、あらかじめ設定したアプリケーションを起動することができます。

ワンタッチスタートボタンを使う

【 】ボタン、【 】ボタン

【 】ボタン、【 】ボタンを押すと、本機の電源がONの状態、OFFの状態にかかわらず、すぐにアプリケーションを起動するように設定できます。

参照 ▶ ワンタッチスタートボタン 「各部の名称」(p.16)

購入時は、それぞれのボタンを押すと「インターネット接続ウィザード」が起動します。

起動するアプリケーションを変更したい場合は、「ワンタッチスタートボタンの設定」で行います。

チェック!! Windows 98のMS-DOSモードで起動した場合や、セーフモードなど、Windowsのキーボードドライバが動作しない状態では、ワンタッチスタートボタンの機能は使えません。

ワンタッチスタートボタンの設定を変更する

「ワンタッチスタートボタンの設定」では、どのアプリケーションをワンタッチスタートボタンで起動させるかを設定できます。

ワンタッチスタートボタンでは、アプリケーションを「同時」または「順次」に起動することもできます。「同時」は、ひとつのボタンに複数のアプリケーションを割り当てて一度に起動する方法です。「順次」は、はじめに登録したアプリケーションを終了すると次のアプリケーションが順次起動する方法です。

「ワンタッチスタートボタンの設定」を起動する

- 1 「スタートボタン」「プログラム」「ワンタッチスタートボタンの設定」「ワンタッチスタートボタンの設定」をクリックする
「ワンタッチスタートボタンの設定」画面が表示されます。

インジケータ領域(タスクトレイ)にあるをダブルクリックして起動することもできます。

参照 ワンタッチスタートボタンの設定 「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」

「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」は、「スタートボタン」「プログラム」「ワンタッチスタートボタンの設定」「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」をクリックすると表示できます。

アプリケーションを割り当てる

ここでは、例として【】ボタンに「メモ帳」を割り当てる方法を説明します。

チェック!! ショートカット(拡張子が.Inkのファイル)で、プロパティの「ショートカット」タブの「リンク先」に何も表示されていないファイルは、ワンタッチスタートボタンに登録してもショートカットが実行されません。
登録後正常に実行されない場合は、そのショートカットを右クリックし、プロパティの内容を確認してください。

- 1 「ワンタッチスタートボタンの設定」を起動する
- 2 「ボタン設定」タブをクリックする
- 3 「ボタン1」の下のをクリックする
- 4 「スタートメニュー」タブをクリックする
- 5 「プログラム」フォルダをダブルクリックする
- 6 「アクセサリ」フォルダをダブルクリックする
- 7 「メモ帳.Ink」を「プログラム1」ボックスにドラッグ&ドロップする
- 8 「OK」ボタンをクリックする
- 9 「OK」ボタンをクリックする
- 10 「はい」ボタンをクリックする

ワンタッチスタートボタンの有効 / 無効を切り替える

次の操作でワンタッチスタートボタンの有効 / 無効を切り替えることができます。

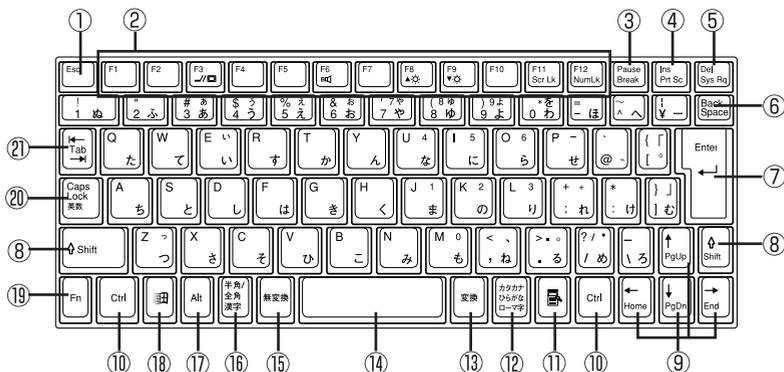
- 1** 「スタート」ボタン「プログラム」「ワンタッチスタートボタンの設定」で、「ワンタッチスタートボタンを無効にする」または「ワンタッチスタートボタンを有効にする」をクリックする
ワンタッチスタートボタンが無効の状態のときは「ワンタッチスタートボタンを有効にする」が表示され、有効の状態のときは「ワンタッチスタートボタンを無効にする」が表示されています。
- 2** ワンタッチスタートボタンを有効または無効にするメッセージが表示されたら「はい」ボタンをクリックする
- 3** 再起動を促すメッセージが表示されたら「はい」ボタンをクリックする
パソコンが再起動します。

再起動後、ワンタッチスタートボタンの有効 / 無効が切り替わります。

キーボード

キーボードの基本的な使い方を説明します。

キーの名称



- ①【Esc】: エスケープキー
- ②【F1】～【F12】: ファンクションキー
- ③【Pause】: ポーズキー
- ④【Ins】: インサートキー
- ⑤【Del】: デリートキー
- ⑥【Back Space】: バックスペースキー
- ⑦【Enter】: エンターキー(リターンキー)
- ⑧【Shift】: シフトキー
- ⑨【**X X X**】: カーソル移動キー
- ⑩【Ctrl】: コントロールキー
- ⑪【**☰**】: アプリケーションキー
- ⑫【カタカナ ひらがな】: かなキー
- ⑬【変換】: 変換キー
- ⑭スペースキー
- ⑮【無変換】: 無変換キー
- ⑯【半角/全角】: 半角/全角キー
- ⑰【Alt】: オルトキー
- ⑱【**☰**】: Windowsキー
- ⑲【Fn】: エフエヌキー
- ⑳【Caps Lock】: キャップスロックキー
- ㉑【Tab】: タブキー

キーの使い方

特殊なキーの使い方

キー操作	説明
【Shift】+【Caps Lock】	一度押すとキャップスロックキーランプが点灯し、アルファベットを入力すると大文字が入力されます。 もう一度押すとキャップスロックキーランプが消灯し、アルファベットを入力すると小文字が入力されます。
【Alt】+【半角 / 全角】 または 【半角 / 全角】	一度押すと日本語入力システムがオンになり、日本語が入力できるようになります。 もう一度押すと日本語入力システムがオフになり、日本語が入力できなくなります。
【Alt】+【カタカナ ひらがな】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すとかな入力モードになり、キー上面のかな文字で日本語を入力できるようになります。もう一度押すとローマ字入力モードになり、キー上面のアルファベットの組み合わせで日本語を入力できるようになります。
【Caps Lock】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すと英数字が入力されるようになります。
【カタカナ ひらがな】	日本語入力システムがオンになっていて英数字が入力されるモードになっているとき、一度押すとひらがなやカタカナを入力できるようになります。
【Fn】	他のキーと組み合わせて機能を実行します(p.25)

ホットキー機能【Fn】の使い方

【Fn】と他のキーを組み合わせることで、本機の設定をキー操作で簡単に調整することができます。これをホットキー機能といいます。

組み合わせが可能なキーとその機能を表すアイコンは【Fn】と同じ色（黄）でキー上面に印字されているものもあります。

キー操作	機能	説明
【Fn】+【F3】	ディスプレイの切り替え —//□	別売のCRTディスプレイが接続されているとき、キーを押すごとに、「液晶ディスプレイとCRTの同時表示」「テレビ」「液晶ディスプレイ」「CRT」の順に切り替わります（ p.144 ）
【Fn】+【F5】	画面の伸縮	低解像度時に、ディスプレイの画面を拡大表示する/しないを切り替えます。
【Fn】+【F6】	ビープ音の調節 	ビープ音のオン/オフを設定します。
【Fn】+【F8】	輝度を上げる 	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します（8段階）。
【Fn】+【F9】	輝度を下げる 	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します（8段階）。
【Fn】+【F11】	スクロールロック	【Scr Lk】の役割
【Fn】+【F12】	ニューメリックロック	一度キーを押すとニューメリックロックキーランプが点灯し、キー上段に青で表示されている数字や記号を入力できるようになります。もう一度押すとニューメリックロックキーランプが消灯し、通常の文字が入力できるようになります。
【Fn】+【Pause】	Break	【Break】の役割
【Fn】+【Ins】	プリントスクリーン	【Prt Scr】の役割
【Fn】+【Del】	システムリクエスト	【Sys Rq】の役割
【Fn】+【↑】	Page Up	【PgUp】の役割
【Fn】+【↓】	Page Dn	【PgDn】の役割
【Fn】+【↵】	Home	【Home】の役割
【Fn】+【↵】	End	【End】の役割
【Fn】+【Alt】	右Alt	右【Alt】の役割
【Fn】+【  】	右Windows	右【  】の役割

:テレビが接続されているときのみ切り替わります。

【Fn】+【F3】～【F12】で設定した内容は、電源を切ったり再起動したりすると解除されます（【Fn】+【F6】、【F8】、【F9】を除く）

キーボードの設定をする

1 「コントロールパネル」を開き、「キーボード」アイコンをダブルクリックする

「キーボードのプロパティ」が表示されます。

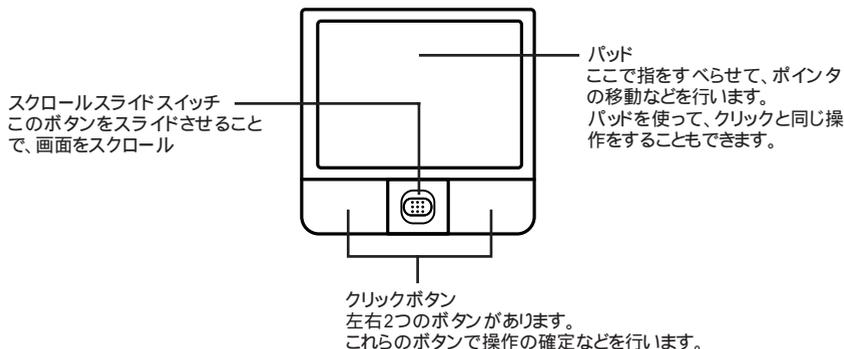
「キーボードのプロパティ」ウィンドウでは、ウィンドウ左上の各タブを選択すると、キーボードの設定を行うことができます。

それぞれの設定について詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

NXパッド

本機には、ポインティングデバイスとしてNXパッドが内蔵されています。NXパッドは、コントロールパネルを使ってより使いやすいように設定できます。

NXパッドの使い方



・クリックボタン

画面上のボタンやアイコンにポインタをあわせて、左のクリックボタンを押すことを「クリック」、すばやく2回続けて押すことをダブルクリックといいます。右のクリックボタンを1回押すことを右クリックといいます。

・パッド

パッド上で指を動かすと、指の動きにあわせて画面上のポインタカーソルが動きます。

パッドを指先で軽くたたくと、クリックボタンを押したときと同じ操作になります。また、2回連続してパッドをたたくと、ダブルクリックと同じ操作になります。パッドを軽くたたいて、クリックと同じ操作をすることをタップといいます。

ドラッグするときは、アイコンやフォルダの上にポインタをあわせ、左クリックボタンを押したまま、パッドの上で指を動かします。クリックボタンを使わずに、アイコンやフォルダにポインタをのせた状態で、パッドを軽くたたき、そのまま指を動かしてドラッグすることもできます。

・スクロールスライドスイッチ

画面に表示されていない部分をスクロールして表示させたり、画面を拡大したり、縮小することができます。

NXパッドの便利な使い方

タップやパッドのみでのドラッグなどのほかにも、次のような便利な使い方できます。

- ・パッド上で指をすべらせることで画面をスクロールさせる(パッド上にスクロール領域を設定します)
- ・キーボードからの入力時に、間違えてタップしたりポインタが動くことがないようにNXパッドを無効にしておく
- ・NXパッドを一時的にオンまたはオフにする設定
- ・画面回転機能を利用するとき(Windows 2000のみ)

これらの機能を利用するためには、NXパッドドライバをインストールする必要があります。インストール手順については、「NXパッドドライバをインストールする」(p.29)をご覧ください。

スクロールスライドスイッチを使う

スクロールスライドスイッチを使うと、画面を上下左右にスクロールさせたり、画面を拡大縮小させることができます。

-  **チェック!!** スクロールスライドスイッチの機能に対応していないアプリケーションではスクロールスライドスイッチを使用できません。

画面を上下方向にスクロールさせる

1 アプリケーションの上下スクロールバーがある画面をクリックする

2 スクロールスライドスイッチをパッド側、または手前側にスライドさせる

パッド側にスライドさせると画面が上にスクロールし、手前側にスライドさせると画面が下にスクロールします。

スクロールスライドスイッチをスライドさせたままにすると、連続して画面をスクロールさせることができます。

-  **チェック!!** スクロールスライドスイッチを押した状態でスライドさせようとしてもスクロールしないことがあります。スクロールさせるときは、スクロールスライドスイッチを押さずに軽く指をおいてスライドさせてください。

画面を上下、左右方向にスクロールさせる

1 スクロールさせたい画面にポインタを移動する

2 スクロールスライドスイッチを押す

画面がスクロールできる方向に応じて、ポインタの形がやに変わります。

チェック!! スクロールスライドスイッチを押すときは、スイッチをスライドさせないように注意してください。スライドさせた場合、通常の上下方向のスクロール機能が働きます。

3 ポインタの形が変わったら、パッドを使ってスクロールさせる
パッド上で指をすべらせた方向にスクロールします。

パッドによるスクロールを終了したい場合は、もう一度、スクロールスライドスイッチを押してください。ポインタの形が元に戻ります。

ズーム機能を使う

1 拡大、縮小したい画面にポインタを動かす

2 キーボードの【Ctrl】を押したまま、スクロールスライドスイッチをパッド側、または手前側にスライドさせる

パッド側にスライドさせると画面の表示が拡大され、手前側にスライドさせると縮小します。

NXパッドドライバをインストールする

Windows Me / Windows 98の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

2 「デバイスマネージャ」タブをクリックする

3 「マウス」の左のをクリックする

4 現在セットアップされているマウスを選択し、「プロパティ」ボタンをクリックする

5 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする
「デバイスドライバの更新ウィザード」が起動します。

6 次の操作を行う

- ・ Windows Meの場合
「ドライバの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- ・ Windows 98の場合
「次へ」ボタンをクリックする

7 次のものを選択し、「次へ」ボタンをクリックする

- ・ Windows Meの場合
「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」
- ・ Windows 98の場合
「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」

8 「ディスク使用」ボタンをクリックする

9 「C: ¥NXPAD」と入力し、「OK」ボタンをクリックする

10 「モデル」のリストの中から「NX PAD」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
「NX PAD」が複数表示されている場合は、一番上の「NX PAD」を選択してください。

 **チェック!!** 「ドライバ更新の警告」画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックします。

11 「次へ」ボタンをクリックする
ファイルのコピーが行われます。
この操作以降は、マウスポインタが動かない場合があります。その場合は、キーボードで操作してください。

- 12 「完了」ボタンをクリックする
- 13 再起動を促すメッセージが表示された場合は、「いいえ」ボタンをクリックする
- 14 「NX PADのプロパティ」または「NX PADプロパティ」画面の「閉じる」ボタンをクリックする
- 15 「システムのプロパティ」画面の「閉じる」ボタンをクリックする
- 16 本機を再起動する
再起動後、設定が有効になります。

 **チェック!!** 再起動後、ポインタが動かない場合は【Ctrl】を押しながら【Esc】を押して「スタート」メニューを表示させ、Windowsを起動しなおしてください。
項目の変更はカーソル移動キー、項目の選択は【Enter】で行うことができます。

Windows 2000の場合

- 1 「Administrator」でログオンする
- 2 使用中のアプリケーションをすべて終了する
- 3 「コントロールパネル」を開き、「マウス」アイコンをダブルクリックする
- 4 「ハードウェア」タブをクリックし、現在使用しているマウスを選択してから「プロパティ」ボタンをクリックする
現在使用しているマウスのプロパティ画面が表示されます。
- 5 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする
- 6 「次へ」ボタンをクリックする
- 7 「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」を選択して、「次へ」ボタンをクリックする

- 8 「ディスク使用」ボタンをクリックする
- 9 「参照」ボタンをクリックする
- 10 「ファイルの場所」に「C:¥WIN2K¥NXPAD」フォルダを指定する
- 11 「Apfiltr.inf」を選択してから「開く」ボタンをクリックする
- 12 「OK」ボタンをクリックする
- 13 「NX PAD」をクリックし、「次へ」ボタンをクリックする
- 14 「次へ」ボタンをクリックする
必要なファイルがコピーされます。
「デジタル署名が見つかりませんでした」画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。
- 15 「完了」ボタンをクリックする
- 16 「閉じる」ボタンをクリックする
「システム設定の変更」画面が表示されます。
- 17 「はい」ボタンをクリックする
本機が再起動します。

NXパッドの設定をする

WindowsでNXパッドをより使いやすく設定することができます。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「マウス」アイコンをダブルクリックする
「マウスのプロパティ」が表示されます。

「マウスのプロパティ」ウィンドウでは、ウィンドウの左上の各タブを選択すると、NXパッドの設定を行うことができます。

それぞれの設定について詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください

内蔵ハードディスク

ハードディスクとはWindowsやアプリケーションなどのソフトウェアや、作成したデータを磁気的に記録して、読み出すための装置です。

ハードディスク使用上の注意

本機に内蔵されているハードディスクは、非常に精密に作られています。特に、データの読み書き中(アクセスランプの点灯中)には、少しの衝撃が故障の原因になる場合がありますので、ご注意ください。

ハードディスクが故障すると、大切なデータが一瞬にして使えなくなってしまうことがあります。

特に、自分で作成したデータなどは、再セットアップしても元どおりにはできません。大切なデータは、フロッピーディスクやCD-R、CD-RWなどの、ハードディスク以外の媒体に定期的にバックアップ(コピー)をとっておくことをおすすめします。

FAT32ファイルシステムを使用するときの注意

FAT32を使用するときは、次の注意事項を確認してから使用してください。

- ・ FAT32はWindows Me、またはWindows 98モデルにインストールされているWindows Me、Windows 98で使うことができます。
- ・ 別売のソフトウェアによっては正しく動作しないことがあります。
- ・ スキャンディスク、バックアップ、およびデフラグなど、「アクセサリ」の「システムツール」にあるディスク管理ツールはFAT32に対応しています。ただし、「ドライブスペース」でFAT32のドライブを圧縮することはできません。

ハードディスクの購入時の状態

購入時、本機のハードディスクは次のように領域確保されています。

	Cドライブ	Dドライブ
Windows Meモデル	FAT32ファイルシステム (約4Gバイト)	FAT32ファイルシステム (残りの領域)
Windows 98モデル	FAT16ファイルシステム (約2Gバイト)	FAT32ファイルシステム (残りの領域)
Windows 2000 Professionalモデル	FAT32ファイルシステム (約4Gバイト)	NTFSファイルシステム (残りの領域)

領域の確保とフォーマット

ハードディスクの領域を削除した場合や、外付けのハードディスクを増設した場合などには、ハードディスクの領域の確保とフォーマットが必要です。

Windows Me / Windows 98の場合

領域の確保

- 1 「MS-DOSプロンプト」画面でFDISKと入力し【Enter】を押す
 - 2 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N)」と表示されたら【Y】を選んで【Enter】を押す
FAT32ファイルシステムで領域を作成します。より効率よく大容量ハードディスクを利用することができます。
FAT32について詳しくは、「FAT32ファイルシステムの利用」(p.38)
をご覧ください。
Nを入力した場合はFAT16ファイルシステムで領域を作成します。最大2Gバイトまでの容量をひとつのドライブとして扱えます。
 - 3 【1】を入力し【Enter】を押す
領域を作成する画面が表示されます。
 - 4 【2】を入力し【Enter】を押す
「領域のサイズをMバイトか全体に対する割合(%)で入力してください。拡張MS-DOS領域を作ります」と表示されます。
-  **チェック!!** 確保される領域は入力した領域サイズよりも大きくなる場合があります。例えば、FAT16で2,047Mバイトを取得しようとする、2,052Mバイト等の値になり、FAT16で取得できない場合があります。このような場合は、2,045Mバイト等、2,047Mバイトより小さい値で入力してください。
- 5 【Enter】を押す
「拡張MS-DOS領域を作成しました。」と表示されます。
 - 6 【Esc】を押す
「論理ドライブのサイズをMバイトか全体に対する割合(%)で入力してください」と表示されます。

- 7 サイズを入力して【Enter】を押す
「論理MS-DOSドライブを作成しました。ドライブ名は変更または追加されました」と表示されます。
- 8 拡張MS-DOS領域がなくなるまで手順9を繰り返し、すべての拡張MS-DOS領域を論理ドライブに割り当てる
「拡張MS-DOS領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに割り当てられています」と表示されます。
- 9 【Esc】を3回押す
「C: ¥WINDOWS >」の表示に戻ります。
- 10 「EXIT」と入力し、【Enter】を押す
Windowsの画面に戻ります。
- 11 本機を再起動する

フォーマット

領域を確保したら、続いてハードディスクをフォーマットします。

 **チェック!!** すでに使用されているドライブをフォーマットすると、そのドライブに保存されていたデータがすべて消えてしまいます。フォーマットする際は、十分注意してください。

- 1 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックする
- 2 新たに領域を確保したドライブをクリックする
- 3 「ファイル」メニュー 「フォーマット」をクリックする
フォーマットの画面が表示されます。
- 4 「通常のフォーマット」をクリックする
- 5 「開始」ボタンをクリックする
確認の画面が表示されます。

6 「OK」ボタンをクリックする
フォーマットが始まります。
しばらくすると、フォーマットが終了してフォーマットの結果の画面が表示されます。

7 「閉じる」ボタンをクリックする
スキャンディスクの実行を促す画面とヘルプが表示されます。

参照 スキャンディスクについて 『活用ガイド ソフトウェア編』PART3の「ハードディスクのメンテナンス」

8 「OK」ボタンをクリックする

9 「フォーマット」の画面をクリックする

10 「閉じる」ボタンをクリックする

11 ヘルプの内容に従って、スキャンディスクを実行する

複数のドライブをフォーマットしたいときは、手順2～11の操作を繰り返してください。

Windows 2000の場合

ここでは、ハードディスクの拡張パーティションの作成と論理ドライブの作成について説明します。プライマリパーティションの作成方法などについては、「ディスクの管理」のヘルプをご覧ください。

領域の確保とフォーマット

1 「コントロールパネル」を開き、「管理ツール」アイコンをダブルクリックする
「管理ツール」ウィンドウが表示されます。

2 「コンピュータの管理」アイコンをダブルクリックする
「コンピュータの管理」ウィンドウが表示されます。

3 画面左側にある「ツリー」の中の「ディスクの管理」をクリックする
表示された画面で、ハードディスクの容量や領域、ファイルシステムを確認してください。

4 画面右下に表示されている「未割り当て」を選んで右クリックする

ハードディスクに未割り当ての部分がない場合は表示されません。すでに使用しているドライブのパーティションの削除などについては、「コンピュータの管理」のヘルプをご覧ください。

5 表示されたメニューから、「パーティションの作成」をクリックする 「パーティションの作成ウィザード」ウィンドウが表示されます。

6 「次へ」ボタンをクリックする

7 「拡張パーティション」の○をクリックして●にし、「次へ」ボタンをクリックする

拡張パーティションとして使用できる最小サイズと最大サイズが表示されます。

8 作成する拡張パーティションのサイズを入力して「次へ」ボタンをクリックする

指定されたサイズのパーティションが作成されます。

9 「完了」ボタンをクリックする

ハードディスクの未割り当て領域がなくなるまで手順4～9をくりかえし、すべての領域を割り当ててください。割り当てられた領域は、「ディスクの管理」ウィンドウでは「空き領域」と表示されます。続いてフォーマットを行います。

10 画面右下に表示されている「空き領域」を選んで右クリックする

✓チェック!! すでに使用しているドライブをフォーマットすると、そのドライブに保存していたデータがすべて消えてしまいます。フォーマットする際は、十分注意してください。

11 表示されたメニューから、「論理ドライブの作成」をクリックする 「パーティションの作成ウィザード」が表示されます。

12 「次へ」ボタンをクリックする

13 「次へ」ボタンをクリックする 論理ドライブとして使用できる最小サイズと最大サイズが表示されます。

14 作成する論理ドライブのサイズを入力し、「次へ」ボタンをクリックする

15 表示されたドライブ文字の割り当てを確認して「次へ」ボタンをクリックする

「パーティションのフォーマット」が表示されます。

16 フォーマットの設定を確認して「次へ」ボタンをクリックする
必要であれば、フォーマットの設定を変更してください。フォーマットがはじまります。

17 「完了」ボタンをクリックする
これで、フォーマットが完了しました。複数のドライブをフォーマットしたい場合は、手順10～17をくりかえしてください。

 **チェック!** ・新たにパーティションの作成を行った後、「コンピュータの管理」ウィンドウを閉じると「ワトソン博士」のエラーメッセージが表示される場合がありますが、新たなパーティションは使用できます。

・「パーティションの作成ウィザード」の項目を入力し、「完了」をクリックすると、新しいパーティションの作成後、「ボリュームは開かれているか、または使用中です。要求を完了できません。」というようなメッセージが表示される場合があります。この場合は、以下の手順でパーティションの初期化を行ってください。

新たに作成したパーティションを右クリックし、「フォーマット」をクリックする
項目を設定し、「OK」ボタンをクリックする
「OK」ボタンをクリックする

FAT32ファイルシステムの利用

FAT32を利用するには

FAT32を利用するには、「FDISK」コマンドを使用してFAT32ファイルシステムで領域を作成します。

また、Windows 98では「ドライブコンバータ (FAT32)」を利用することで、FAT16のドライブをFAT32に変換することもできます。「ドライブコンバータ (FAT32)」について詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

- 1 「MS-DOSプロンプト」画面でFDISKと入力し【Enter】を押す
- 2 【Y】を押して【Enter】を押す
- 3 領域を作成する
512Mバイト以上の領域を作成すると、その領域にはFAT32が適用されます。作成した領域が512Mバイトよりも小さいときには自動的にFAT16が適用されます。
- 4 「FDISK」を終了し、本機を再起動する
- 5 作成したドライブをフォーマットする

ハードディスクのメンテナンス

本機には、ハードディスクの障害を検出したり、アクセス速度を保つためのメンテナンスソフトが組み込まれています。

ハードディスクに障害や断片化があった場合、可能な範囲で修復することができます。

参照▶ ハードディスクのメンテナンス 『活用ガイド ソフトウェア編』PART3の「ハードディスクのメンテナンス」

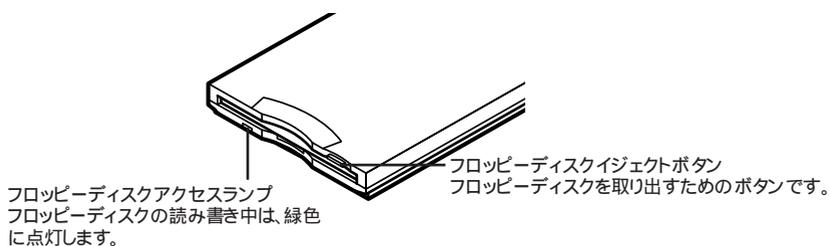
フロッピーディスクドライブ

本機には外付3.5インチフロッピーディスクドライブが1台添付されています。

フロッピーディスクドライブの取り付け方と取り外し方

本機でフロッピーディスクを使用する場合は、添付のフロッピーディスクドライブをUSBコネクタに取り付けます。フロッピーディスクドライブをUSBコネクタに取り付ける / 取り外す手順については「USBコネクタに接続する」(p.166)をご覧ください。

各部の名称と役割



使用できるフロッピーディスクの種類

本機では、次の形式のフロッピーディスクでデータの読み書きやフォーマット、ディスクコピーを行うことができます。

ディスクの種類	容量	読み書き	フォーマット	ディスクコピー
フロッピーディスク (2DD)	640KB	×	×	×
	720KB			
フロッピーディスク (2HD)	1.2MB		×	×
	1.44MB			

○ : 使用可能

× : 使用不可

使用上の注意

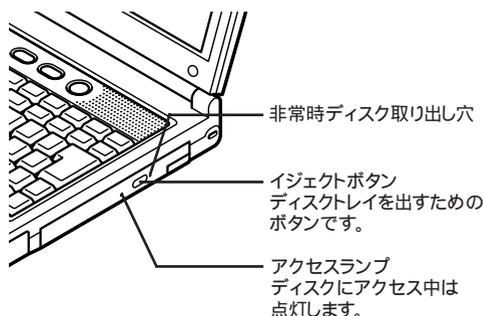
- ・本機では、PC-9800シリーズのパソコンでフォーマットされたフロッピーディスクを使ってシステムを起動することはできません。
- ・「ディスクのコピー」のコピー先のフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたものを使用してください。
- ・フォーマットしていないフロッピーディスクをマイコンピュータなどで選択すると、フロッピーディスクドライブのアクセスランプが点灯し続けたり、フォーマットしようとするフォーマット開始までの時間が長くなる場合があります。これは、フロッピーディスクの種類を判別しているためなので、処理が開始されるまでしばらくお待ちください。
- ・Windows MeまたはWindows 98を使用している場合、MS-DOS Ver.6.2以前のFORMATコマンドでフォーマットしたフロッピーディスクを、MS-DOSプロンプトからDISKCOPYコマンドでディスクコピーすることはできません。「マイコンピュータ」の「3.5インチFD」アイコンを右クリックし、「メニュー」から「ディスクのコピー」を実行してください。
- ・Windows MeまたはWindows 98を使用している場合、2DDのフロッピーディスクを720KBでフォーマットしたときは、いったんフロッピーディスクを取り出し、もう一度入れ直してから使用してください。フォーマット後に、フロッピーディスクを入れ直さずにファイルを書き込もうとすると、フォーマットが正常に終了していても、エラーが発生する場合があります。クイックフォーマットされたフロッピーディスクの場合は、この手順は必要ありません。
- ・Windows Meを使用している場合、1.2MBでフォーマットされたフロッピーディスクを1.44MBでフォーマットしなおすことはできません。
- ・フロッピーディスクドライブの上に重いものを置いた状態で、保管したり使用したりしないでください。フロッピーディスクドライブの破損や故障の原因になることがあります。
- ・フロッピーディスクを書き込み、または読み取り中は、フロッピーディスクアクセスランプが点灯します。アクセスランプ点灯中は、絶対にフロッピーディスクを取り出さないでください。ドライブの故障やデータの不具合の原因となります。

CD-ROMドライブ・CD-R/RWドライブ・ CD-R/RW with DVD-ROMドライブ

ここでの説明は、CD-ROMモデル、CD-R/RWモデル、CD-R/RW with DVD-ROMモデルのものです。

CD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブはVersaBay IVに内蔵されています。これらの機器を取り外して、別売の機器などに交換することもできます(p.162)

各部の名称と役割



イジェクトボタンやアクセスランプ、非常時ディスク取り出し穴の位置や形状は、モデルによってイラストと多少異なることがあります。

使用できるディスク

	再生		読み込み		書き込み	書き換え
	音楽CD、 ビデオCD、 フォトCD	DVD VIDEO ディスク	CD-ROM、 CD-R、 CD-RW	DVD-ROM	CD-R、 CD-RW	CD-RW
CD-ROMドライブ		×		×	×	×
CD-R/RWドライブ		×		×		
CD-R/RW with DVD-ROMドライブ						

:使用可能

×:使用不可

- チェック!!** DVD VIDEOディスクは、リージョンコード(国別地域番号。日本は2です)によって管理されているため、リージョンコードが2もしくはフリーに設定されているディスクのみ再生することができます。海外で購入したDVD VIDEOディスクについては、特にこの点に注意してください。

使用上の注意

ここではCD-ROMドライブを例に説明しています。

CD-R/RWドライブやCD-R/RW with DVD-ROMドライブをお使いの場合は、「CD-ROMドライブ」をお使いのドライブに読み替えてください。

- ・CD-ROMドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによってデータが正しく読み取れなくなるおそれがあります。
- ・アクセスランプが点灯しているときは、ディスクを絶対に取り出さないでください。本機の故障の原因となります。
- ・ラベルが貼ってあるなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、本機の操作中に手に振動を感じることがあります。これは故障の原因となるため、ディスクの盤面にはラベルやテープなどを貼らないでください。
- ・Windows 98で「CDプレーヤー」を使用する場合、CD-ROMドライブにディスクをセットしていない状態では、「CDプレーヤー」の「取り出し」ボタンを押してもCD-ROMドライブのトレイは出てきません。トレイを出すためには、CD-ROMドライブのイジェクトボタンを押すか、または「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックして対象となるCD-ROMドライブのアイコンを右クリックし、「取り出し」メニューを選択してください。

非常時のディスクの取り出し方

ソフトウェアの暴走など不慮の原因で、CD-ROMドライブのイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこなくなった場合は、非常時ディスク取り出し穴に太さ1.3 mm程の針金を押し込むと、トレイを手動で引き出すことができます。針金は太めのペーパークリップなどを引き伸ばして代用できます。

- チェック!!**
- ・非常時ディスク取り出し穴の位置や形状は、モデルによって多少異なることがあります。
 - ・CD-ROMドライブのイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない、といった非常時以外は、非常時ディスク取り出し穴を使って取り出さないようにしてください。

Virtual CD 2を使う

ここでは、Windows MeモデルおよびWindows 98モデルに添付されているVirtual CD 2について説明しています。

ここではCD-ROMドライブを例に説明しています。

CD-R/RWドライブやCD-R/RW with DVD-ROMドライブをお使いの場合は、「CD-ROMドライブ」をお使いのドライブに読み替えてください。

Virtual CD 2は、パソコンに仮想CD-ROMドライブを追加して、そのドライブで使用できる仮想CDを作成し、利用するためのアプリケーションです。作成した仮想CD-ROMドライブは、Windows上で通常のCD-ROMドライブを扱うような感覚で利用できます。

仮想CDとは、CD-ROMや音楽CDの内容をハードディスク上に1つのファイルとしてまとめたもので、Virtual CD 2によって追加された仮想CD-ROMドライブで使用することができます。

 **チェック!!** Virtual CD 2は、購入時にはインストールされていません。Virtual CD 2を使用する場合は、添付の「アプリケーションCD-ROM」を使ってインストールしてください。

 **参照** Virtual CD 2のインストール 「活用ガイド ソフトウェア編」の「PART2 添付アプリケーションの追加と削除」

Virtual CD 2のおもな機能

Virtual CD 2には次のような機能があります。

- ・ 仮想CD-ROMドライブとハードディスクドライブ上の仮想CDを使用することで、CD-ROMなどのディスクを利用するたびに入れ替えたり、外出時に持ち歩いたりする必要がなくなります。
- ・ ハードディスクドライブ上の仮想CDを使用するので、通常のCD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブにくらべて高速にデータの読み出しができます。
- ・ 仮想CD-ROMドライブを最大20台まで追加して使用できます。また、複数の仮想CD-ROMドライブを同時に使用できます。
- ・ 通常のCD-ROMだけでなく、音楽CDを仮想CDにすることができます。
- ・ 仮想CDは必要に応じてデータを圧縮できるので、ハードディスクの容量に応じて作成することができます。

Virtual CDマネージャの起動と終了

Virtual CDマネージャは、仮想CDを作成したり、仮想CD-ROMドライブに作成した仮想CDをセットしたり、取り出すときに利用します。

起動する

次の手順で起動してください。

- 1 「スタート」ボタン「プログラム」「Virtual CD」「Virtual CDマネージャ」をクリックする
著作権についての注意事項が書かれた画面が表示された場合は、「OK」ボタンをクリックしてください。「Virtual CDマネージャ」が表示されます。

インジケータ領域(タスクトレイ)に表示されている  をダブルクリックして起動することもできます。

終了する

Virtual CDマネージャを終了するときは、「Virtual CDマネージャ」画面の  をクリックしてください。

仮想CD-ROMを作成する

CD-ROMなどを仮想CD-ROMドライブで使用するには、CD-ROMから仮想CD-ROM(VCDファイル)を作る必要があります。仮想CD-ROMの作成は次の手順で行います。

- 1 仮想CD-ROMとして作成したいCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする
- 2 「Virtual CDマネージャ」を起動する
- 3 ツールバーの  をクリックする
「仮想CD-ROMの作成」の画面が開きます。
- 4 「オリジナルCD-ROMの指定」欄の「オリジナルのCD-ROMが挿入されているCDドライブ」が、CD-ROMをセットしたドライブになっていることを確認する
ドライブが違っている場合は、 をクリックして正しいドライブを選んでください。

- 5 「仮想CD-ROMの作成方法」の「ドライブの指定」で仮想CDを作成するドライブを選ぶ
- 6 「仮想CD-ROMのファイル名」および「仮想CD-ROMの説明」欄に、ファイル名や作成する仮想CDの情報を入力する
- 7 データ圧縮を行う場合は、「仮想CD-ROMを圧縮する」をにして、圧縮の比率を選ぶ
- 8 「仮想CD-ROM作成開始」ボタンをクリックする
- 9 「Virtual CD マネージャ」画面で「はい」ボタンをクリックする
仮想CD-ROMの作成がはじまります。
- 10 「現在の状況」欄に「仮想CDの作成が完了しました。」と表示されたら「OK」ボタンをクリックする

作成した仮想CDを使う

仮想CDをセットする

- 1 「Virtual CDマネージャ」を起動する
- 2 左側の「仮想ドライブ」ウィンドウで使用する仮想CD-ROMドライブを選ぶ
- 3 右側のウィンドウで使用する仮想CDを選ぶ
- 4 ツールバーのをクリックする

仮想CDを使う

「仮想CDをセットする」の手順にしたがってセットしたあとは、通常のCD-ROMドライブにCD-ROMがセットされているのと同じように、仮想CD-ROMドライブを使用することができます。

仮想CDを取り出す

- 1 「Virtual CDマネージャ」を起動する
- 2 左側の「仮想ドライブ」ウィンドウで仮想CDを取り出したい仮想CD-ROMドライブを選ぶ
- 3 ツールバーのをクリックする

参照 Virtual CD 2の詳しい使い方について「Virtual CD 2 マニュアル」

「Virtual CD 2 マニュアル」は、「スタート」ボタン「プログラム」
「Virtual CD」 「Virtual CD 2 マニュアル」をクリックすると表示されるオンラインのマニュアルです。

「Virtual CD 2 マニュアル」を閲覧するには、Acrobat Readerが必要です。インストールされていない場合は、『活用ガイド ソフトウェア編』の「PART2 添付アプリケーションの追加と削除」を閲覧になり、インストールを行ってください。



液晶ディスプレイ

本機の液晶ディスプレイの表示を調整する方法や、表示できる解像度と表示色について説明しています。

画面表示を調整する

表示を調整する

本機では、キーボードを使って輝度や画面の調整を行います。輝度は8段階で調整することができます。

機能	キー操作	説明
画面の伸縮	【Fn】+【F5】	低解像度時に、ディスプレイの画面を拡大表示する/しないを切り替えます。
輝度を上げる ▲☀	【Fn】+【F8】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します。
輝度を下げる ▼☀	【Fn】+【F9】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します。

:購入時には拡大表示に設定されています。

表示できる解像度と表示色

本機の液晶ディスプレイは、標準で次の解像度と表示色を表示できます。

解像度 (ドット)	表示色	本機の液晶 ディスプレイ のみに表示	別売のCRT ディスプレイ のみに表示	本機の液晶 ディスプレイ と別売のCRT ディスプレイ の同時表示 ¹	TVのみ
640 × 480	26万色中256色				
	65,536色				
	1,677万色 ²				
800 × 600	26万色中256色				
	65,536色				
	1,677万色 ²				
1,024 × 768	26万色中256色				
	65,536色 ³				
	1,677万色 ²				
1,280 × 1,024	26万色中256色		4		
	65,536色		4		
	1,677万色 ²		4		
1,600 × 1,200	26万色中256色		4		
	65,536色		4		
	1,677万色 ²		4		

: 【Fn】を押しながら【F5】を押して拡大 / 縮小切り替え可能 縮小表示の場合、画面のまわりが黒く表示される)

: フルスクリーン表示可能

: Windows MeまたはWindows 98の場合のみ、バーチャルスクリーンで表示可能

1: 別売のCRTディスプレイ未接続時は本機の液晶ディスプレイのみに表示される

2: 本機の液晶ディスプレイでは、ウィンドウアクセラレータのデザイン機能により実現

3: 購入時の設定

4: Windows 2000で使用中、【Fn】+【F3】で切り替えを行った場合、画面のプロパティで表示色数、解像度を再設定してください。

解像度と表示色を変更する

ディスプレイの解像度と表示色はコントロールパネルで設定します。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックする
- 3 画面の領域または色を変更する

画面の領域を変更する場合

「画面の領域」でつまみを「大」の方向へドラッグすると高解像度に、「小」の方向にドラッグすると低解像度になります。

 **チェック!!** 設定により、マニュアルに記載されていない解像度を選択することができる場合がありますが、動作を保証するものではありません。必ずマニュアルに記載されている解像度で使用してください。

色を変更する場合

「色」または「画面の色」で▼をクリックし、選択一覧から変更します。この選択一覧には、使用している液晶ディスプレイとディスプレイアダプタが対応しているカラーパレットが一覧表示されます。

- 4 設定が終了したら、「OK」ボタンをクリックする
このあとは、画面の指示に従って操作してください。

バーチャルスクリーン(Windows 2000を除く)

バーチャルスクリーンとは、実際に表示可能な解像度よりも大きい解像度を使用できるようにするための仮想画面のことです。バーチャルスクリーンでは、仮想画面全体のサイズが実際のディスプレイの画面より大きくなるので、ディスプレイには常に仮想画面の一部が表示されている状態となります。画面をスクロールすると、ディスプレイの画面上で見えていない部分を表示することができます。

バーチャルスクリーンでは、「スタート」ボタンがディスプレイの画面上から外れ、表示されないことがあります。ディスプレイの画面上の見えていない部分を見るには、ポインタをディスプレイの画面の端に移動させます。ポインタの移動した方向に画面がスクロールし、見えなかった部分が表示されます。

バーチャルスクリーンモードの設定方法

バーチャルスクリーンモードを使用する場合には、次の設定が必要です。

- 1** 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする
- 3** 「モニタ」タブをクリックし、「変更」ボタンをクリックする
「デバイスドライバの更新ウィザード」が表示されます。
- 4** 次の操作を行う
 - ・ Windows Meの場合
「ドライバの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
 - ・ Windows 98の場合
「次へ」ボタンをクリックする

5 次のものを選択し、「次へ」ボタンをクリックする

- ・ Windows Meの場合
「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」
- ・ Windows 98の場合
「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」

6 「すべてのハードウェアを表示」を選択する

7 「製造元」欄で「(標準モニタの種類)」を選択し、「モデル」欄の「Super VGA 1600 × 1200」をクリックする

8 「次へ」ボタンをクリックし、再び「次へ」ボタンをクリックする

9 「完了」ボタンをクリックし、「閉じる」ボタンをクリックする

10 「OK」ボタンをクリックする これで設定が完了しました。

この後は、画面の指示に従って操作してください。上記の設定をした後は、「設定」タブで、次の解像度を設定できるようになります。

640 × 480ドット / 800 × 600ドット / 1,024 × 768ドット / 1,280 × 1,024ドット / 1,600 × 1,200ドット

デュアルディスプレイ機能

ここではWindows MeモデルおよびWindows 98モデルのみの機能について説明しています。

デュアルディスプレイ(Dual Display)とは、CRTディスプレイなどの外部ディスプレイを接続したときに、本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイを使ってひとつの画面として表示できる機能です。液晶ディスプレイと外部ディスプレイを続き画面として利用できるので、表示できる範囲が広がります。

デュアルディスプレイ機能は、同じ画面を2つのディスプレイに表示するのとは別の機能です。

 **チェック!!** 画面の解像度によっては、デュアルディスプレイ表示にならない場合があります。

参照▶ 別売のCRTディスプレイなどを接続するには「外部ディスプレイ」(p.141)

デュアルディスプレイ機能を使う準備をする

画面を表示するディスプレイのオン/オフ、プライマリ/セカンダリを次の手順にしたがって設定します。

- 1 別売のディスプレイを接続し、電源を入れる
- 2 本機の電源を入れる
- 3 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 4 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする
- 5 「ATI画面」タブをクリックする
「モニタ」パネル「テレビ」の接続状態が表示されます。
- 6 「モニタ」の左上のボタンをクリックする
接続したモニタへの表示がオンになります。

チェック!! 表示をすべてオフにすることはできません。どれかひとつはオンの状態になっています。

- 7 「モニタ」パネル」の下のボタンをクリックする
「プライマリ」ディスプレイ、「セカンダリ」ディスプレイが指定されます。

チェック!! すべてをセカンダリに設定することはできません。

接続が認識され、ディスプレイの表示がオンに設定されると、解像度とリフレッシュレート(水平同期周波数)が表示されます。

- 8 「OK」ボタンをクリックする

デュアルディスプレイ機能を使う

- 1** 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックする
- 3** 画面2の絵をクリックする
モニタの使用を確認するメッセージが表示されます。
- 4** 「はい」ボタンをクリックする
- 5** 「適用」ボタンをクリックする
これでデュアルディスプレイ機能を使うことができますようになります。

デュアルディスプレイ機能を解除する

- 1** 「デュアルディスプレイ機能を使う」の手順1～2を行う
- 2** 画面2の絵を右クリックする
- 3** 表示されたメニューから「使用可能」をクリックする
- 4** 「適用」ボタンをクリックする
これでデュアルディスプレイ機能は解除されました。

画面回転機能

画面回転機能により画面を90、180、270度(Windows 2000は180度のみ)に回転させることができます。本機の液晶ディスプレイをいっばいに開き、画面を180度回転させることにより、向かい側にいる人にプレゼンテーションを行うときなどに利用できます。

解像度(ドット)	表示色	回転機能
640 × 480	256色	×
	65,536色	○
	1,677万色(24ビット)	×
	1,677万色(32ビット)	×
800 × 600	256色	×
	65,536色	
	1,677万色(24ビット)	×
	1,677万色(32ビット)	
1,024 × 768	256色	×
	65,536色	
	1,677万色(24ビット)	×
	1,677万色(32ビット)	

○: 回転可能

×: 回転不可

- チェック!!**
- 次の機能使用時は、画面回転機能は使用できません。また、回転中に次の機能を使用することもできません。
 - パーチャルスクリーン機能
 - マルチモニタ機能
 - DVDビデオおよびその他のビデオ再生時(ハードウェアオーバーレイ)
 - 3Dアクセラレーション機能
 - MS-DOS プロンプト
 - 回転中は解像度や色数の変更を行わないでください。
 - 画面回転機能使用時には、CPUの使用率が通常時よりも上がるため、NXパッドがスムーズに動かないことや、音声付動画ファイル再生時に音飛びすることがあります。
 - 画面回転機能使用時には拡大マウスカーソル、アニメーションマウスカーソルは使用できません。

画面回転支援ユーティリティのセットアップ(Windows 2000のみ)

Windows 2000で画面回転機能を使うときに、画面回転支援ユーティリティを起動することで、NXパッドによるカーソル移動方向を画面回転機能を使用していないときと同じに保つことができます。画面回転支援ユーティリティを起動しない場合は、画面回転機能使用時のカーソル移動方向がNXパッドで操作した方向とは180度回転した状態になります。

- 1 「スタート」ボタン 「ファイル名を指定して実行」をクリックする
- 2 C: ¥NECUTILS¥CHGSCREEN¥CHANGESCREEN.EXEと入力して「OK」ボタンをクリックする

以上でセットアップは完了です。

画面回転支援ユーティリティを自動的に起動する

画面回転支援ユーティリティをスタートアップに登録しておく、画面回転支援ユーティリティを自動的に起動することができます。

- 1 「スタート」ボタン 「設定」「タスクバーとスタートメニュー」をクリックする
- 2 「詳細」タブをクリックし、「追加」ボタンをクリックする
- 3 C: ¥NECUTILS¥CHGSCREEN¥CHANGESCREEN.EXEと入力して「次へ」ボタンをクリックする
- 4 「スタートアップ」をダブルクリックする
- 5 「完了」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

以上で設定は完了です。

 **チェック!!** Windows 2000でカーソル移動方向調整の機能を使うためには、NXパッドドライバがインストールされている必要があります。

 **参照** NXパッドドライバについて 「NXパッドドライバをインストールする」(p.29)

画面回転機能を使う

- 1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックする
- 3 「詳細」ボタンをクリックする
- 4 「回転」タブをクリックする
- 5 それぞれの角度の左の○をクリックする
選択した角度に回転できるようになります。

ホットキーを使って回転することもできます。設定する角度に応じて、次のキーを押してください。

角度	ホットキー
標準(0度)	【Ctrl】+【Shift】+【Z】
90度	【Ctrl】+【Shift】+【[】
180度	【Ctrl】+【Shift】+【;】
270度	【Ctrl】+【Shift】+【]】

:Windows Me / Windows 98のみ回転可能。



バッテリー

本機は、ACアダプタを使用せずに、添付のバッテリーパックだけで駆動することができます。

バッテリーで本機を使うときの注意

- ✔ **チェック!!** ・バッテリーが十分に充電されているときは、特に必要でないかぎり、バッテリーパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因となります。
- ・充電を行う際にはできるだけフル充電するようにしてください。バッテリー残量が少ない場合などに少量の充放電を何度も繰り返して本機を使用すると、バッテリー残量に誤差が生じることがあります。
- ・ハードディスクやフロッピーディスクなどへの読み書き中にバッテリー残量がなくなり、電源が切れてしまうと、作成中のデータが失われたり、ハードディスクやフロッピーディスクなどのデータが失われたり、壊れたりすることがあります。

バッテリーの上手な使い方

- ・バッテリー残量の表示精度を良くするには定期的にバッテリーリフレッシュを実行してください（ p.61 ）
- ・本機を長期間使用しないときは、バッテリー残量を50%程度にしてバッテリーパックを取り外し、涼しいところに保管しておくことでバッテリーの寿命を長くすることができます。
- ・バッテリーだけで本機を長時間使用する場合は、本機の省電力機能を使用してください。

参照▶ 省電力機能について このPARTの「省電力機能」(p.68)

- ・バッテリーは、自然放電しています。本機を長期間使用しない場合でも、2～3カ月に一度は充電することをおすすめします。

バッテリー駆動中にバッテリー残量が少なくなったときは

バッテリーの残量が少なくなると、電源ランプ(④)が黄色に点灯します。この場合は、状況に応じて次の操作を行ってください。

- ・ACコンセントから電源を供給できる場合

いったん使用中のソフトウェアを終了して本機の電源を切り、ACアダプタを接続してACコンセントから電源を供給してください。ACコンセントから電源を供給すると、バッテリー充電ランプ(⑤)が点灯し、バッテリーの充電が始まります。また、バッテリーを充電しながら本機を使用することもできます。

- ・ACコンセントが使えない場合

使用中のソフトウェアを終了して、本機の電源を切ってください。

上記の操作を行わずにそのままにしておくと、「コントロールパネル」の「電源の管理」(Windows Me、Windows 98の場合)または「電源オプション」(Windows 2000の場合)で設定してある状態になります。

バッテリーが少なくなったときの動作の設定をする

バッテリー残量が少なくなったりバッテリー残量がなくなったときに、本機をどのような動作や状態にするかを設定することができます。設定は「コントロールパネル」の「電源の管理」アイコン(Windows Me、Windows 98の場合)または「電源オプション」アイコン(Windows 2000の場合)をダブルクリックすると表示される画面の「アラーム」タブで行うことができます。

充電のしかた

- **チェック!!** ・バッテリーの充電中は、バッテリーパックを本機から取り外さないでください。ショートや接触不良の原因になります。
- ・購入直後や長時間放置したバッテリーでは、バッテリー駆動ができないことや動作時間が短くなること、バッテリー残量が正しく表示されないことなどがあります。必ずフル充電してから使用してください。

バッテリーの充電のしかた

本機にバッテリーパックを取り付けてACアダプタをACコンセントに接続すると、自動的にバッテリーの充電が始まります。

本機の電源を入れて使用していても充電されます。

充電できる電池容量は、周囲の温度によって変わります。また、高温になると充電が中断されることがありますので、18～28℃での充電をおすすめします。

参照 ▶ バッテリーの充電時間について PART4の「機能一覧」(p.195)

充電状態を表示ランプで確認する

バッテリーの充電状態を、バッテリー充電ランプ()で確認することができます。(p.19)

参照 ▶ バッテリーの充電ランプについて PART1の「表示ランプ」(p.18)

バッテリー残量の確認

バッテリー残量は、次のインジケータ領域(タスクトレイ)の  や、コントロールパネルで確認することができます。

ACコンセントから電源を供給しているときは  は  に変わります。

インジケータ領域(タスクトレイ)で確認する

- 1 インジケータ領域(タスクトレイ)にある  の上にマウスポインタを合わせる
バッテリー残量が表示されます。

インジケータ領域(タスクトレイ)で詳細な情報を確認する

- 1 インジケータ領域(タスクトレイ)の  をダブルクリックする
バッテリー残量やバッテリーに関する詳しい情報が表示されます。

電源のプロパティで詳細な情報を確認する

- 1 「コントロールパネル」を開き、次のアイコンをダブルクリックする
 - ・Windows Me/Windows 98の場合
「電源の管理」アイコン
 - ・Windows 2000の場合
「電源オプション」アイコン
- 2 「電源メーター」タブをクリックする

バッテリーリフレッシュ

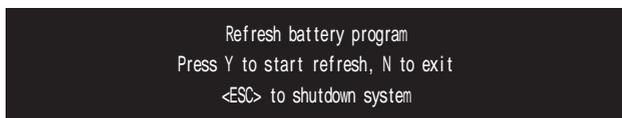
バッテリーリフレッシュは、一時的に低下したバッテリーの性能を回復させるときに行います。次のようなときには、バッテリーリフレッシュを実行してください。

- ・購入直後や長期間、バッテリーを使用しなかったため、バッテリーの性能が一時的に低下した
- ・バッテリーの残量表示に誤差が生じている

バッテリーリフレッシュの実行

- 1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2 バッテリーパックを取り付けていない場合は、バッテリーパックを本体に取り付ける(p.63)
- 3 パソコンにACアダプタを接続していない場合は、ACアダプタを接続し、電源コードをACコンセントに接続する
- 4 バッテリー充電ランプが点滅している場合は、一度バッテリーパックを本体から外して、再度取り付ける
- 5 バッテリーをフル充電(バッテリー充電ランプが消灯した状態)まで充電する
- 6 BIOSセットアップメニューを起動する(p.174)

- 7 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す
- 8 「終了(Exit)」メニューの「バッテリーリフレッシュ(Battery Refresh)」を選び、【Enter】を押す
- 9 「実行しますか?(Refresh your battery now?)」と表示されたら、「はい(Yes)」を選んで【Enter】を押す
次のような画面が表示されます。



- 10 【Y】を押す
次のような画面が表示され、バッテリーリフレッシュが始まります。



- チェック!!** ・バッテリーリフレッシュ中は、液晶ディスプレイを開いたままにしてください。
- ・添付されているバッテリーパックのバッテリーリフレッシュの所要時間の目安は約70分です。

バッテリーリフレッシュが完了し、バッテリー内の電力がなくなると自動的に本機の電源が切れますので、本機の電源が切れるまでお待ちください。

バッテリーリフレッシュを中断する

バッテリーリフレッシュを中断するときは、次の手順で行ってください。

- 1 【Ctrl】+【Alt】+【Del】を押す
本機が再起動します。

電源スイッチを4秒以上押し続けてもバッテリーリフレッシュを中断することができます。この場合本機の電源が切れます。

バッテリーパックの交換

交換の目安

フル充電(バッテリーを充電してバッテリー充電ランプが消灯した状態)にしても使用できる時間が短くなったら、バッテリーフレッシュ(p.61)を行ってください。それでも使用できる時間が回復しないときは、新しいバッテリーパックを購入して交換してください。

本機のバッテリースロットに取り付けられる交換用バッテリーパックは次の2種類です。

- ・ PC-VP-BP14(バッテリーパック)
- ・ PC-VP-BP16(バッテリーユニット(LL))

バッテリースロットのバッテリーパックと併用できるセカンドバッテリーパックに次のものがあります。

セカンドバッテリーパックは本機のVersaBay IVに取り付けます(p.162)

- ・ PC-VP-BP15(セカンドバッテリーパック)

- ✓チェック!!**
- ・ 特に必要でない限り、バッテリーパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因になります。
 - ・ バッテリーは消耗品です。充電をくりかえすと、充電能力が低下します。

バッテリーパックの交換のしかた

⚠警告



感電注意

雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。



破裂注意



毒物注意

使用を終えたバッテリーパックを分解したり、火気に投じることは危険です。絶対にしないでください。破裂したり、液漏れしたりすることがあります。

⚠注意



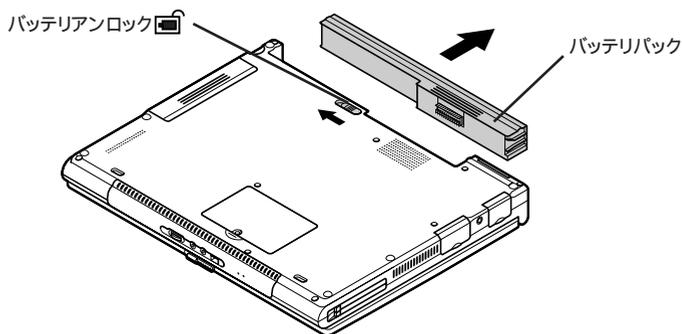
感電注意

濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

チェック!! ・ バッテリスロットの端子部分には絶対に触れないでください。接触不良の原因となります。

・ 電源が入っているときや、スタンバイ状態のときにバッテリーパックを交換すると、作業中のデータが失われます。電源ランプ (④) が点滅しているときには、一度スタンバイ状態から復帰し、作業中のデータを保存してからWindowsを終了し、本機の電源を切ってください。

- 1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す
- 3 液晶ディスプレイを閉じて、本機を裏返す
- 4 バッテリーパックの横にあるバッテリーアンロック (🔒) を矢印の方向にスライドさせたまま、バッテリーパックを外側にスライドさせる
バッテリーパックが外れます



- 5 新しいバッテリーパックを取り付ける

バッテリー容量を増やす

別売のバッテリーユニット(LL) または別売のセカンドバッテリーパックを接続して、本機のバッテリー容量を増やすことができます。

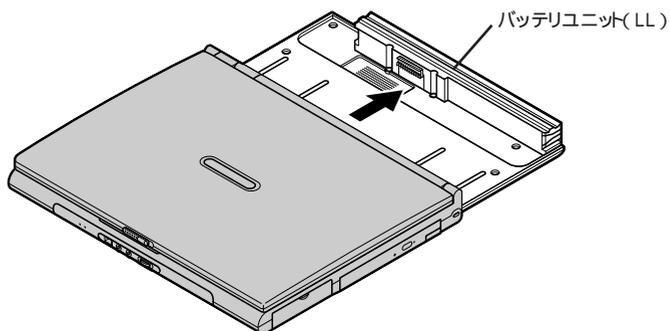
バッテリーユニット(LL)(PC-VP-BP16)

本体底面に取り付けるバッテリーパックです。

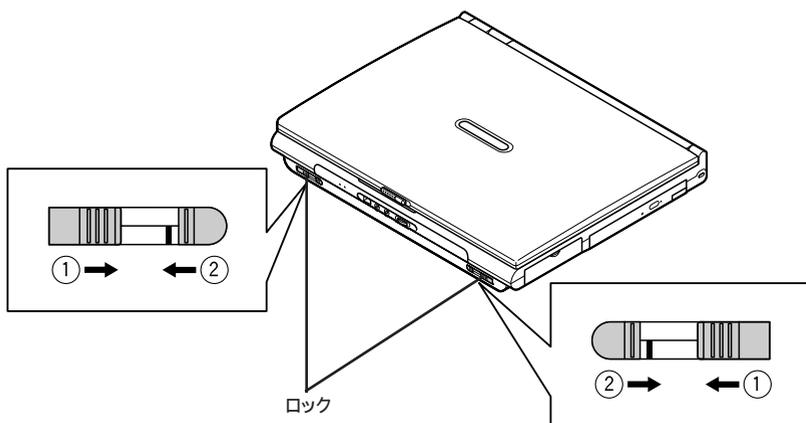
✓チェック!! バッテリーユニット(LL)は本体のバッテリースロットを使用するため、購入時に添付されているバッテリーパックと併用することはできません。

バッテリーユニット(LL)の取り付け

- 1** 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2** 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す
- 3** バッテリーパックを取り付けている場合は取り外す(p.63)
- 4** 図のように、バッテリーユニット(LL)の上に本体を置き、矢印の方向に本体が付きあたるまでスライドする



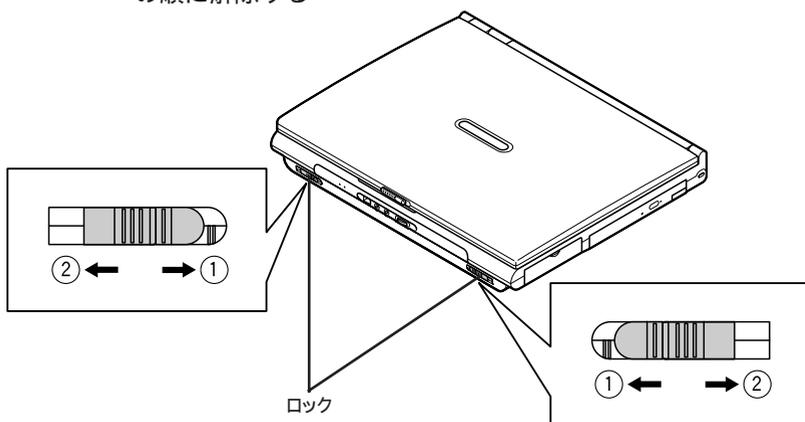
5 バッテリーユニット(LL)の前面にある左右のロックをそれぞれの順にロックする



バッテリーユニット(LL)の取り外し

- 1** 本機の電源を切る
- 2** 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す
- 3** 液晶ディスプレイを開いている場合は閉じる

4 バッテリーユニット(LL)の前面にある左右のロックをそれぞれの順に解除する



5 本体をスライドしてバッテリーユニット(LL)から取り外す

セカンドバッテリーパック(PC-VP-BP15)

セカンドバッテリーパックは本体のVersaBay IVに取り付けるバッテリーパックです。VersaBay IVにあらかじめ取り付けられている機器を取り外してセカンドバッテリーパックを取り付けます(購入時にセカンドバッテリーパックが内蔵されているモデルを除く)。

セカンドバッテリーパックは、バッテリースロットに取り付けたバッテリーパックやバッテリーパック(L)、バッテリーユニット(LL)と併用することができます。

参照 ▶ ベイへの機器の取り付け方 PART2の「VersaBay IV」(p.162)



省電力機能

省電力機能とは

省電力機能とは、CPUやハードディスク、ディスプレイといった、パソコンの主要な部分への電力供給を停止することで、本体の消費電力を抑える機能です。また、作業を一時的に中断したいときや、中断した作業をすぐに再開したいときにも便利な機能です。

本機の省電力機能

本機の省電力機能には、「スタンバイ状態(サスペンド)」「休止状態(ハイバネーション)」「Intel® SpeedStep™テクノロジー」があります。「スタンバイ状態」と「休止状態」を合わせて「スリープ状態」と呼ぶこともあります。

省電力機能の設定は、Windows Me / Windows 98の場合は「コントロールパネル」の「電源の管理」で行います。Windows 2000の場合は「コントロールパネル」の「電源オプション」で行います。

スタンバイ状態(サスペンド)

作業中のデータを一時的にメモリに保存し、消費電力を抑える機能です。スタンバイ状態のことを「サスペンド」と呼ぶこともあります。データはメモリに保存されているため、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「復帰(レジューム)」と呼びます。

参照▶ スタンバイ状態にする 「スタンバイ状態(サスペンド)にする」(p.71)

休止状態(ハイバネーション)

作業中のデータをハードディスクに保存し、電源を切る機能です。休止状態のことを「ハイバネーション」と呼ぶこともあります。普通に電源を切るのとは異なり、次に電源を入れるときに、Windowsを起動する操作をせずに、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「復帰(レジューム)」と呼びます。

データを保持するための電力を消費しないので、長時間作業を中断するときなどに便利です。

参照▶ 休止状態にする 「休止状態(ハイバネーション)にする」(p.72)

Intel® SpeedStep™テクノロジー

電源の種類によって、動作性能を切り替えることができます。

BIOSセットアップメニューで設定する方法と、Windowsのコントロールパネルで設定する方法の2種類があります。

参照 Intel® SpeedStep™テクノロジーの設定をする 「Intel® SpeedStep™テクノロジー」(p.82)

省電力機能使用上の注意

スタンバイ状態または休止状態を利用できないとき

次のようなときには、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。本機が正常に動かなくなったり、正しく復帰できなくなることがあります。

- ・プリンタへ出力中
- ・通信用アプリケーションを実行中
- ・電話回線を使って通信中
- ・音声または動画を再生中
- ・ハードディスク、CD-ROM、フロッピーディスクなどにアクセス中
- ・「システムのプロパティ」画面を表示中
- ・Windowsの起動/終了処理中
- ・スタンバイ状態または休止状態に対応していないアプリケーションを使用中
- ・スタンバイ状態または休止状態に対応していないPCカード、USB対応機器、IEEE1394対応機器を使用中

スタンバイ状態または休止状態を使用するときの注意

スタンバイ状態または休止状態にするときは、次のことに注意してください。

- ・スタンバイ状態では、ネットワーク機能が一旦停止します。ネットワークを使用するアプリケーションによっては、スタンバイ状態になったときにデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合には、システム管理者に確認のうえ、スタンバイ状態を使用してください。
- ・バッテリーのみで使用する場合は、あらかじめバッテリーの残量を確認しておいてください。また、バッテリー残量が少なくなってきたときの本機の動作について設定しておくこともできます(p.59)
- ・本機にフォトCDをセットしたままスタンバイ状態または休止状態にすると、復帰に時間がかかることがあります。

- ・ SCSI PCカードを使用している場合、SCSI PCカードと接続されている機器の組み合わせによっては、スタンバイ状態または休止状態から正しく復帰できない場合があります。このような場合は、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。
- ・ Windows Me / Windows 2000で、フロッピーディスクやCD-ROMをセットしたまま休止状態から復帰すると、正しく復帰できずにフロッピーディスクやCD-ROMから起動してしまうことがあります。休止状態にする場合は、フロッピーディスクやCD-ROMを取り出してから休止状態にしてください。また、フロッピーディスクを使用しているときは、必要なファイルを保存してからフロッピーディスクを取り出してください。
- ・ スタンバイ状態または休止状態への移行中は、各種ディスクやPCカードの入れ替えなどを行わないでください。データが正しく保存されないことがあります。
- ・ スタンバイ状態または休止状態のときに、PCカードを入れ替えるなどの機器構成の変更をすると、スタンバイ状態から正しく復帰できなくなることがあります。
- ・ Windows Me / Windows 98でディスプレイの省電力機能を使用する場合は、スクリーンセーバー機能もあわせて使用してください。スクリーンセーバー機能を使用しないと、「MS-DOSプロンプト」使用時、省電力機能は利用できません。
- ・ Windows Me / Windows 98の場合、ATAカードをセットした状態では、スタンバイ状態または休止状態になるまでに時間がかかることがあります。
- ・ Windows Meの場合、「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックすると表示される「画面のプロパティ」の「Web」タブで、「Active DesktopにWebコンテンツを表示」がになっていると、自動的にスタンバイ状態または休止状態にできない場合があります。この場合は、「Active DesktopにWebコンテンツを表示」をに設定してください。
- ・ Windows 98の場合、「スタート ボタン」 「設定」 「アクティブデスクトップ」の「Webページで表示」にチェックマークが入っていると、自動的にスタンバイ状態または休止状態にできない場合があります。この場合は、「Webページで表示」のチェックマークをはずしてください。

スタンバイ状態または休止状態から復帰するときの注意

スタンバイ状態または休止状態から復帰させるときには、次のことに注意してください。

- ・スタンバイ状態または休止状態にしてからすぐに復帰するとき、本機に負担がかからないよう、スタンバイ状態または休止状態になった後、約5秒以上たってから操作してください。
- ・スタンバイ状態または休止状態のときにPCカードの入れ替えや周辺機器の取り付け / 取り外しなどの機器構成の変更をすると、正常に復帰できなくなる場合があります。
- ・タイマ、LAN、FAXモデムの自動操作、および液晶ディスプレイを開いているスタンバイ状態からの復帰を行った場合、本機はスタンバイ状態から復帰していても液晶ディスプレイに何も表示されない状態になります。この場合はNXパッドを操作するかキーボードのキーを押すことによって液晶ディスプレイに表示できます。
- ・Windows 2000でスタンバイ状態から復帰後、モデムについての「デバイスの取り外しの警告」画面が表示されることがあります。その場合は「OK」ボタンをクリックしてください。警告が発生したデバイスは、そのまま使用できます。
- ・スタンバイ状態または休止状態からの復帰時にパスワードを入力するように設定してある場合は、パスワード入力画面でパスワードを入力してください。

スタンバイ状態(サスペンド)にする

購入時の状態では、次のいずれかの方法でスタンバイ状態にすることができます。スタンバイ状態になると、電源ランプ(④)が緑色に点滅します。

Windowsの終了メニューで「スタンバイ」を選んで、スタンバイ状態にする

- ・Windows Me / Windows 98の場合
「スタート」ボタン 「Windowsの終了」で「スタンバイ」を選び、「OK」ボタンをクリックする
- ・Windows 2000の場合
「スタート」ボタン 「シャットダウン」で「スタンバイ」を選び、「OK」ボタンをクリックする

バッテリー駆動時、キーボードやNXパッドからの入力がなくなってから一定時間経過後、自動的にスタンバイ状態にする
液晶ディスプレイを閉じる

ほかにも、設定を行うことにより、次の方法でスタンバイ状態にできます。

電源スイッチを押す

電源スイッチを押してスタンバイ状態にするには設定が必要です。「省電力機能を設定する」の「液晶ディスプレイや電源スイッチで行う省電力機能の設定」(p.75)の手順で設定を行ってください。

休止状態(ハイバネーション)にする

休止状態にする(Windows Meの場合)

購入時の状態では、次のいずれかの方法で休止状態にすることができます。休止状態になると、電源ランプ()が消灯し、本機の電源が切れます。

「スタート」ボタン 「Windowsの終了」で「休止状態」を選び、「OK」ボタンをクリックする

バッテリー駆動時、キーボードやNXパッドからの入力がなくなってから一定時間経過後、自動的に休止状態にする

ほかにも、設定を行うことにより、次の方法で休止状態にすることができます。

液晶ディスプレイを閉じる

電源スイッチを押す

液晶ディスプレイを閉じたり、電源スイッチを使って休止状態にできるようにするためには、「液晶ディスプレイや電源スイッチで行う省電力機能の設定」(p.75)の手順を行ってください。

休止状態にする(Windows 98の場合)

購入時の状態では休止状態の機能は利用できませんが、設定を行うことにより次の方法で休止状態にすることができます。

参照▶ 休止状態を利用できるようにする 「液晶ディスプレイや電源スイッチで行う省電力機能の設定」(p.75)

休止状態になると、電源ランプ(Ⓞ)が消灯し、本機の電源が切れます。

電源スイッチを押す

「Save to disk in progress. Please wait...」の表示とともに、作業状況を示す棒グラフが表示されます。

液晶ディスプレイを閉じる

休止状態にする(Windows 2000の場合)

購入時の状態では、次の方法で休止状態にすることができます。

休止状態になると、電源ランプ(Ⓞ)が消灯し、本機の電源が切れます。

「スタート」ボタン 「シャットダウン」で「休止状態」を選び「OK」ボタンをクリックする

「休止中...」の表示とともに、作業状況を示す棒グラフが表示されます。

ほかにも、設定を行うことにより次の方法で休止状態にすることもできます。

液晶ディスプレイを閉じる

電源スイッチを押す

液晶ディスプレイを閉じたり、電源スイッチを使って休止状態にするには、「液晶ディスプレイや電源スイッチで行う省電力機能の設定」(p.75)の手順を行ってください。

スタンバイ状態または休止状態から復帰(レジューム)する

スタンバイ状態や休止状態から元の状態に戻すことを「復帰」または「レジューム」といいます。

スタンバイ状態から復帰する

スタンバイ状態からの復帰は次の方法で行うことができます。

電源スイッチを押す

スタンバイ状態にする前の元の状態が表示されます。

液晶ディスプレイを閉じてスタンバイ状態にした場合、液晶ディスプレイを開けることで復帰することができます。また、タスクスケジューラで時刻を指定してスタンバイ状態から復帰することもできます。タスクスケジューラについて詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

Windows 2000でログオンパスワードを入力する画面が表示された場合は、パスワードを入力してください。

休止状態から復帰する

休止状態からの復帰は次の方法で行います。

電源スイッチを押す

復帰(レジューム)中を表すメッセージと作業状況を示す棒グラフが表示されます。

復帰が完了すると、元の状態(休止状態に入る前)の画面が表示されます。

Windows 2000でログオンパスワードを入力する画面が表示された場合は、パスワードを入力してください。

省電力機能の設定をする

省電力機能の設定は、Windows Me / Windows 98の場合は「コントロールパネル」の「電源の管理」で行います。Windows 2000の場合は「コントロールパネル」の「電源オプション」で行います。

「電源の管理」や「電源オプション」では、省電力機能を実行するときの操作方法や実行するまでの時間を変更したり、ACアダプタ駆動時にも省電力機能が働くように設定できます。また、あらかじめ設定されている電源設定モードを選ぶこともできます。

液晶ディスプレイや電源スイッチで行う省電力機能の設定

液晶ディスプレイを閉じたり、電源スイッチを操作したときにスタンバイ状態または休止状態にするときや、Windows 98で休止状態を利用するときは、次の設定を行ってください。

1 「コントロールパネル」を開き、次のアイコンをダブルクリックする

・Windows Me / Windows 98の場合

「電源の管理」アイコン

・Windows 2000の場合

「電源オプション」アイコン

2 次の操作を行う

・休止状態を利用するための設定を行う場合

「休止状態」タブをクリックして手順3に進んでください。

・スタンバイ状態を利用するための設定を行う場合

手順4に進んでください。

3 「休止状態をサポートする」がになっていることを確認する

4 次のタブをクリックする

・Windows Meの場合

「詳細設定」タブ

・Windows 98 / Windows 2000の場合

「詳細」タブ

5 「電源ボタン」の欄で設定する

- ・電源スイッチを押して行う場合
「コンピュータの電源ボタンを押したとき」で「スタンバイ」または「休止状態」を選ぶ
- ・液晶ディスプレイを閉じて行う場合
「ポータブル コンピュータを閉じたとき」で「スタンバイ」または「休止状態」を選ぶ

6 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

電源設定のモードを選ぶ

Windows Me / Windows 98の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする

「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。

2 「電源設定」タブをクリックする

3 「電源設定」欄でモードを選ぶ

- ・Windows Meの場合
購入時には「LaVie/VersaPro」に設定されています。
- ・Windows 98の場合
購入時には「常にオン」に設定されています。

4 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

画面の下段の「**の電源の設定」の「**」には、上段の「電源設定」欄で選んだモード名が表示され、それぞれの項目欄には、モードの設定時間が表示されます。また、「電源設定」欄で新しいモードを作成することもできます。

Windows 2000の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「電源オプション」アイコンをダブルクリックする

「電源オプションのプロパティ」画面が表示されます。

- 2 「電源設定」タブをクリックする
- 3 「電源設定」欄でモードを選ぶ
購入時には「ポータブル/ラップトップ」に設定されています。
- 4 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

画面の下段の「**の電源の設定」の「**」には、上段の「電源設定」欄で選んだモード名が表示され、それぞれの項目欄には、モードの設定時間が表示されます。また、「電源設定」欄で新しいモードを作成することもできます（ p.78 ）。

時間を個別に設定する

- 1 「電源設定のモードを選ぶ」（ p.76 ）の手順1～2を行う
- 2 画面の下段でそれぞれの時間を設定する

項目	説明
モニタの電源を切る	入力は何も行われないうまま指定した時間が経過すると、モニタの電源を切ります。
ハード ディスクの電源を切る	指定した時間、ハードディスクへのアクセスがないと、ハードディスクの電源を切ります。
システム スタンバイ	指定した時間何の入力もなく、ハードディスクへのアクセスがないと、パソコンがスタンバイ状態になり、消費電力を抑えます。
システム休止状態	指定した時間何の入力もなく、またハードディスクへのアクセスがないと、パソコンが休止状態になり、電源が切れます。

:Windows Me / Windows 2000のみ

- 3 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

Windows 98で時間を設定する場合の注意

「システムスタンバイ」の設定時間を「モニタの電源を切る」の設定時間より先後にした場合、「システムスタンバイ」が実行されるのは、「モニタの電源を切る」が実行されてからの時間になります。

「モニタの電源を切る」を「15分後」、「システムスタンバイ」を「20分後」に設定した場合、実際に「システムスタンバイ」が実行されるのは、モニタの電源が切れてから、さらに20分経過した35分後となります。

- ・ 入力がなくなってから「システムスタンバイ」を20分後に設定したい場合

例1:「システムスタンバイ」 15分後

「モニタの電源を切る」 5分後

例2:「システムスタンバイ」 20分後

「モニタの電源を切る」 なし

新しいモードを作成する

パソコンの利用状態に合わせて、モードを新たに登録することができます。

- 1 「電源設定のモードを選ぶ」(p.76)の手順1～2を行う
- 2 画面の下段でそれぞれの時間を設定する
- 3 「名前を付けて保存」ボタンをクリックする
- 4 任意の保存名を入力し、「OK」ボタンをクリックする
これで、新しいモードが登録されました。
- 5 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

作成したモードは「電源設定」欄で選ぶことができるようになります。

休止状態の設定の解除と再設定(Windows 98のみ)

休止状態中は、元の状態をハードディスクにファイルとして保存しています。このファイルのことを「ハイバネーション用ファイル」と呼び、工場出荷時には、すでに作成された状態になっています。このハイバネーション用ファイルをいったん削除することを「休止状態の設定の解除」と呼び、メモリの取り付け/取り外しを行ったり、CDドライブの圧縮/圧縮解除を行ったときには、この「休止状態の設定の解除」を行う必要があります。

設定を解除したあと、再び休止状態を利用したいときは、「休止状態の再設定」でハイバネーション用ファイルを作成する必要があります。

休止状態の設定を解除する

休止状態の設定を解除するには、「ハイバネーション設定ユーティリティ」を使います。

 **チェック!!** 「ハイバネーション設定ユーティリティ」は、MS-DOSモードで起動します。「MS-DOSプロンプト」ウィンドウでは実行できません。

- 1 「スタート」ボタン 「Windowsの終了」で「MS-DOSモードで再起動する」を選ぶ
- 2 「OK」ボタンをクリックする
MS-DOSモードで再起動します。
- 3 次のように入力する
HIBEROFF【Enter】
- 4 次のようなメッセージが表示されたら、電源スイッチ(⏻)を押して本機の電源を切る

The system will now be reset to allow the BIOS
to recognize the changes.
Press any key to reset the system...

本機が自動的に再起動します。

メッセージが表示されない場合には、次のように入力します。

CD C:¥NECUTILS【Enter】
HIBEROFF【Enter】

これで休止状態の機能を使うためのファイル(ハイバネーション用ファイル)が削除され、休止状態の設定を解除することができました。

休止状態を再設定する

休止状態の設定を解除したときや、休止状態のためのファイルを削除してしまったときは、休止状態の再設定を行ってください。

 **チェック!!** 「ハイバネーション設定ユーティリティ」は、MS-DOSモードで起動します。「MS-DOSプロンプト」ウィンドウでは実行できません。

1 「スタート」ボタン 「Windowsの終了」で「MS-DOSモードで再起動する」を選ぶ

2 「OK」ボタンをクリックする
MS-DOSモードで再起動します。

3 次のように入力する
HIBERON【Enter】

しばらくの間、ハイバネーション用ファイルの作成画面が表示されることがあります(お使いの機器のメモリ容量によって異なります)。ハードディスクの空き容量不足についてのメッセージが表示された場合は、不要なファイルを削除するなどしてハードディスクの空き領域を確保した後、手順1からやり直してください。必要なハードディスクの空き領域の目安は、本機に搭載されているメモリ容量 + 8Mバイトです。

4 次のようなメッセージが表示されたら、何かキーを押す



```
The system will now be reset to allow the BIOS
to recognize the changes.
Press any key to reset the system...
```

本機が自動的に再起動します。

メッセージが表示されない場合には、次のように入力します。

CD C: ¥NECUTILS【Enter】
HIBERON【Enter】

電源の自動操作

タイマ、LAN、回線からのアクセスによって自動的に電源の操作を行うことができます。

- チェック!!** タイマ、LAN、FAXモデムの自動操作によるスタンバイ状態からの復帰を行った場合、本体はスタンバイから復帰しているのに、ディスプレイには何も表示されない状態になることがあります。この場合、ポインティングデバイスを動かすかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが表示されます。

タイマ機能

設定した時間を経過しても、ポインティングデバイスやキーボードからの入力、またはハードディスクへのアクセスなどが無い場合に、自動的にディスプレイの電源を切ったり、スタンバイ状態や休止状態にする機能です。

「省電力機能の設定をする」の「電源設定のモードを選ぶ」(p.76)や、「時間を個別に設定する」(p.77)の手順で時間を設定してください。

- チェック!!** Windows 98では休止状態にするまでの時間を設定することはできません。

リモートパワーオン機能(内蔵LAN機能による電源操作)

LAN経由で、離れたところにあるリモートパワーオンに対応したパソコンの電源を操作する機能です。

- 参照** リモートパワーオン機能について 「LAN(ローカルエリアネットワーク)」の「本機の運用管理」(p.116)

リング機能(FAXモデムによる電源の自動操作)

FAXや電話を受信した場合にスタンバイ状態から復帰することができます。ただし、この機能で本機の電源を入れることはできません。

Intel® SpeedStep™テクノロジー

Intel® SpeedStep™テクノロジーのセットアップ

Intel® SpeedStep™ テクノロジーを使用できるようにするには、次の手順でセットアップを行う必要があります。

チェック!! Windows 2000でIntel® SpeedStep™テクノロジーをセットアップする場合は、Administrator権限を持つユーザで本機にログオンしてください。

- 1 デスクトップ上の (SpeedStep) をダブルクリックする
- 2 「ようこそ」画面で「次へ」ボタンをクリックする
- 3 「ライセンス契約」の内容を読み、内容に同意できる場合には「はい」ボタンをクリックする
- 4 「セットアップの完了」画面で、「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」を選んで「完了」ボタンをクリックする

本機が自動的に再起動します。

BIOSセットアップメニューで設定する

BIOSセットアップメニューの「詳細 (Advanced)」メニューの「Intel (R) SpeedStep(TM) テクノロジー (Intel (R) SpeedStep(TM) technology)」で設定できます。

モード	機能
自動	AC電源で駆動中にこのパソコンを使用する場合、最高性能で動作します。
バッテリー	常にバッテリー最適性能で動作します。
使用しない	本機能が無効になります。

: 購入時の設定

参照 → BIOSセットアップメニュー PART3の「BIOSセットアップメニュー」(p.174)

コントロールパネルで設定する

1 次の操作を行う

・Windows Me / Windows 98の場合

「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする

・Windows 2000の場合

「コントロールパネル」を開き、「電源オプション」アイコンをダブルクリックする

2 「Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジー」タブをクリックする

インジケータ領域(タスクトレイ)のをダブルクリックして起動することもできます。

3 設定を行う

本機をバッテリーのみで使用するときと、AC電源で使用するときの設定があります。

・ バッテリーモードの場合

「バッテリーに合わせたパフォーマンス」に設定されています。この項目は変更できません。

・ AC電源の場合

「バッテリーに合わせたパフォーマンス」または「最大パフォーマンス」のどちらかを選択できます。をクリックして選んでください。

「電源が変更されたときにパフォーマンスを自動的に変更」がになっていると、バッテリー駆動からAC駆動に変更した場合、自動的に「AC電源の場合」で設定した動作に変わります。

「パフォーマンスを自動的に変更する前に確認」がになっているとバッテリー駆動からAC駆動に変更した場合に、パフォーマンスを自動的に変更するかどうかの確認メッセージが表示されます。

「Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジー」タブでの設定内容は、Windowsの終了時にBIOSセットアップメニューに反映されます。

セキュリティ機能

本機には、本機の不正使用やデータなどの盗難を予防するためのセキュリティ機能が搭載されています。

本機のセキュリティ機能

本機のセキュリティ機能には、次のようなものがあります。

- ・パスワード
- ・ハードディスクのパスワード
- ・指紋認証機能(内蔵指紋センサモデルのみ)
- ・スマートカード(別売) Windows 98のみ)
- ・指紋認証ユニット(別売)

✓チェック!! セキュリティ機能を使用している場合でも、「絶対に安全」ということはありません。重要なデータなどの管理、取り扱いには十分注意してください。

パスワード

パスワードを設定することで、本機の利用者を制限するとともに、本機の利用を防止することができます。本機のパスワードはBIOSセットアップメニューで設定します。パスワードを設定することにより、次のような機能を制限することができます。

- ・本機の起動
- ・BIOSセットアップメニューの起動と設定変更

✓チェック!! ご購入元、NECフィールディングの各支店、営業所などに本機の修理を依頼される際は、設定したパスワードは解除しておいてください。

パスワードの種類

本機で設定可能なパスワードには、「スーパーバイザパスワード」と「ユーザパスワード」があります。

スーパーバイザパスワード

スーパーバイザパスワードは、おもに本機の管理者用のパスワードで、管理者以外の不正な使用や設定の変更を防止したり、本機の使用者を制限するために設定します。

パスワードを設定しておく、BIOSセットアップメニュー起動時にパスワードの入力画面が表示され、パスワードを入力しないかぎりBIOSセットアップメニューを起動できなくなります。また、スーパーバイザパスワード入力のタイミングを、本機の起動時に設定することもできます。

ユーザパスワード

ユーザパスワードは、スーパーバイザパスワードが設定されていないと設定できないパスワードです。おもに本機の使用者のためのパスワードで、スーパーバイザパスワードで本機を管理している管理者が、本機の使用者の使用できる機能を制限するためのものです。

パスワードを使った管理

たとえば、管理者がスーパーバイザパスワードとユーザパスワードの両方を設定し、通常の利用者にはユーザパスワードのみを通知するようにします。このように設定しておく、通常の利用者はBIOSセットアップメニューで設定可能な項目が制限されます。

パスワードを設定 / 変更する

スーパーバイザパスワード、またはユーザパスワードの設定 / 変更は、BIOSセットアップメニューで行います。

- 1 BIOSセットアップメニューを起動する(p.174)
- 2 「セキュリティ(Security)」メニューを選択する
- 3 「スーパーバイザパスワード設定(Set Supervisor Password)」または「ユーザパスワード設定(Set User Password)」を選んで、
【Enter】を押す
パスワード設定画面が表示されます。



チェック!! スーパーバイザパスワードを設定していないと、ユーザパスワードを設定することはできません。

4 パスワードを入力して【Enter】を押す

- ✔ **チェック!!** ニューメリックロックキーランプ()が消灯していることを確認し、パスワードの文字列を8文字以内で設定してください。使用できる文字は、半角英字のA～Z(大文字/小文字の区別はありません)と半角数字の0～9だけです。

5 手順4で入力したパスワードを、もう一度入力して【Enter】を押す

6 「セットアップ通知(Setup Notice)」の画面が表示されるので、いずれかのキーを押す

7 設定を保存して、BIOSセットアップメニューを終了する

- ✔ **チェック!!** 設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。

パスワードを入力するタイミング

パスワードを設定しておく、BIOSセットアップメニュー起動時にパスワードを入力するように要求されます。BIOSセットアップメニュー起動時以外にも、本機の起動時に設定することもできます。

本機の起動時

本機の起動時にパスワードを入力するように設定するには、次の手順を行います。

1 BIOSセットアップメニューを起動する(p.174)

2 「セキュリティ(Security)」メニューの「起動時のパスワード(Password on boot)」を選択する

3 「使用する(Enabled)」を選択する

4 設定内容を保存して、BIOSセットアップメニューを終了する

パスワードを入力する

パスワードを設定しているときの電源の入れかた
BIOSセットアップメニューの「セキュリティ (Security)」メニューの「起動時のパスワード (Password on boot)」が「使用する (Enabled)」に設定されている場合は、次の手順で電源を入れます。

- 1 本機の電源を入れる
次のようなパスワードを入力する画面が表示されます。

パスワードを入力して下さい [_]

- 2 設定されているパスワードを入力して【Enter】を押す

正しいパスワードが入力されると、Windowsが起動します。

 **チェック!!** 誤ったパスワードを入力すると、警告が表示されます。パスワードの入力に3回失敗すると、パスワードが入力できなくなります。このときは、電源スイッチを押して電源を切ったあと、もう一度手順1からやり直してください。

パスワードを忘れてしまったときは

設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまった場合には解除処置が必要です。

 **参照** 解除処置について 『活用ガイド ソフトウェア編』の「PART4 トラブル解決 Q&A」

ハードディスクのパスワード

ハードディスクのパスワードとは

ハードディスクにパスワードを設定することで、本機以外のパソコンでのハードディスクの不正使用を防止することができます。

パワーオンパスワードを併用することにより、ハードディスク内のデータへの不正アクセスを防ぐことが可能です。

ハードディスクのパスワードは、BIOSセットアップメニューで設定します。

- **チェック!!** ・ハードディスクのパスワードを忘れてしまった場合、NECフィールドिंगの各支店、営業所などに持ち込んでもロックは解除できません。お客様ご自身で作成されたデータは二度と使用できなくなり、またハードディスクを有償で交換することになります。ハードディスクのパスワードは忘れないよう、十分注意してください。
- ・ハードディスクのパスワードは、他のセキュリティ機能と併用してください。ハードディスクのパスワードだけでは、十分に本機の不正使用を防止することができません。

パスワードの種類

本機で設定可能なハードディスクのパスワードには、「マスタパスワード」と「ユーザパスワード」があります。

マスタパスワード

マスタパスワードはロック解除専用のパスワードです。ハードディスクのパスワードを最初に設定するときに入力します。

ユーザパスワード

ユーザパスワードは、ハードディスク認証を行うために設定します。ユーザパスワードを設定することで、本機以外でのハードディスクの不正使用を防止できます。

- **チェック!!** マスタパスワードを設定しないとユーザパスワードを設定することはできません。

パスワードを設定 / 変更する

マスタパスワードの設定、ユーザパスワードの設定 / 変更は、BIOSセットアップメニューで行います。

チェック!! マスタパスワードは、忘れないように控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまうと、パスワードの変更およびハードディスクのロックの解除ができなくなります。

- 1** BIOSセットアップメニューを起動する(p.174)
BIOSセットアップメニューのメイン画面が表示されます。
- 2** 「セキュリティ(Security)」メニューを選ぶ
- 3** 「HDDパスワードの設定(Assign HDD Password)」を選んで、
【Enter】を押す
 - ・ はじめて設定する場合
マスタパスワード画面が表示されるので手順5へ進んでください。
 - ・ マスタパスワードがすでに設定済みで、ユーザパスワードが設定されていない場合
新しいユーザパスワードの入力画面が表示されるので手順7へ進んでください。
 - ・ 上記以外の場合
パスワード入力画面が表示されるので手順4へ進んでください。
- 4** マスタパスワードまたはユーザパスワードを入力し【Enter】を押す
 - ・ ユーザパスワードを入力した場合
新しいユーザパスワード入力画面が表示されるので手順7へ進んでください。
 - ・ マスタパスワードを入力した場合
新しいマスタパスワード入力画面が表示されるので手順5へ進んでください。
- 5** 新しいマスタパスワードを入力し【Enter】を押す

チェック!! ニューメリックロックキーランプ () が消灯していることを確認し、パスワードの文字列を8文字以内で設定してください。使用できる文字は、半角英字のA～Z(大文字/小文字の区別はありません)と半角数字の0～9だけです。

- 6 手順5で入力したマスタパスワードをもう一度入力し【Enter】を押す
ユーザパスワード入力画面が表示されます。
- 7 新しいユーザパスワードを入力し【Enter】を押す
- 8 手順7で入力したユーザパスワードをもう一度入力し【Enter】を
押す
- 9 「セットアップ通知(Setup Notice)」の画面が表示されるので、い
ずれかのキーを押す
- 10 設定を保存して、BIOSセットアップメニューを終了する

パスワードを設定しただけではセキュリティは有効になりません。セキュリティを有効にするためには、次の「ハードディスクのパスワードによるセキュリティを有効にする」をご覧ください。

-  **チェック!!** 設定したユーザパスワードは忘れないようにしてください。ユーザパスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードを忘れないように控えておくことをおすすめします。

ハードディスクのパスワードによるセキュリティを有効にする

マスタパスワードとユーザパスワードを設定してもハードディスクのセキュリティは有効になりません。ハードディスクのセキュリティを有効にするには、BIOSセットアップメニューの「セキュリティ(Security)」メニューで「内蔵HDDパスワードの設定(Internal HDD Password)」を「使用する(Enabled)」に設定してください。

-  **チェック!!**
- ・ハードディスクのセキュリティを有効にしても、設定したマスタパスワードやユーザパスワードを本機の起動時に入力する必要はありません。
 - ・本機でセキュリティを有効にしたハードディスクは、他機では使用できません。他機で使用する場合は「内蔵HDDパスワードの設定(Internal HDD Password)」を「使用しない(Disabled)」に設定してください。

ハードディスクのロックを無効にする

本機の起動時にハードディスクがロックされたという内容のメッセージが表示された場合は、次の手順でハードディスクのロックを無効にしてください。

- 1 BIOSセットアップメニューを起動する(p.174)
BIOSセットアップメニューのメイン画面が表示されます。
- 2 「セキュリティ(Security)」メニューを選ぶ
- 3 「HDDパスワードの設定(Assign HDD Password)」を選んで、
【Enter】を押す
ロック解除の画面が表示されます。
- 4 マスタパスワードを入力する
- 5 【Enter】を押す

以上でハードディスクのロックが無効になります。手順5の後にパスワード設定画面が表示されます。パスワードの設定 / 変更の手順にしたがって設定を行うか、【Esc】を押してキャンセルしてください。

指紋認証機能

ここでは、内蔵指紋センサモデルの指紋認証機能について説明しています。指紋認証機能とはパスワードの入力のかわりに、内蔵指紋センサを使って指紋による認証を行うシステムです。

本機では付属のユーティリティで、指紋認証によるBIOSLOCK機能や、Windowsへのログオン、スクリーンセーバのロック解除、各種アプリケーションのパスワード代替などを設定することができます。

参照 指紋認証機能の詳細について 『内蔵指紋センサ ユーザーズ・ガイド』

スマートカード / 指紋認証ユニット

チェック!! スマートカードはWindows 98でのみ使用できます。

別売のセキュリティ関連拡張機器を利用して個人認証を行うことにより、本機の利用者を制限するとともに、本機の不正使用を防止することができます。本機ではスマートカードによる個人認証、および指紋による個人認証に対応しています。

- チェック!!** ・「スマートカード」「指紋認証ユニット」「パスワード」はそれぞれ同時に使用することはできません。
- ・内蔵指紋センサモデルでは、PCカード用指紋認証ユニット(PK-FP001M)を使用することはできません。

参照▶ スマートカード / 指紋認証について スマートカード発行ツール(PK-SM002V2 など)またはスマートカードアプリケーション(PK-SM005、PK-SM006)に添付のマニュアル、またはPCカード用指紋認証ユニット(PK-FP001M)に添付のマニュアル

その他のセキュリティ機能を使う

ハードディスク起動セクタへのウイルス感染防止

ハードディスクの起動セクタを書き込み禁止に設定できます。起動セクタ部分が削除されたり、書き換えられたりすると、正常にパソコンを起動することができなくなってしまいます。書き込み禁止に設定すると、起動セクタをコンピュータウイルスなどから保護できます。

ハードディスク起動セクタへのウイルス感染防止の設定は、BIOSセットアップメニューで行います。

参照▶ ハードディスクの起動セクタを保護する PART3の「セキュリティ」メニューの設定(p. 181)

盗難防止用ロック

本体の盗難防止用ロックに市販の盗難防止用ケーブルを取り付けると、本体の盗難を防止できます。

参照▶ 盗難防止用ロック 「各部の名称」(p. 16)

本機の盗難防止用ロックは、キーケーブルロック等のセキュリティワイヤーに対応しています。製品についてのお問い合わせは、以下のとおりです(2001年4月現在)

日本ポラデジタル株式会社 第3営業部
〒104-0032 東京都中央区八丁堀1丁目5番2号 はごろもビル5F
Tel : 03-3537-1070 Fax : 03-3537-1071

サウンド機能

ボリュームコントロールを使うと、内蔵音源の再生音量や録音時の入力レベルを調節することができます。

ボリュームコントロールを表示させる

- 1 インジケータ領域(タスクトレイ)のをダブルクリックする
「音量の調整」または「ボリュームコントロール」の画面が表示されます。

✓チェック!! ディスプレイの解像度を低解像度に設定しているときにボリュームコントロールを表示させると、ボリュームコントロールのすべての音源コントロールが表示されない場合や右端の音源コントロールの表示が一部欠ける場合があります。このようなときには、ディスプレイの解像度を変更する(p.50)か、または「プロパティ」ウィンドウの「表示するコントロール」欄で、使用しない音源の選択を解除し、必要な音源コントロールが表示されるように変更してください。
なお、ディスプレイの解像度を変更する場合は、ボリュームコントロールを一旦終了し、解像度を変更後に再度ボリュームコントロールを起動してください。

表示項目を切り替える

ボリュームコントロールに表示させる項目を切り替えることができます。

- 1 メニューバーの「オプション」「プロパティ」をクリックする
「プロパティ」ウィンドウが開きます。
- 2 「音量の調整」から「再生」「録音」のどれかを選択する
表示項目が切り替わります。
「音量の調整」欄で選択できる項目は、モデルによって異なります。

設定項目一覧

表示できる項目と各項目の説明は次のようになります。
項目はモデルによって多少異なる場合があります。

項目名	音量調節の種類		機能
	再生	録音	
音量の調整またはボリュームコントロール			再生するすべての音量を調整します。
WAVE			WAVEなどのPCM音源の音量を調整します。
SW SynthまたはSW シンセサイザ			MIDIの音量を調整します。
CD オーディオ			CDオーディオを再生、または録音するときの音量を調整します。
ライン入力			本機では使用できません。
マイク			マイクロホン端子から入力される音声をスピーカから出力するとき、または録音するときの音量を調整します。
IIS			本機では使用できません。
電話線			本機では使用できません。
ミキサーまたは Mixer			録音するすべての音量を調整します。

 **チェック!!** その他、表示される項目については、本機では使用できません。

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力機能について

本機には、ヘッドホン / オーディオ / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子が用意されており、光デジタル入力を持ったオーディオ機器に接続して音を聞いたり、オーディオ機器にデジタル録音できます。

光デジタル入力端子を持つオーディオ機器として、MDデッキやAVアンプなどがあります。

ヘッドホン / オーディオ / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子からは、次の音源が光デジタル出力されます。

- ・ WAVE 出力
- ・ MIDI 出力
- ・ 音楽CDの再生音

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力するための設定

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子からの出力は、次のように変更することができます。

- 1 インジケータ領域(タスクトレイ)のをダブルクリックする
- 2 「オプション」メニューから、「トーン調整」を選択する
- 3 「ボリュームコントロール」の下にある「トーン」ボタンをクリックする
- 4 「Enable S/PDIF(1)」をにする
- 5 次の操作を行う
 - ・Windows Meの場合
「Enable MD S/PDIF(2)」をにします。
 - ・Windows 98/Windows 2000の場合
「Enable MD S/PDIF(2)」をにします。
- 6 「閉じる」ボタンをクリックする

お使いのモデルによって、表示される項目が異なる場合があります。

内蔵モデム

内蔵のモデムを介して電話回線に接続すると、インターネットや電子メールなどのやり取りができます。

電話回線との接続

接続可能な電話回線のコンセントについて

本機に接続可能な電話回線は2線式のみです。電話回線に接続する前に、使用する電話回線の種類を確認してください。

本機には、モジュラージャックと接続するためのモジュラーケーブルが添付されています。電話回線のコンセントがモジュラージャック式以外の場合は、変換アダプタを使用するかNTTにモジュラージャックの取り付けをご相談ください。

-  **チェック!!** 内蔵のFAXモデムは、加入電話回線に適合するように設計されています。加入電話回線以外と接続すると、うまく動作しないことや、内蔵FAXモデムやパソコン本体などを破損するおそれがあります。

電話回線を接続する

⚠警告



感電注意

雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

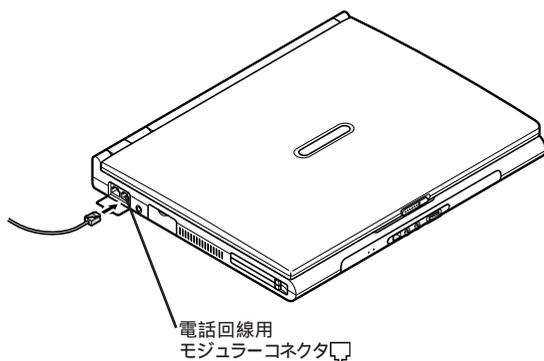
⚠注意



感電注意

モジュラージャックの端子に触れないでください。電話回線と接続しているモジュラージャックを抜いたときに電話がかかってくると、電話回線上に電圧がかかるため、端子に触れると感電することがあります。

- 1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す
- 3 電話機のモジュラーケーブルをモジュラージャックなどから取り外す
- 4 電話回線用モジュラーコネクタのカバーを開き付属のモジュラーケーブルの一方を本機の電話回線用モジュラーコネクタに奥までしっかり差し込む



- 5 モジュラーケーブルのもう一方を、壁などのモジュラージャックに奥までしっかり差し込む

1つの電話回線のモジュラージャックを本機以外の機器(電話機など)と共用で使用する場合は、使用することにケーブルの接続や取り外しが必要になります。

ダイヤル設定のしかた

Windows Me / Windows 98の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「テレフォニー」アイコンをダブルクリックする

「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

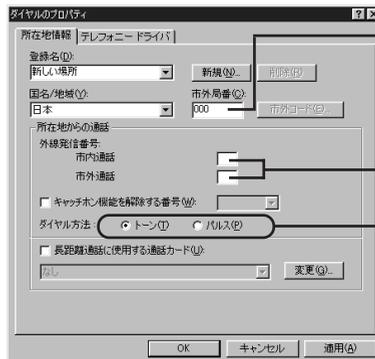
「所在地情報」ウィンドウが表示された場合

0を除いた市外局番を入力し、「閉じる」ボタンをクリックすると、「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

必要な項目を確認して、設定してください。

携帯電話など必ず市外局番からダイヤルする必要がある環境で使用する場合は、市外局番の欄を「000」に設定してください。

「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示された場合



使用する場所の0を除いた市外局番を入力する。携帯電話など、市外局番からダイヤルする必要がある場合は「000」を入力する。

外線発信番号が必要な回線の場合は入力する。

プッシュ回線を使用するときは「トーン」、ダイヤル回線のときは「パルス」に設定してください。回線の種類が不明の場合は、NTTにお問い合わせください。

この画面はモデルによって異なります。

Windows 2000の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「電話とモデムのオプション」アイコンをダブルクリックする

「電話とモデムのオプション」ウィンドウが表示されます。

はじめてダイヤル設定を行うときは、「所在地情報」ウィンドウが表示されます。このような場合は、次の「所在地情報」ウィンドウが表示された場合」で設定を行ってください。

「所在地情報」ウィンドウが表示された場合

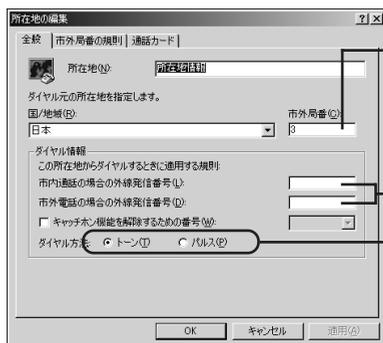
「市外局番 / エリア コード」欄に0を除いた市外局番を入力し、「OK」ボタンをクリックすると、「電話とモデムのオプション」ウィンドウが表示されます。必要な項目を確認して、設定してください。

携帯電話など必ず市外局番からダイヤルする必要がある環境で使用する場合は、市外局番の欄を「000」に設定してください。

2 「ダイヤル情報」タブで、設定したい所在地名を選んでから「編集」ボタンをクリックする

新規にダイヤル設定を行いたい場合は、「新規」ボタンをクリックし、表示された「新しい所在地」ウィンドウで設定を行ってください。

3 「所在地の編集」ウィンドウで設定を行う



使用する場所の0を除いた市外局番を入力する。携帯電話など、市外局番からダイヤルする必要がある場合は「000」を入力する

外線発信番号が必要な回線の場合は入力する。

プッシュ回線を使用するときは「トーン」、ダイヤル回線のときは「パルス」に設定してください。回線の種類が不明の場合は、NTTにお問い合わせください。

4 設定が終わったら、「OK」ボタンをクリックする

通信機能使用上の注意

- ・内蔵FAXモデムは一般電話回線のみに対応しています。
- ・加入電話回線がトーン式かパルス式かわからないときは、NTTに確認してください。
- ・回線の状態によっては、接続しにくかったり、通信時に雑音が入ることがあります。
- ・キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れる場合があります。
- ・ダイヤルアップネットワーク接続の場合、インターネットエクスプローラを終了しても回線が接続されたままになっている場合があります。回線を切断する必要がある場合は、インジケータ領域「タスクトレイ」の「ダイヤルアップネットワーク」アイコンを右クリックし、表示されたメニューから「切断」をクリックしてください。
- ・コードレスホンや親子電話などの加入電話回線以外の回線を使用している場合は、正常なデータの送受信ができなくなる場合があります。
- ・回線の状態によっては、希望の通信速度で通信できない場合があります。
- ・電話局の交換機の種類によっては、14400bpsでのファクシミリ通信ができないことがあります。この場合には、通信速度を9600bpsにしてください。

- ・データ通信を行う場合、フロー制御はRTS/CTSに設定してください。それ以外に設定すると、データ抜けが生じる可能性があります。
- ・通常の電話回線を使用する場合、送信レベルは購入時の設定から変更する必要はありません。ただし、回線状態が悪く、うまく接続できない場合には、送信レベルの調整が必要なことがあります。送信レベルの調整は、工事担当者以外が行うことは法律で禁じられていますので、当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。
- ・本機に内蔵されているモデムは、海外では使用できません。
- ・海外と直接接続した場合、伝送路の特性のため正常に通信できない可能性があります。
- ・K56flexおよびITU-T V.90の最大受信速度56,000bpsは、理論値であり、加入電話回線での通信速度とは異なります。
- ・ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。詳しくは、下記のREADME ファイルをご覧ください。
 - Windows Me/Windows 98の場合：


```
C:\Windows\SCmodem\Atc\Htm\Atc000.HTM
```
 - Windows 2000の場合：


```
C:\WINNT\SCmodem\Atc\Htm\Atc000.HTM
```
- ・回線を使って通信中はスタンバイ状態、休止状態にしないでください。
- ・分岐アダプタを使って本機と電話機などの両方を電話回線に接続している場合、本機で回線を使っているときは、電話機などの受話器をはずさないでください。本機の通信が妨害され、切断されることがあります。
- ・接続する電話機などの種類によっては、動作しない機種があります。
- ・接続する電話機などの種類によっては、内蔵FAXモデムが正常に通信できない場合があります。内蔵FAXモデムが正常に通信できない場合は、以下のいずれかの方法で、正常に通信できるようになります。
 - 接続する電話機などにアース接続用の端子がある場合は、アース線をつなぐ
 - 内蔵FAXモデムで通信を行うときは、電話機などを取りはずす
- ・構内交換機(PBX)の種類によっては内蔵FAXモデムが使用できない場合があります。
- ・Windows 2000でモデムドライバを削除する場合は、次の「モデムドライバの削除のしかた」の手順で行ってください(モデム/LAN同時搭載のモデルのみ)。

モデムドライバの削除のしかた

1 「スタート」ボタン 「ファイル名を指定して実行」をクリックする

2 次のように入力して、「OK」ボタンをクリックする

C: ¥WIN2K ¥XC MODEM ¥XM REMOVE . EXE

-  **チェック!!** デバイスマネージャのドライバの削除で、モデムドライバの削除を行わないでください。デバイスマネージャでモデムドライバの削除を行うと、モデムが使用していたシリアルポート番号が解放されません。

インターネットへの通信環境を切り替える

インターネット設定切替ツールを使うと、複数のダイヤルアップ接続を使い分けたり、ダイヤルアップ接続からLAN接続へ切り替えたりと、利用シーンに応じて通信環境を切り替えることができます。

パソコンを携帯して、外出先でインターネットを利用するときなどに便利な機能です。

-  **チェック!!**
- ・インターネット設定切替ツールは、ご購入時にはインストールされていません。インターネット設定切替ツールを使用する場合は、添付の「アプリケーションCD-ROM」を使ってインストールします。インストール方法は、『活用ガイド ソフトウェア編』の「PART2 添付アプリケーションの追加と削除」をご覧ください。
 - ・インターネット設定切替ツールを使うには、ダイヤルアップネットワークの情報が必要です。ダイヤルアップネットワークが設定されていない場合は、インターネット設定切替ツールは起動できません。
 - ・LANを使った接続を行うには、あらかじめネットワークの設定をしておく必要があります。
 - ・インターネット設定切替ツールはOutlook 2000には対応していますが、Outlook 2002では対応していません。

インターネット設定切替ツールを起動する

インターネット設定切替ツールは、本機の起動時にアイコン化してインジケータ領域(タスクトレイ)に常駐します。

- 1 インジケータ領域(タスクトレイ)のをダブルクリックする
次の画面が表示されます。



この画面には、ダイヤルアップの接続情報が3つまで表示されます。使用したいダイヤルアップの接続情報が表示されていない場合は、またはをクリックして表示させてください。

はじめてインターネット設定切替ツールを起動したときは、インターネット設定切替ツールのウィザードが表示されます。ウィザードにしたがって設定を行ってください。

インターネット設定切替ツールを終了するときには

- 1 インジケータ領域(タスクトレイ)のを右クリックし、表示されたメニューから「インターネット設定切替ツールの終了」をクリックする

インターネット設定切替ツールを使うための設定をする

ダイヤルアップ接続の情報を登録する

外出先でインターネットを使うときなどは、あらかじめインターネット設定切替ツールに新しいダイヤルアップ接続の情報を登録しておきます。

- 1 「インターネット設定切替ツール」の「プロパティ」ボタンをクリックする
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「ボタン設定」タブをクリックする
- 3 「ダイヤルアップ」をにし、「追加」ボタンをクリックする

- 4 新しく登録する接続名を入力して、「次へ」ボタンをクリックする
- 5 プロバイダに接続するための電話番号、国番号を入力し、「次へ」ボタンをクリックする
「新しいダイヤルアップ ネットワーク接続が次の名前で作成されました。」と表示されます。
- 6 接続名を確認して、「完了」ボタンをクリックする
- 7 「OK」ボタンをクリックする。
新しいダイヤルアップ情報が登録されます。

ダイヤルアップ接続の情報を修正する

登録した情報を修正したいときは、次の手順で行います。

- 1 登録されているダイヤルアップ接続から、変更するものをクリックする
- 2 「修正」ボタンをクリックする
- 3 表示された画面でダイヤルアップ接続の内容を変更する

LAN接続へ切り替えるための設定を行う

インターネット設定切替ツールで、LAN接続への切り替えを利用したい場合は、次の手順で設定を行っておいください。

- 1 「インターネット設定切替ツール」の「プロパティ」ボタンをクリックする
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「環境設定」タブをクリックする
- 3 「LANを使用する」をにし、「OK」ボタンをクリックする
これでインターネット設定切替ツールでLAN接続への切り替えができるようになります。

接続環境を反映するメールソフトを選ぶ

インターネット設定切替ツールで接続環境を切り替えたときに、切り替えた接続環境の情報をどのメールソフトに反映するかを選んでおきます。

接続環境を変更すると、メールソフトでも新たにその接続環境を設定しておく必要があるのですが、ここで選んだメールソフトは、メールソフト側で設定変更することなく使えるようになります。

インターネットエクスプローラは、接続環境の切り替えを自動的に認識しますので、ここで設定する必要はありません。

- 1 「インターネット設定切替ツール」の「プロパティ」ボタンをクリックする
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「環境設定」タブをクリックする
- 3 「切り替えるAPを選択してください」欄で、接続環境を反映するメールソフトをにする
- 4 「OK」ボタンをクリックする
これで通信環境を切り替えるための設定ができました。

インターネット設定切替ツールで、より詳細な設定を行いたい場合は、「詳細設定」をご覧ください。

接続環境を切り替える

- 1 「インターネット設定切替ツール」を起動する
- 2 切り替える接続環境名をクリックする
インジケータ領域(タスクトレイ)のを右クリックし、表示されたメニューから切り替える接続環境名をクリックして切り替えることもできます。

これでインターネットへの接続環境が切り替わります。

詳細設定

接続環境の詳細設定は「プロパティ」ウィンドウで行います。



接続先の選択

設定を行いたい接続の種類(ダイヤルアップまたはLAN接続)をクリックして●にします。

接続名表示欄

登録されているダイヤルアップ接続名が表示されています。接続名の左をにすると、メイン画面やインジケータ領域(タスクトレイ)からのメニューにダイヤルアップ接続環境名として表示されるようになります。

「更新」ボタン

登録してあるダイヤルアップの接続情報を自動更新することができます。インターネット設定切替ツールで接続環境を設定したあとで、インターネット設定切替ツールを使用せずに直接ダイヤルアップ接続の設定を追加や削除した場合は、このボタンをクリックしてください。現在のダイヤルアップ接続の情報が取り込まれ、インターネット設定切替ツールの環境設定に反映されます。

「修正」ボタン

登録してあるダイヤルアップ接続の情報を変更することができます。

所在地

「所在地を変更しない」を選んだ場合、接続環境を切り替えても所在地情報は変更されません。「所在地情報名」を選んだ場合は、接続環境を切り替えると、システム上の所在地情報に反映されます。

アカウントの選択

使用するメールソフトのどのアカウントに接続情報を反映するかを選ぶことができます。この項目を使用するには、メールソフトで複数のアカウントを作成しておく必要があります。

携帯電話 / PHS接続機能

携帯電話またはPHSを接続することで、屋外でも手軽にインターネットや電子メールを利用できます。

携帯電話またはPHSとの接続

本機に携帯電話やPHSを接続して、屋外でもインターネットや電子メールを利用することができます。

携帯電話やPHSを接続するためのUSBケーブルが添付されているモデルをお使いの場合は、添付のケーブルを使って接続してください。

携帯電話やPHSと接続するためのUSBケーブルが添付されていないモデルをお使いの場合、本機と携帯電話やPHSを接続するためには、別売のケーブルが必要になります。以下の中からいずれかのケーブルを購入してください。

- ・ 携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル(PC-VP-WK05)
- ・ cdmaOne接続ケーブル(PC-VP-WK06)
- ・ PHS(NTTドコモ / アステル)接続ケーブル(PC-VP-WK07)
- ・ PHS(DDIポケット)接続ケーブル(PC-VP-WK08)

お使いの携帯電話やPHSによって必要なケーブルが異なりますので、ケーブルを購入する際には、お使いの携帯電話やPHSに合ったケーブルを確認してください。

接続できる携帯電話またはPHSについては、NECのホームページ「121ware.com(ワンツワンウェア ドット コム)」をご覧ください。

<http://121ware.com/>

携帯電話またはPHSを接続する

- 1 接続ケーブルのラベルが貼ってあるほうのプラグを、携帯電話またはPHS本体に接続する
プラグの向きに注意し、カチッと音がして止まるまで軽く押し込んでください。

2 USBコネクタのカバーを開き、本機のUSBコネクタ()に、接続ケーブルのプラグを接続する

3つあるUSBコネクタのうち、どのUSBコネクタに接続してもかまいません。コネクタの向きに注意して、止まるまで軽く押し込んでください。

USBコネクタへの接続について詳しくは、PART2の「USBコネクタ」(p. 166)をご覧ください。

接続先を設定する

プロバイダなどへの接続先を、携帯電話またはPHSを使用した接続設定にするときは、「ダイヤルアップネットワーク」で新しい接続を作成するときに、「モデムの選択」でWindows Meモデル、Windows 2000モデルをお使いの場合は「SunComm MultiMobile3 USB」、Windows 98モデルをお使いの場合は「SunComm MultiMobile3」を選んでください。



チェック!! お使いの携帯電話またはPHSによっては、電話機側に設定が必要な場合や専用のアクセスポイントへの接続が必要な場合があります。詳しくは、携帯電話またはPHSのマニュアルをご覧ください。また専用のアクセスポイントについては、インターネットのサービスプロバイダにお問い合わせください。

ダイヤル設定のしかた

ダイヤルの設定を確認または変更したいときは、次の手順で行います。

Windows Me / Windows 98の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「テレフォニー」アイコンをダブルクリックする

「所在地情報」ウィンドウが開いた場合

市外局番の欄に0を除いた市外局番を入力し、「OK」ボタンをクリックします。再度、「ダイヤルのプロパティ」ボタンをクリックすると、「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示されます。必要な項目を確認して設定してください。

携帯電話またはPHSなど、必ず市外局番からダイヤルする必要がある環境で使用する場合は、市外局番の欄を「000」に設定してください。

「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが開いた場合



携帯電話 / PHSの場合は、「000」を入力する

Windows 2000の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「電話とモデムのオプション」アイコンをダブルクリックする

「電話とモデムのオプション」ウィンドウが表示されます。

はじめてダイヤル設定を行うときは、「所在地情報」ウィンドウが表示されます。このような場合は、次の「所在地情報」ウィンドウが表示された場合」をご覧ください。

「所在地情報」ウィンドウが開いた場合

市外局番の欄に0を除いた市外局番を入力し、「OK」ボタンをクリックします。再度、「電話とモデムのオプション」ボタンをクリックすると、「電話とモデムのオプション」ウィンドウが表示されます。必要な項目を確認して設定してください。

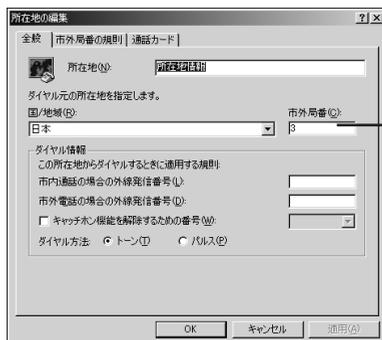
携帯電話またはPHSなど、必ず市外局番からダイヤルする必要がある環境で使用する場合は、市外局番の欄を「000」に設定してください。

2 「ダイヤル情報」タブで、設定したい所在地名を選んでから「編集」ボタンをクリックする



新規にダイヤル設定を行いたい場合は、「新規」ボタンをクリックし、表示された「新しい所在地」ウィンドウで設定を行ってください。

3 「所在地の編集」ウィンドウで設定を行う



4 設定が終わったら、「OK」ボタンをクリックする

携帯電話 / PHS接続機能使用上の注意

ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。詳しくは、下記のREADMEファイルをご覧ください。

・Windows Me/Windows 98の場合:

C: ¥Windows¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

・Windows 2000の場合:

C: ¥WINNT¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

いろいろなデータ通信を行う

本機では、通常のデータ通信のほかに、次のようなデータ通信を行うことができます。

- ・cdmaOneによるデータ通信
- ・NTTドコモのDoPaサービスによるデータ通信
- ・NTTドコモのドッチーモによるPIAFS32Kデータ通信
- ・NTTドコモのドッチーモによるPIAFS64Kデータ通信
- ・NTTドコモの64K対応PHSによるデータ通信
- ・DDIポケットの32K対応電話機によるPIAFS32Kデータ通信
- ・DDIポケットのH"(エッジ)によるPIAFS64Kデータ通信

これらのデータ通信をご利用になる場合には、それぞれのデータ通信に対応した接続ケーブルと、「ダイヤルアップの接続」画面での設定が必要になることがあります。



チェック!!

これらのデータ通信をご利用になるときは、アクセスポイントがご利用のデータ通信に対応していることを確認してください。対応していないデータ通信方式で接続すると、接続できなかったり、正常に通信できないことがあります。

		必要な接続ケーブル	ダイヤルアップの設定
cdmaOne ¹		cdmaOne接続ケーブル (PC-VP-WK06)	必要ありません
NTTドコモ	DoPaサービス (パケット通信サービス)	携帯電話 DoPa/PDC) 接続ケーブル (PC-VP-WK05)	「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##02」を追加する必要があります。 ²
	PHS (64K対応機種)	携帯電話 (NTTドコモ/アステル) 接続ケーブル (PC-VP-WK-07)	「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##4」を追加する必要があります。
	ドッチーモ (PIAFS64K 機種) ³	携帯電話 (DoPa/PDC) 接続ケーブル (PC-VP-WK05)	「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##4」を追加する必要があります。
	ドッチーモ (PIAFS32K 機種) ³	携帯電話 (DoPa/PDC) 接続ケーブル (PC-VP-WK05)	「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##3」を追加する必要があります。 ⁴
DDIポケット	PIAFS32K 対応電話機	PHS(DDIポケット) 接続ケーブル (PC-VP-WK08)	「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##3」を追加する必要があります。 ⁴
	H ² (エッジ)	PHS(DDIポケット) 接続ケーブル (PC-VP-WK08)	「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##4」を追加する必要があります。 ⁵

1 データ通信を行うには、データ通信モードを「Async」に設定する必要があります。Packet通信モードをご利用になる場合は、データ通信モードを「Packet」に変更してください。データ通信モードの切り替えについては、cdmaOneの取り扱い説明書をご覧ください。

2 DoPaサービスを利用せずに9600bpsデータ通信を行う場合、この設定は必要ありません。

3 ドッチーモでPIAFS通信を行う場合には、ドッチーモの待ち受けモードを「PHS専用」に切りかえる必要があります。

4 NTTドコモ、アステル、DDIポケットのPHSをお使いの場合は、この設定は必要ありません。

5 一部の地域では64Kbpsでのデータ通信ができないことがあります。32Kbpsで接続されます。また、次のような場合にも、64Kbpsでなく、32Kbpsで接続されることがあります。

- ・電話番号の最後に「##4」を追加しなかった場合
- ・回線が混雑している場合



LAN(ローカルエリアネットワーク)

ここでは、LAN内蔵モデルについての説明をしています。

LANへの接続

LANボードが内蔵されているモデルでは、100BASE-TXまたは10BASE-Tネットワークシステムに接続することができます。

100BASE-TXは、従来のEthernet(10BASE-T)の環境で転送速度100Mbpsを実現したネットワークです。従来のネットワーク構成を変更せずに既存のハブやリンクケーブルを変更するだけで、高速化がはかれます。本機は、どちらの環境にも接続することができます。

LANの設置

はじめて100BASE-TXネットワークを設置するためには、配線工事などの技術が必要ですので、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。また、本機に接続するケーブル類やハブなどは、弊社製品を使用してください。他社製品を使用し、システムに異常が発生した場合の責任は負いかねますので、ご了承ください。

接続方法

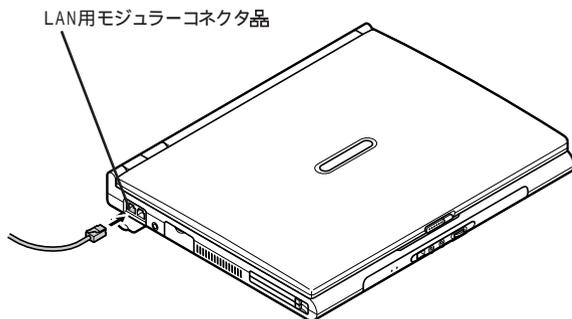
既存のネットワークに、端末として本機を接続する場合について説明します。

ネットワークへの接続には、リンクケーブルが必要です。

本機に内蔵されているLANインターフェイスは、100Mbpsで動作する100BASE-TX基準を満たしています。100BASE-TX(100Mbps)で使用する際には、必ずカテゴリ5のリンクケーブルを使用してください。10BASE-T(10Mbps)で使用する際には、カテゴリ3または5のリンクケーブルを使用してください。

 **チェック!!** 本機を稼働中のネットワークに接続するには、システム管理者またはネットワーク管理者の指示にしたがって、ネットワークの設定とリンクケーブルの接続を行ってください。

- 1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す
- 3 LAN用モジュラーコネクタのカバーを開き、リンクケーブルの一端を、本機のLAN用モジュラーコネクタに奥までしっかり差し込む



- 4 リンクケーブルのもう一方を、ネットワーク(100BASE-TXハブなど)に接続する
ネットワーク側の接続や設定については、接続するネットワーク側の機器のマニュアルをご覧ください。
- 5 ネットワークへの接続が終了したら、ACアダプタを本機に取り付け、電源コードのプラグをACコンセントに接続する

運用上の注意

LANに接続して本機を使用するときは、次の点に注意してください。

- ・システム運用中は、ハブからリンクケーブルを外さないでください。ネットワークが切断されます。ネットワーク接続中にリンクケーブルが外れたときは、すぐに接続することで復旧し、使用できる場合もありますが、使用できない場合は、本機を再起動してください。
- ・LAN回線を接続してネットワーク通信をするときには、本機にACアダプタを接続して使用するようにしてください。バッテリーパックのみで使用すると、使用時間が短くなります。

- ・スタンバイ状態(サスペンド)または休止状態(ハイバネーション)では、ネットワーク機能が一旦停止します。ネットワークを使用するアプリケーションによっては、スタンバイ状態または休止状態になったときにデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合は、システム管理者に確認のうえ、スタンバイ状態または休止状態を使用してください。
- ・100BASE-TX/10BASE-Tシステムの保守については、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

ユニバーサル管理アドレスについて

ユニバーサル管理アドレスは、IEEE(米国電気電子技術者協会)で管理されているアドレスで、主に他のネットワークに接続するときなどに使用します。ユニバーサル管理アドレスは、次の方法で確認することができます。

MS-DOSプロンプトに、次のコマンドを入力してください。

Windows Me/Windows 98の場合

Winipcfg.exe【Enter】

(ただしTCP/IPプロトコルが必要です。)

Windows 2000の場合

NET CONFIG WORKSTATION【Enter】

(「アクティブなネットワーク(ワークステーション)」という項目の()内に表示されます。)

本機の運用管理

本機は、システム管理者が効率よく本機をマネジメントするための運用管理、セキュリティ、資源管理および遠隔操作・保守を行うための機能があります。システム管理者が効率よくパソコンをマネジメントするために、次のような手段・機能を利用することが効率的であるといわれています。

- ・一般のユーザが、Windowsのシステムに影響のあるファイルを変更・削除したり、アプリケーションをインストールできないようにする
- ・機密データの漏洩、改ざん防止、コンピュータウイルスの侵入を防ぐため、外部からデータを取り込むフロッピーディスクドライブを使用できないようにする(ロックする)

- ・アプリケーションのバージョンアップのために、必要なパソコンのハードウェア構成情報(メモリ容量、ハードディスクの空き容量など)ソフトウェア構成情報を管理する
- ・ハードウェアに異常が発生したことを一般ユーザやシステム管理者に通知する
- ・システム管理者のパソコンから管理するパソコンの電源、システムを遠隔操作できる

このような手段・機能を利用するために、次のようなマネジメント(運用管理)機能を備えています。

クライアントモニタリング

「Intel® LANDesk® Client Manager (with NEC Extensions)」により、離れたところにあるマシンから本機の状態を知ることができます。また、システム管理者が別売のPCMANAGERなどを利用して一括でクライアントPCの障害情報を監視できます。

参照

『活用ガイド ソフトウェア編』PART1の「Intel® LANDesk® Client Manager 6 (with NEC Extensions)」

・ 資源管理

本機のメモリ容量、ハードディスク容量などのハードウェア構成およびインストールされているアプリケーションについての情報を知ることができます。また、離れたところにあるマシンから、本機の情報を知ることができます。

・ 状態監視

障害監視機能が異常を検出すると、本機の状態監視アイコンやポップアップメニューにより異常を通知し、バックアップツールの連携操作などができます。また、離れたところにあるマシンから、本機の状態を知ることができます。

リモートコントロール

離れたところにあるシステム管理者のマシンから本機を操作して、次の操作を行うことができます。

- ・ 本機のデータやシステムファイルなどのバックアップ
- ・ ファイル転送
- ・ アプリケーションのインストール
- ・ アプリケーションの実行などの操作(アプリケーションによってはできないものがあります)

 **チェック!!** この操作を行うには、システム管理者のマシンに次のアプリケーション(別売)が必要です。

「DMIT00L Ver8.2(pcAnywhere™ 9.2 EX コンプリート版付)」

 **参照** 『活用ガイド ソフトウェア編』PART1の「pcAnywhere 9.2 EX」

「DMIT00L Ver8.2(pcAnywhere™ 9.2 EX コンプリート版付)」に関する最新情報は、NECのホームページ「121ware.com(ワントウワンウェア ドット コム)」で提供しています。

<http://121ware.com/>

ネットワークブート

管理者パソコンと接続し、次の操作を行うことができます。

 **チェック!!** この機能を使用するには、別途同一LAN上の管理者パソコンで、別売のESMPRO/ClientManager Ver3.1以上のRemote Install Managerが設定されている必要があります。

- ・ OSのセットアップ
- ・ BIOSフラッシュ(BIOS ROMの書き換え)
- ・ BIOS設定変更

上記の作業を行う際に、ネットワークからの起動が必要になった場合は、本機起動時に「NEC」ロゴが表示されているときに【F12】を押すとネットワークブートが可能になります。

 **チェック!!** 【F12】を押し続けても、ネットワークブートができないことがあります。この場合、再度【F12】を押しながら電源を入れてください。

リモートパワーオン機能(Remote Power On機能)の設定

本機におけるLANによるリモートパワーオン機能は次のとおりです。

- ・電源の切れている状態から電源を入れる(パワーオン)
- ・スタンバイ状態(サスペンド)からの復帰
- ・休止状態(ハイバネーション)からの復帰

本体およびLANボードがリモートパワーオンに対応しているパソコンで、リモートパワーオン機能を使うように設定している場合は、本体の電源が切れているときも、LANボードの一部は通電されています。

リモートパワーオン機能を利用するには、リモートパワーオンのパケットを発信するパソコンに、別売の「DMIT00L Ver8.2(pcAnywhere™ 9.2 EX コンプリート版付)」が、パワーオンのパケットを受信するパソコンにはBIOSの設定(リモート電源制御)が必要です。

電源が切れている状態や、スタンバイ状態(サスペンド)または休止状態(ハイバネーション)からリモートパワーオン機能を利用するためには、次の設定を行ってください。

Windows Me、Windows 98の場合、リモートパワーオンには、従来からサポートされているMagicPacket検出に加えて、電源回復フレーム検出(例えば、ARPリクエスト、NETBIOS名検索、コンピュータに直接送られてきたIPフレームなどの検出)が追加されています。

ARPリクエスト、NETBIOS名検索、コンピュータに直接送られてきたIPフレームなどは、コンピュータをネットワークに接続して使用していると、他のコンピュータから不定期に送られてくるため、本機をスタンバイ状態または休止状態にしておくと、これらが検出されたときに、不定期にスタンバイ状態または休止状態から復帰することがあります。

チェック!! ・リモートパワーオン機能の設定を行った場合は、購入時の設定で使う場合にくらべて、本機のバッテリーの消費量が大きくなります。バッテリー駆動時間を優先して本機を使いたい場合は、リモートパワーオン機能の設定は行わずに出荷時の設定で使用してください。

- ・リモートパワーオン機能を使用する場合は、ACアダプタを接続した状態で本機を休止状態または電源が切れている状態にしてください。ACアダプタを接続しない状態で休止状態または電源が切れている状態にすると、リモートパワーオン機能は利用できません。また、本機を休止状態または電源が切れている状態にした後でACアダプタを外した場合、再度ACアダプタを接続してもリモートパワーオン機能は利用できません。一度電源スイッチを押して、休止状態から復帰するか、または電源を入れてください。

電源の切れている状態からリモートパワーオン機能を利用するための設定

1 BIOSセットアップメニューを起動する(p.174)

2 「詳細(Advanced)」メニューの「リモート電源制御(Remote Power On)」を「使用する(Enabled)」に設定する

スタンバイ状態または休止状態からリモートパワーオン機能を利用するための設定(Windows Me / Windows 98の場合)

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

2 「デバイスマネージャ」タブをクリックする

3 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックする

4 表示されたLANアダプタをダブルクリックする

5 「電源の管理」タブをクリックする

6 以下の設定を行う

- ・「節電のためにコンピュータの電源を自動的に切る」を「オン」にします。
- ・「コンピュータのスタンバイ解除の管理をこのデバイスで行う」を「オン」にします。

Windows 98で休止状態からのリモートパワーオン機能を使用する場合は、続けて以下の設定を行ってください。

- 7 BIOSセットアップメニューの「詳細(Advanced)」メニューの「リモート電源制御(Remote Power On)」を「使用する(Enabled)」にする

スタンバイ状態または休止状態からリモートパワーオン機能を利用するための設定(Windows 2000の場合)

- 1 「Administrator」でログオンする
- 2 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
- 3 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックする
- 4 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックする
- 5 表示されたLANアダプタをダブルクリックする
- 6 「電源の管理」タブをクリックする
- 7 以下の設定を行う
 - ・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようにする」を「オン」にします。
 - ・「電力の節約のために、このコンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」を「オン」にします。

 **チェック!!** 前回のシステム終了が正常に行われなかった場合、リモートパワーオン機能を使用して電源を入れることはできません。一度電源スイッチを押して本機を起動し、もう一度正しい方法で電源を切ってください。

P A R T

2

周辺機器を使う

別売の周辺機器の接続方法や注意事項などを説明しています。

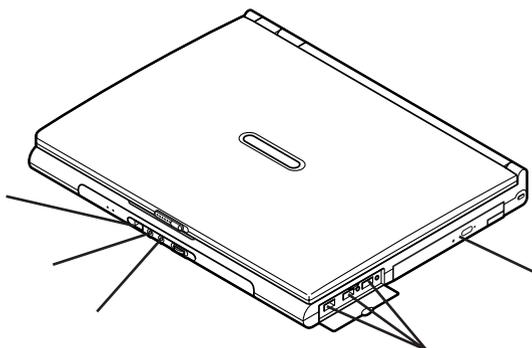
接続できる周辺機器

本機には、次のような別売の周辺機器を接続できます。

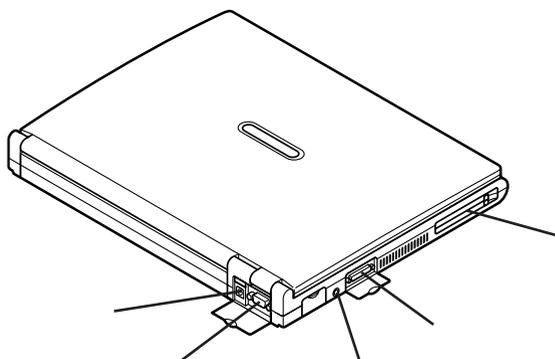
本体に接続できる周辺機器一覧

本機のそれぞれのコネクタや端子に接続できる周辺機器について説明します。

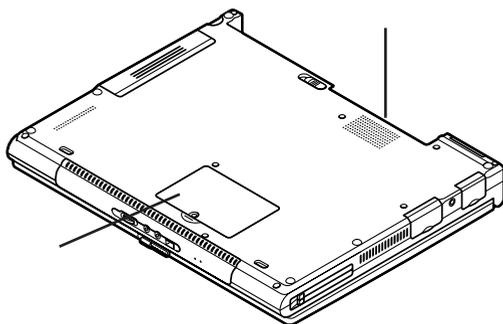
本体前面 / 右側面



本体背面



本体底面



名称	接続できる周辺機器
IEEE1394コネクタ	デジタルビデオカメラ
外部マイクロホン端子	マイクロホン
ヘッドホン / オーディオ / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子	ヘッドホン
USBコネクタ	USBマウス、USBテンキーボード、携帯電話、PHS端末など(携帯電話、PHS端末を接続する場合は、携帯電話 / PHS接続ケーブルが必要)
VersaBay IV	CD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブ、セカンドバッテリーパック
映像出力端子	テレビ(別売のTV-OUT端子用ケーブルが必要(CD-R/RW with DVD-ROMモデルのみケーブル添付))
外部CRT用コネクタ	外部ディスプレイ
DCコネクタ	カーアダプタ
パラレルコネクタ	プリンタ(別売のパラレル変換ケーブルが必要)
PCカードスロット	PCカード、SCSIインターフェイスカードなど(SCSIインターフェイスカードを使うと、MOドライブやハードディスクを接続できます)
バッテリースロット	バッテリーユニット(LL)
メモリスロット	増設RAMボード

周辺機器の利用

プリンタや外部ディスプレイなど、本機に接続して使用する機器全般を、周辺機器といいます。本機には、さまざまな周辺機器を接続するためのコネクタやポートが用意されています。

また、別売のUSBポートバーやパラレル変換ケーブルを利用して周辺機器を接続することもできます。

周辺機器利用上の注意

⚠ 警告



雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

⚠ 注意



周辺機器の取り付け / 取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと、本機と周辺機器の電源コードを抜いてください。電源コードがACコンセントに接続されたまま、周辺機器の取り付け / 取り外しをすると、感電の原因となります。

濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

✓ チェック!! 本機はシリアルコネクタを搭載していません。シリアル対応機器を接続するには、別売のUSBポートバー（PK-UP012S / PK-UP012NS）が必要です。

周辺機器の取り付け / 取り外し時の注意

- ・ 本機がスリープ状態のときは、周辺機器を取り付けたり取り外したりしないでください。
本機がスリープ状態のときは、一旦スリープ状態から復帰させてデータを保存し、電源を切ってから周辺機器の取り付けや取り外しを行ってください。

- ・別売の周辺機器を取り付けるときには、その周辺機器が本機に対応していることを確認してください。また、周辺機器によっては使用上の制限事項がある場合がありますので、周辺機器の説明書などをよくお読みになり使用してください。当社製以外の周辺機器を使用する場合は、機器の製造元 / 発売元などに上記の事項を確認してください。
- ・周辺機器の取り付けや取り外しは、取扱説明書に従って正しく行ってください。
- ・周辺機器によっては、専用のケーブルが必要な場合があります。接続する前に確認のうえご用意ください。

リソースの競合について

周辺機器を増設すると、他の機器とリソースが競合してどちらかが使えなくなることがあります。この場合は、以下の手順でリソースが競合しないように変更してください。

Windows Me / Windows 98の場合

- 1** 起動しているアプリケーションをすべて終了する
- 2** 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」画面が表示されます。
- 3** 「デバイスマネージャ」タブをクリックする
「デバイスマネージャ」画面が表示されます。
- 4** **!** や **X** が表示されていて動作しない周辺機器を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックする
- 5** 「プロパティ」画面で「リソース」タブをクリックし、以下の設定を行う
 - ・Windows Meの場合：
「自動設定」を (オフ) にします。
 - ・Windows 98の場合：
「自動設定を使う」を (オフ) にします。

- 6 競合しているリソースを「リソースの種類」一覧の中から選択し、ダブルクリックする
「競合するデバイス」欄に、競合しているデバイスと、競合しているリソースの種類が表示されます。
- 7 競合しないリソースの値を設定し、「OK」ボタンをクリックする
「競合の情報」欄に競合しているデバイスと競合しているリソースが表示されます。

 **チェック!!** 他の周辺機器がそのリソースを使用している場合や、「この設定のリソースは変更できません」と表示された場合は、その値への変更はできません。

選択した周辺機器によっては「ポート番号」と「I/Oの範囲」など複数の変更が必要になることがあります。

- 8 リソースが競合していないことを確認し、「プロパティ」画面で「OK」ボタンをクリックする
- 9 「変更不可の環境設定の作成」のダイアログが表示されるので、「はい」ボタンをクリックする
もとの画面に戻るまでに、しばらく時間がかかることがあります。そのままお待ちください。
- 10 「OK」ボタンをクリックし、「システムのプロパティ」を閉じる
- 11 本機を再起動する

Windows 2000の場合

- 1 起動しているアプリケーションをすべて終了する
- 2 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」画面が表示されます。
- 3 「ハードウェア」タブをクリックする
- 4 「デバイスマネージャ」の欄の「デバイスマネージャ」ボタンをクリックする
「デバイスマネージャ」画面が表示されます。

5 **!**や**X**が表示されていて動作しない周辺機器を右クリックし、表示されたメニューから「プロパティ」をクリックする

6 「プロパティ」画面で「リソース」タブをクリックし、「自動設定」を (オフ)にする

7 競合しているリソースを「リソースの種類」一覧の中から選択し、ダブルクリックする
「競合の情報」欄に、競合しているデバイスと、競合しているリソースの種類が表示されます。

8 競合しないリソースの値を設定し、「OK」ボタンをクリックする
設定したリソースの値が他のデバイスと競合している場合、「競合の情報」欄に競合しているデバイスと競合しているリソースが表示されます。

✓チェック!! 他の周辺機器がそのリソースを使用している場合や、「この構成のリソースを変更できません」と表示された場合は、その値への変更はできません。

選択した周辺機器によっては「ポート番号」と「I/Oの範囲」など複数の変更が必要になることがあります。

9 リソースが競合していないことを確認し、「プロパティ」画面で「OK」ボタンをクリックする

10 「変更不可の構成を作成しています」のダイアログが表示されるので、「はい」ボタンをクリックする
もとの画面に戻るまでに、しばらく時間がかかることがあります。そのままお待ちください。

11 右上の をクリックし「デバイスマネージャ」を閉じる

12 「OK」ボタンをクリックし、「システムのプロパティ」を閉じる

13 本機を再起動する

周辺機器を使えるようにセットアップする

周辺機器を使うには、接続した周辺機器用のデバイスドライバを本機にセットアップする必要があります。デバイスドライバとは、本機と周辺機器との仲介をする周辺機器専用のソフトウェアのことです。

✓チェック!! デバイスドライバが正しく組み込めなかった場合は、周辺機器が使用できないばかりか、本機の動作が不正になることがあります。その場合は、周辺機器のマニュアルに従って、再度デバイスドライバを正しく組み込んでください。

デバイスドライバのセットアップ方法は、周辺機器がプラグ&プレイ機能に対応しているかどうかによって異なります。

- ・「プラグ&プレイ機能」対応の周辺機器の場合
機器を本機に接続してWindowsを起動すると自動的にドライバの設定が行われ、機器が使用可能な状態になります。

本機には、プラグ&プレイ機能用に多くの周辺機器のドライバがあらかじめ添付されています。接続しようとする周辺機器がプラグ&プレイ機能に対応しており、かつ添付されたドライバの中に該当するものがあれば、周辺機器の検出と設定が自動的に行われます。

- ・「プラグ&プレイ機能」に対応していない周辺機器の場合
機器を本機に接続したあと、ドライバの設定が必要な場合があります。設定の詳細は、本機やドライバに添付のREADMEファイルや周辺機器のマニュアルをご覧ください。

READMEファイルは、「メモ帳」などのテキスト形式のファイルが開けるアプリケーションで簡単に見ることができます。

周辺機器の電源を入れる / 切る順序

本機に周辺機器を接続しているときには、次の順序で電源を入れたり、切ったりしてください。

電源を入れるとき

周辺機器の電源を入れる

本機の電源を入れる

電源を切るとき

本機の電源を切る

周辺機器の電源を切る

プリンタ

プリンタを使用するには、そのプリンタ機種に対応した専用のドライバが必要です。ドライバは通常フロッピーディスクなどの形でプリンタに添付されています。また、本機にも代表的なプリンタのドライバが数多く添付されています。

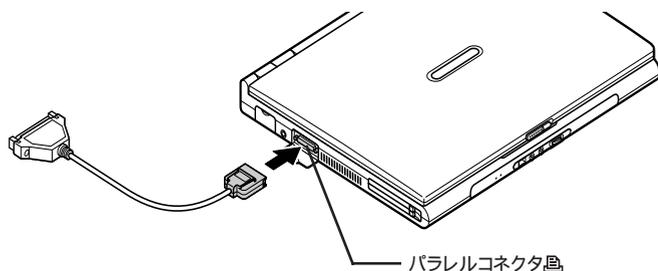
プリンタの接続

本機とプリンタとを接続するには、25ピンパラレルインターフェイスに対応したプリンタケーブルと別売のパラレル変換ケーブル(PC-VP-BK03)またはUSBポートバー(PK-UP012S / PK-UP012NS)が必要です。

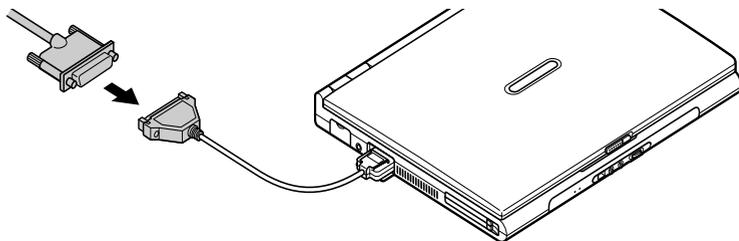
チェック!! USBポートバー(PK-UP012S / PK-UP012NS)で使用できないプリンタもありますので、購入時には注意してください。

プリンタによっては、本機のUSBコネクタに接続できる機種もあります。USBコネクタへのUSB対応プリンタの接続のしかたについては、「USBコネクタ」(p.166)をご覧ください。

- 1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す
- 3 パラレルコネクタのカバーを開き、パラレル変換ケーブル(別売)のマークのある面を上にして本体のパラレルコネクタにカチッと音がするまで軽く押し込む
変換ケーブルのマニュアルもあわせてご覧ください。



- 4** パラレル交換ケーブルのコネクタにプリンタケーブルの小さいほうのプラグを向き(上下)に注意して差し込む



- 5** プリンタケーブルの大きい方のプラグをプリンタのコネクタに差し込む
接続についてはプリンタのマニュアルもご覧ください。

プリンタの設定

プリンタの設定は、使用するプリンタの機種ごとに、Windowsの「プリンタ」ウィンドウで行います。例えば、会社で使うプリンタと家庭で使うプリンタの機種が異なる場合は、それぞれの機種に対して設定を行う必要があります。プリンタの設定について詳しくは、お使いのプリンタのマニュアルをご覧ください。

マウス

本機では添付または別売のマウスを使用することができます。ここでは、別売のUSBマウスを使用するための手順を説明しています。

別売のマウスの設定方法

- ✓チェック!!** マウスドライバの変更を行うとき、一時的にマウスやNXパッドなどのポインティングデバイスが使用できなくなる場合があります。その場合は次のようにキーボードを使って本機を再起動してください。

キーボードでの再起動

【Ctrl】を押しながら【Esc】を押す

カーソル移動キーで「Windowsの終了」を選択し【Enter】を押す

カーソル移動キーで「再起動」または「再起動する」を選択し、【Enter】を押す

USBマウスを使用する

本機でUSBマウスを使用する場合は、次の手順で設定を行ってください。

- ✓チェック!!** ・購入時はNXパッドドライバはインストールされていません。NXパッドドライバのインストールについては、PART1の「NXパッド」の「NXパッドドライバをインストールする」(p.29)をご覧ください。
- ・マウスドライバの変更を行うときは、使用中のアプリケーションをすべて終了させてください。

Windows Me / Windows 98の場合

- 1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」画面が表示されます。
- 2 「デバイス マネージャ」タブをクリックする
- 3 「マウス」の左の[+]をクリックする
- 4 「NX PAD」を選択し「プロパティ」ボタンをクリックする
「NX PAD プロパティ」または「NX PADのプロパティ」画面が表示されます。

5 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする
「デバイスドライバの更新ウィザード」画面が表示されます。

6 次の操作を行う

- ・ Windows Meの場合
「ドライバの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- ・ Windows 98の場合
「次へ」ボタンをクリックする

7 次のものを選択し、「次へ」ボタンをクリックする

- ・ Windows Meの場合
「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」
- ・ Windows 98の場合
「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」

8 「モデル」から「標準PS/2ポートマウス」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

-  **チェック!!** ・「モデル」に「標準PS/2ポートマウス」が表示されていない場合は、「すべてのハードウェアを表示」をクリックして「製造元」から「標準マウス」を選択し、「モデル」から「標準PS/2ポートマウス」を選択してください。
- ・「ドライバ更新の警告」画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

9 「次へ」ボタンをクリックする
必要なファイルがコピーされます。

10 「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックする

-  **チェック!!** ポインタが動かなくなった場合は、【Enter】を押してください。

- 11 再起動を促すメッセージが表示された場合は「いいえ」ボタンをクリックする
- 12 「標準PS/2ポートマウスのプロパティ」画面の「閉じる」ボタンをクリックする
- 13 「システムのプロパティ」画面の「閉じる」ボタンをクリックする
- 14 本機を再起動する
「システムの設定変更」画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックします。
本機が再起動します。

再起動後、USBマウスを接続してください。

チェック!! Windows Meの場合、「マウスのプロパティ」で「ポインタの速度」の設定を変更すると、USBマウスを動かしても、マウスポインタが正常に動作しない場合があります。この場合は、次の手順でポインタの速度を標準設定に戻してください。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「マウス」アイコンをダブルクリックする
「マウスのプロパティ」が表示されます。
- 2 「ポインタ オプション」タブをクリックする
- 3 「ポインタの速度」を左から5番目の設定にする

参照 マウスドライバのインストール方法 各機器のマニュアル

Windows 2000の場合

- 1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」画面が表示されます。
- 2 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックする

- 3 「マウスとそのほかのポインティングデバイス」の左の \oplus をクリックする
- 4 「NX PAD」をダブルクリックする
「NX PADのプロパティ」画面が表示されます。
- 5 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする
「デバイスドライバのアップグレードウィザード」画面が表示されます。
- 6 「次へ」ボタンをクリックする
- 7 「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 8 「モデル」から「標準PS/2ポートマウス」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

-  **チェック!** ・「モデル」に「標準PS/2ポートマウス」が表示されていない場合は、「このデバイスクラスのハードウェアをすべて表示」をクリックして「製造元」から「標準マウス」を選択し、「モデル」から「標準PS/2ポートマウス」を選択してください。
- ・「ドライバの更新警告」画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

- 9 「次へ」ボタンをクリックする
必要なファイルがコピーされます。
「デバイスのインストールの確認」画面が表示された場合は「はい」ボタンをクリックしてください。
- 10 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックする
- 11 「閉じる」ボタンをクリックする
「システム設定の変更」画面が表示されます。

12 「はい」ボタンをクリックする 本機が再起動します。

再起動後、USBマウスを接続してください。

参照 マウスドライバのインストール方法 各機器のマニュアル

NXパッドを使用する設定に戻す

チェック!! 購入時はNXパッドドライバはインストールされていません。NXパッドドライバのインストールについては、PART1の「NXパッド」の「NXパッドドライバをインストールする」(p.29)をご覧ください。

Windows Me / Windows 98の場合

- 1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」画面が表示されます。
- 2 「デバイス マネージャ」タブをクリックする
- 3 「マウス」の左の \oplus をクリックする
- 4 現在使用しているマウスを選択し、「プロパティ」ボタンをクリックする
現在使用しているマウスのプロパティ画面が表示されます。
- 5 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする
「デバイスドライバの更新ウィザード」画面が表示されます。
- 6 次の操作を行う
 - ・ Windows Meの場合
「ドライバの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
 - ・ Windows 98の場合
「次へ」ボタンをクリックする

7 次のものを選択し、「次へ」ボタンをクリックする

- ・ Windows Meの場合
「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」
- ・ Windows 98の場合
「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」

8 「ディスク使用」ボタンをクリックする

9 「C: ¥NX PAD」と入力し、「OK」ボタンをクリックする

10 「次へ」ボタンをクリックする

11 「次へ」ボタンをクリックする 必要なファイルがコピーされます。

12 「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックする

13 再起動を促すメッセージが表示された場合は「いいえ」ボタンをクリックする

14 「NX PADのプロパティ」または「NX PADプロパティ」画面の「閉じる」ボタンをクリックする

15 「システムのプロパティ」画面の「閉じる」ボタンをクリックする

16 本機を再起動する

再起動後、NXパッドが有効になります。再起動してもポインタが動かない場合は、キーボードを使用して本機をもう一度再起動してください。

Windows 2000の場合

1 「Administrator」でログオンする

2 使用中のアプリケーションをすべて終了する

- 3 「コントロールパネル」を開き、「マウス」アイコンをダブルクリックする
「マウスのプロパティ」が表示されます。
- 4 「ハードウェア」タブをクリックする
- 5 現在使用しているマウスを選択し、「プロパティ」ボタンをクリックする
現在使用しているマウスのプロパティ画面が表示されます。
- 6 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする
「デバイスドライバのアップグレードウィザード」画面が表示されます。
- 7 「次へ」ボタンをクリックする
- 8 「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 9 「ディスク使用」ボタンをクリックする
- 10 「参照」ボタンをクリックする
- 11 「ファイルの場所」にC: ¥WIN2K¥NXPADを指定する
- 12 「Apfiltr.inf」を選択してから「開く」ボタンをクリックする
- 13 「OK」ボタンをクリックする
- 14 「モデル」の「NX PAD」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 15 「次へ」ボタンをクリックする
必要なファイルがコピーされます。
「デジタル署名が見つかりませんでした」画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。
- 16 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックする

- 17** 「閉じる」ボタンをクリックする
「システム設定の変更」画面が表示されます。

- 18** 「はい」ボタンをクリックして、本機を再起動する

再起動後、NXパッドが有効になります。再起動してもポインタが動かない場合は、キーボードを使用して本機をもう一度再起動してください。

他社製のマウスドライバを使用するときの注意

他社製のマウスには、独自のマウスドライバが添付されているものがあります。他社製のマウスドライバのインストールまたはアンインストールは次の手順で行ってください。

- ✓チェック!!** マウスドライバを変更するときは、使用中のアプリケーションをすべて終了させてください。

他社製のマウスドライバをインストールする

- 1** 「USBマウスを使用する」(p.133)の手順1～11を行い、マウスドライバを「標準PS/2ポートマウス」に設定する

- 2** 他社製のマウスドライバをインストールする

参照▶ マウスドライバのインストール マウスのマニュアル

他社製のマウスドライバをアンインストールする

- 1** 他社製のマウスドライバをアンインストールする

参照▶ マウスドライバのアンインストール マウスのマニュアル

- 2** 「USBマウスを使用する」(p.133)の手順1～11を行い、マウスドライバを「標準PS/2ポートマウス」に設定する

- 3** 「NXパッドを使用する設定に戻す」(p.137)の手順に従い、NXパッドを使用する設定に戻す

外部ディスプレイ

本機にCRTディスプレイやプロジェクタを接続することができます。CRTディスプレイの大画面で作業したり、プロジェクタを使ったプレゼンテーションなどが可能になります。

CRTディスプレイの接続

CRTディスプレイ接続時の解像度と表示色

別売のCRTディスプレイでは、次の解像度と表示色を表示できます。

表示解像度 (ドット)	水平走査 周波数(KHz)	垂直走査 周波数(Hz)	表示色		
			256色	65,536色	1,677万色
640 × 480	31.5	60			
	37.5	75			
	43.3	85			
800 × 600	37.9	60			
	46.9	75			
	53.7	85			
1,024 × 768	48.4	60			
	56.5	70			
	60.0	75			
1,280 × 1,024	64.0	60			
	80.0	75			
	91.1	85			
1,600 × 1,200	75.0	60			
	93.8	75			

:表示可能

x :表示不可能

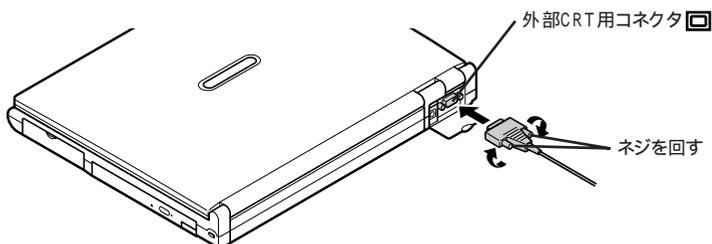


チェック!!

お使いになるCRTディスプレイによっては、上の表に記載されている走査周波数や解像度に対応していない場合があります。CRTディスプレイをご使用の際は、CRTディスプレイのマニュアルで、対応している走査周波数や解像度を確認してください。

CRTディスプレイを接続する

- 1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す
- 3 外部CRT用コネクタのカバーを開き、ディスプレイ用ケーブルを本機の外部CRT用コネクタ()に差し込んで、ネジを回して固定する



- 4 本機にACアダプタを接続する
CRTディスプレイを接続した場合、本機はACアダプタでお使いください。

プロジェクタの接続

液晶プロジェクタと解像度について

別売の液晶プロジェクタを使用する場合は、接続する前にプロジェクタのマニュアルを参考にして表示解像度などを確認してください。

参照 ▶ プロジェクタとの接続 プロジェクタのマニュアル

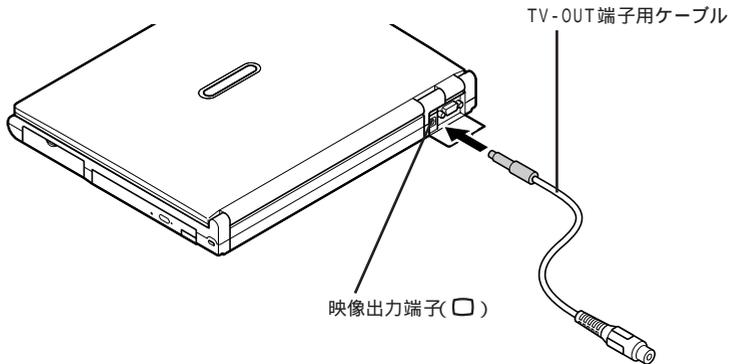
テレビの接続

本機の映像出力端子(□)とテレビやビデオなどの映像入力端子を持つ機器を接続し、パソコンの画面をテレビに出力することができます。本機をテレビやビデオに接続するためには、市販のビデオケーブルのほかにTV-OUT端子用ケーブルが必要です。

CD-R/RW with DVD-ROMモデルをお使いの場合は、TV-OUT端子用ケーブルがあらかじめ添付されています。その他のモデルをお使いの場合は、別売のTV-OUT端子用ケーブル(PC-VP-BK04)を用意してください。

テレビやビデオを接続する

- 1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す
- 3 映像出力端子のカバーを開きTV-OUT端子用ケーブルのプラグを、□マークのある面を上にして本体の映像出力端子□に差し込む



- 4 TV-OUT端子用ケーブルのもう一方のプラグに、接続するテレビまたはビデオのケーブルを接続する

参照 テレビで表示できる解像度と表示色 PART1の「液晶ディスプレイ」の「表示できる解像度と表示色」(p.49)

テレビに表示する

テレビに表示するためには設定が必要です。次の手順で設定を行ってください。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする
- 3 「ATI画面」タブをクリックする
「モニタ」パネル「テレビ」の接続状態が表示されます。
- 4 「テレビ」の左上のをクリックする
接続したテレビへの表示がオンになります。
- 5 「OK」ボタンをクリックする
- 6 メッセージが表示されたら、「はい」ボタンをクリックする

外部ディスプレイの設定

表示ディスプレイの切り替え

別売のCRTディスプレイなどを接続した場合、キーボードの【Fn】を使って、次のように表示するディスプレイを切り替えることができます。

機能	キー操作	説明
ディスプレイ切り替え 	【Fn】+【F3】	別売のCRTディスプレイが接続されているとき、キーを押すごとに、「液晶ディスプレイとCRTの同時表示（初期状態）」「テレビ」「液晶ディスプレイのみ表示」「CRTのみ表示」の順に切り替わります。

:テレビが接続されているときのみ切り替わります。

- チェック!!** ・外部ディスプレイ接続時は、液晶ディスプレイを開けてもスリープ状態にできません。
- ・DVD VIDEOディスク再生は「プライマリ」に設定されているデバイスでのみ表示可能となります。

ディスプレイに合わせて本機を設定する

別売のCRTディスプレイを使用したとき、表示されたメッセージが適切でなかったり、プラグ&プレイに対応していないディスプレイの場合には、次の操作を行ってください。

Windows Me / Windows 98の場合

- 1** 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする
- 3** 「モニタ」タブをクリックし、「変更」ボタンをクリックする
「デバイスドライバの更新ウィザード」が表示されます。
- 4** 次の操作を行う
 - ・ Windows Meの場合
「ドライバの場所を指定する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
 - ・ Windows 98の場合
「次へ」ボタンをクリックする
- 5** 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 6** 「すべてのハードウェアを表示」を選択する
- 7** 「デバイスドライバの更新ウィザード」の一覧から「製造元」と「モデル」を選択する
一覧に、接続したディスプレイのモデルが表示されない場合は、「製造元」で（標準モニタの種類）を選択し、「モデル」で接続したディスプレイに対応した解像度を選択してください。
- 8** 「次へ」ボタンをクリックし、再び「次へ」ボタンをクリックする

- 9 「完了」ボタンをクリックし、「閉じる」ボタンをクリックする
- 10 「OK」ボタンをクリックする
これでディスプレイの設定が完了しました。

Windows 2000の場合

- 1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする
- 3 「モニタ」タブをクリックし、「プラグアンドプレイモニタ」または
「既定のモニタ」を選択する
- 4 「プロパティ」ボタンをクリックする
- 5 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリック
する
「デバイスドライバのアップグレード ウィザード」が表示されます。
- 6 「次へ」ボタンをクリックする
- 7 「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択
する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 8 「このデバイス クラスのハードウェアをすべて表示」を選択する
- 9 「製造元」と「モデル」を選択する
一覧に、接続したディスプレイのモデルが表示されない場合は、「製造
元」で(標準モニタの種類)を選択し、「モデル」で接続したディス
プレイに対応した解像度を選択してください。
- 10 「次へ」ボタンをクリックし、再び「次へ」ボタンをクリックする
- 11 「完了」ボタンをクリックし、「閉じる」ボタンをクリックする
- 12 「OK」ボタンをクリックする
これでディスプレイの設定が完了しました。

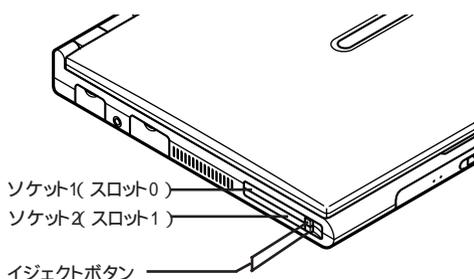
PCカード

本機ではPC Card Standard準拠のPCカードを使用できます。PCカードを使うことで、本機の機能を拡張したり、さまざまな周辺機器を接続することができます。

使用上の注意

PCカードスロットについて

- TYPE IかTYPE IIのPCカードを上下のスロットに1枚ずつ2枚まで、または上下のスロットを合わせて1枚のTYPE IIIのPCカードを使用できます。
- CardBus対応のPCカードは、ソケットX(スロット1)またはソケットI(スロット0)の両方で同時に使うことができます。
- Windows 98のMS-DOSモードでは使用できません。
- 本機のPCカードスロットでは、PC Card Standardに準拠していないPCカードは使用できません。対応していないPCカードを無理に押し込むと、故障の原因となります。
- 内蔵指紋センサモデルはスロットが1つなので、TYPE IIIのPCカードは使用できません。



PCカードの取り扱いについて

PCカードは精密にできています。PCカードやスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。

- ・高温多湿あるいは低温の場所に放置しないでください。
- ・濡らさないでください。
- ・重いものを乗せたり、ねじ曲げたりしないでください。
- ・ぶつけたり、落としたりして衝撃を与えないでください。
- ・PCカードの端子部分に金属などを差し込まないでください。

PCカード使用時の注意

- ・Windows Me / Windows 98では、ATAカードをセットしていると、カードをセットしていないときよりもスタンバイ状態または休止状態になるまでに時間がかかります。
- ・Windows Me / Windows 98でCardBus対応PCカードのドライバをインストールしているときに、「例外エラー」が発生する場合があります。この場合、本機を再起動すると、正常にインストールを完了することがあります。

PCカードのセットのしかたと取り出し方

△注意



高温注意

本機の使用後や使用直後はPCカードが熱くなっていますので、出し入れにご注意ください。

- **チェック!!** ・PCカードには表と裏があり、スロットに差し込む方向も決まっています。まちがった向きで無理やり差し込むと、コネクタやスロットを破損するおそれがあります。
- ・本機がスリープ状態のときは、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。本機の機器構成が変更されると、データが消失してしまうことがあります。
- ・アプリケーションを使用中は、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。

PCカードのセットのしかた

- 1 PCカードの差し込む向きを確認し、ラベル面を上にして、水平に静かに差し込む

PCカードの取り出し方

- 1 インジケータ領域(タスクトレイ)にあるをダブルクリックする
「ハードウェアの取り外し」画面が表示されます。
- 2 取り外すPCカードを選択し、「停止」ボタンまたは「中止」ボタンをクリックする
- 3 「OK」ボタンをクリックする
安全に取り外せるという内容のメッセージが表示されます。
- 4 「OK」ボタンをクリックする
- 5 「閉じる」ボタンをクリックして、「ハードウェアの取り外し」画面を閉じる
- 6 PCカードイジェクトボタンを押す
ボタンが手前にとび出します。
- 7 もう一度PCカードイジェクトボタンを押す
- 8 PCカードが少し出てくるので、水平に静かに引き抜く

上記の手順以外の方法でPCカードを抜きとった場合は、「デバイスの取り外しの警告」または「予期しないPCカードの取り外し」の画面が表示される場合があります。

PCカードの設定

PCカードを使用するときには、次のような設定が必要な場合があります。

割り込みレベルの設定

PCカードによっては、割り込みレベルの設定が本機の他の設定と重なる場合があります。PCカードのマニュアルと、このマニュアルのPART4の「割り込みレベルとDMAチャンネル」(p.202) をご覧になり、割り込みレベルが重なっていないか確認してください。割り込みが重なる場合は、重ならないように設定を変更してください。

メモリ

オプションの増設RAMボードを付加することで、より多くのアプリケーションを同時に起動したり、大きなデータをより高速に扱うことができます。

メモリ容量について

本機に使用できる増設RAMボードは次のとおりです。

型名	メモリ容量
PK-UG-M024	64Mバイト
PK-UG-M025	128Mバイト
PK-UG-M026	256Mバイト

本機にはメモリスロットが1つあり、最大320Mバイトまでメモリを増設することができます。

メモリの取り付け方と取り外し方

△注意



感電注意

増設RAMボードの取り付け / 取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと、電源コードとバッテリーパックを取り外してください。電源コードやバッテリーパックが取り付けられたまま増設RAMボードの取り付け / 取り外しをすると、感電の原因となります。

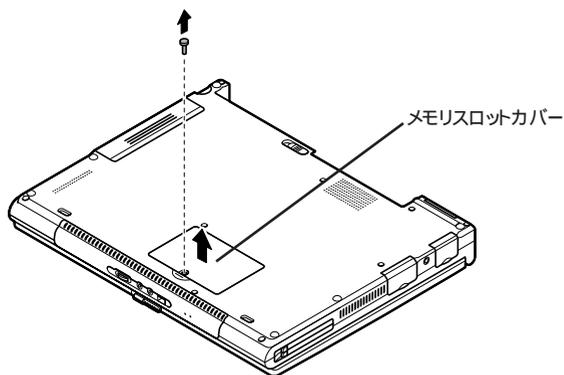


✓チェック!!

- 増設RAMボードは静電気に大変弱く、身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと破損する原因となります。増設RAMボードに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。
- 増設RAMボードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
- ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。
- 増設RAMボードを間違った向きで無理に取り付けようとすると、本機のコネクタ部や増設RAMボードが故障する原因となります。取り付け方向に注意してください。

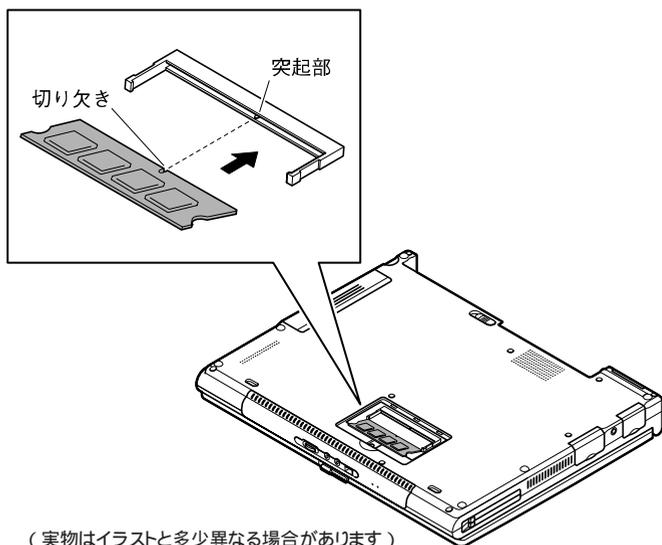
増設RAMボードの取り付け方

- 1** 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2** 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す
- 3** 液晶ディスプレイを閉じて、本機を裏返す
- 4** バッテリーパックを本機から取り外す(p.64)
- 5** 図のネジをプラスドライバーで取り外し、メモリスロットのカバーを取り外す

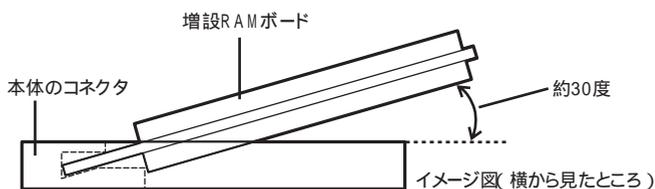


- 6** 増設RAMボードの切り欠き部分を本機のコネクタの突起部に合わせ、本機コネクタに対して約30度の挿入角度で、増設RAMボードの端子が当たるまで挿入する

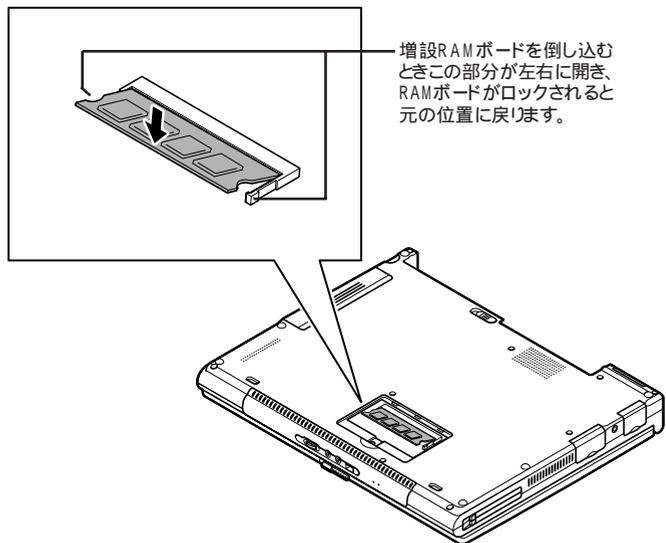
- ☑ **チェック!!** 増設RAMボードの表と裏が逆の場合は、増設RAMボードの切り欠きとコネクタの突起部が合わず、挿入することができませんので、よく確認してください。



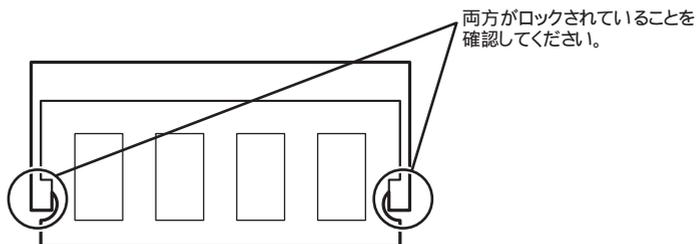
- ☑ **チェック!!** 挿入するときに、固いことがあります。奥までしっかり押し込んでください。しっかり押し込まずに次の手順を行うと、コネクタを破損するおそれがあります。



7 カチッと音がする位置まで増設RAMボードを本機のコネクタに強く倒し込む



チェック!! 増設RAMボードがコネクタにしっかりロックされたことを確認してください。



8 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本機底面に取り付ける

9 バッテリーパックとACアダプタを取り付ける

Windows 98の場合、休止状態の機能 (p.72)を使用する方は、続けて次の手順10～11の操作を行ってください。設定を行わないと、休止状態の機能が使用できなくなります。

Windows Me、Windows 2000の場合、手順11～12の操作は必要ありません。

10 本機の電源を入れる

チェック!! 起動直後にメッセージが表示されますが、ご使用上支障ありません。

11 休止状態の設定を解除したあと、休止状態を再設定する

「休止状態の設定の解除と再設定 (p.79)」の手順にしたがって設定を行ってください。

メモリ増設後は、次の「増設したメモリ (RAM)の確認」に従って、増設が正しく行われたかどうか確認してください。

増設したメモリ (RAM)の確認

増設が正常に行われ、メモリが本機に認識されているかどうかを確認します。

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

2 「全般」タブで右下に表示されている内容を確認する
「***KB RAM」または「***MB RAM」と表示されています。***KBまたは***MBが総メモリ容量です。

チェック!! システムの状態によっては、増設したメモリ分より容量が少なく表示される場合がありますが、故障ではありません。

メモリ容量が増えていない場合は、次のことを確認してください。

- ・ 増設RAMボードが正しく取り付けられているか
- ・ 本機で使用できる増設RAMボードを取り付けているか

ハードディスクの空き容量を確認する

Windows Me、Windows 2000で休止状態の機能 p.72 を使用する場合は、次の手順1～4の操作を行って設定を確認してください。増設したメモリ容量分、ハードディスクの空き容量が必要になります。

1 本機の電源を入れる

 **チェック!!** 本機の起動直後にメッセージが表示されますが、動作上問題ありません。

2 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンまたは「電源オプション」アイコンをダブルクリックする

「電源の管理のプロパティ」画面または「電源オプションのプロパティ」画面が表示されます。

3 「休止状態」タブをクリックする

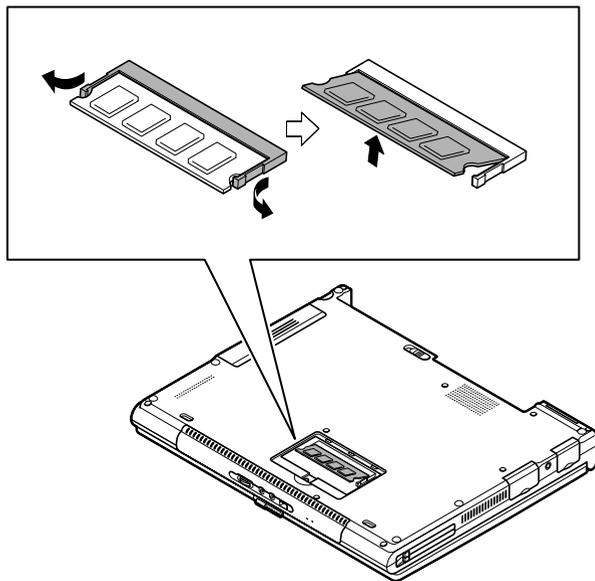
4 「休止のためのディスク領域」欄で、「ディスクの空き領域」の値が「休止状態にするために必要なディスク領域」の値よりも大きいことを確認する

 **チェック!!** 「ディスクの空き領域」の値が「休止状態にするために必要なディスク領域」の値より小さいと休止状態にできなくなります。このような場合は、不要なファイルを削除するなどしてディスクの空き領域を増やしてください。

増設RAMボードの取り外し方

1 「増設RAMボードの取り付け方」の手順1～5に従って、メモリスロットのカバーを取り外す

- 2** コネクタの両端部分を左右に押し広げる
増設RAMボードが図のようにおきあがります。



- 3** そのまま増設RAMボードを斜めに引き抜く
- 4** メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本機底面に取り付ける
- 5** バッテリーパックを取り付ける

Windows 98の場合、休止状態の機能（p.72）を使用する方は、続けて次の手順6～7の操作を行ってください。設定を行わないと、休止状態の機能が使用できなくなります。

Windows Me、Windows 2000の場合、手順6～7の操作は必要ありません。

- 6** 本機の電源を入れる

チェック!! 起動直後にメッセージが表示されますが、ご使用上支障ありません。

- 7 休止状態の設定を解除したあと、休止状態を再設定する
「休止状態の設定の解除と再設定」(p.79)の手順にしたがって設定を行ってください。

IEEE1394コネクタ

IEEE1394コネクタを使用すると、高速にデータのやりとりが行えるようになります。

IEEE1394とは

IEEE1394は、IEEE(米国電気電子技術者協会)で標準化された規格の一つで、パソコンと周辺機器のデータのやりとりを高速に行うことができるインターフェイスです。転送速度が早いので、動画などの容量の大きいデータもスムーズに転送することができます。

IEEE1394に対応している周辺機器には、デジタルビデオカメラやデジタルビデオデッキなどがあります。

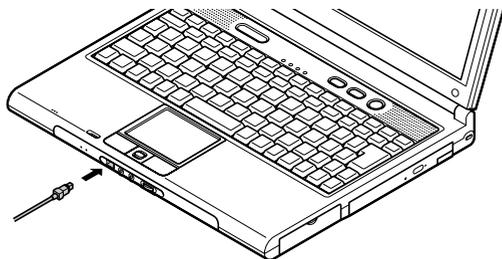
IEEE1394対応機器を接続する

接続する前に

- ・このパソコンと、IEEE1394コネクタを持っている周辺機器を接続するときは、別売のケーブルが必要です。このパソコンのIEEE1394コネクタは、4ピンのコネクタです。ケーブルを購入する際には、接続するパソコンや機器側のコネクタの形状も確認しておいてください。
- ・周辺機器によっては、IEEE1394に対応した端子のことを別の名称(DV端子など)で呼んでいる場合もあります。

IEEE1394コネクタに接続する

1 本機のIEEE1394コネクタにIEEE1394ケーブルを接続する



-  **チェック!!** 接続するときは、プラグの向きに注意してください。間違った向きで無理に差し込もうとすると、本体側のコネクタやケーブルのプラグの故障または破損の原因となります。

2 ケーブルの反対側のプラグを周辺機器に接続する

周辺機器との接続については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

パソコン間でファイルを転送する

本機のIEEE1394コネクタと別のパソコンのIEEE1394コネクタを別売のIEEE1394接続ケーブルで接続すると、パソコン間でのファイルの転送ができるようになります。

-  **チェック!!** IEEE1394接続ケーブルは、接続先のコネクタ形状に合わせたケーブルを使用してください。

Windows Meの場合

接続にはホームネットワークの設定が必要です。

ホームネットワークを設定するには、「ホームネットワークウィザード」を使います。「スタート」ボタン「プログラム」「アクセサリ」「通信」「ホーム ネットワーク ウィザード」をクリックして、表示された画面に従って設定を行ってください。

Windows 98 / Windows 2000の場合

接続にはドライバ(「IEEE 1394 Network Driver Ver.2.0」)が必要になります。ドライバは、以下のホームページから入手することができます。

<http://121ware.com/>

IEEE1394コネクタから機器を取り外す

-  **チェック!!** IEEE1394対応機器は、必ず次の手順で取り外しを行ってください。正しい手順で取り外しを行わないと本機が正常に動作しなくなることがあります。

1 インジケータ領域(タスクトレイ)にあるをダブルクリックする

「ハードウェアの取り外し」画面が表示されます。
が表示されていない場合は手順6へ進んでください。

- 2 取り外したい機器名をクリックして「停止」ボタンまたは「中止」ボタンをクリックする
機器名が表示されていない場合は、手順5へ進んでください。
- 3 「ハードウェア デバイスの停止」画面で取り外したい機器名をクリックして「OK」ボタンをクリックする
安全に取り外すことができるという内容のメッセージが表示されます。
- 4 「OK」ボタンをクリックする
- 5 「閉じる」ボタンをクリックして「ハードウェアの取り外し」画面を閉じる
- 6 取り外す機器のプラグを、本体のIEEE1394コネクタから取り外す



VersaBay IV

本機のVersaBay IVでは、購入時に取り付けられている機器を取り外して、別売のオプション機器を取り付けて使用することができます。

VersaBay IVで使用できる機器

本機のVersaBay IVには次のような別売の機器を取り付けて使用することができます。

- ・セカンドバッテリーパック(PC-VP-BP15)
- ・CD-ROMドライブ(PC-VP-BU05)
- ・CD-R/RWDドライブ(PC-VP-BU06)
- ・CD-R/RW with DVD-ROMドライブ(PC-VP-BU07)

あらかじめ取り付けられている機器を取り外し、添付の拡張ベイカバーを取り付けることで、本体の質量を軽くすることができます。

VersaBay IVの機器を交換するための準備

VersaBay IVに取り付けているCD-ROMドライブなどの機器を交換するときは、本機の電源が切れている状態のときだけでなく、本機の電源が入っている状態や、スタンバイ状態(サスペンド)または休止状態(ハイバネーション)のときに交換することもできます。

Windows MeまたはWindows 98で、本機の電源が入っている状態のままVersaBay IVの機器を交換するときは、BaySwapユーティリティを使用します。BaySwapユーティリティをはじめて使用するときにはセットアップが必要です。次の「BaySwapユーティリティをセットアップする」の手順でセットアップを行ってください。

 **チェック!!** BaySwapユーティリティをセットアップすると、VersaBay IVに取り付けられているCD-ROMドライブ、CD-R/RWDドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブは、取り外し可能(リムーバル)な機器として扱われます。

このため、PCカードなど他の取り外し可能(リムーバル)な機器と同様、機器の取り付け、取り外しを行った後や、スタンバイ状態(サスペンド)または休止状態(ハイバネーション)から復帰した後に、CD-ROMドライブ、CD-R/RWDドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブの名前が変更されることがあります。

BaySwapユーティリティをセットアップする

はじめてBaySwapユーティリティを使用するときは、次の手順でセットアップを行ってください。

- 1 デスクトップ上の (BaySwap) をダブルクリックする
- 2 「設定言語の選択」画面で「日本語」が選択されていることを確認して「OK」ボタンをクリックする
- 3 「ようこそ」画面で「次へ」ボタンをクリックする
- 4 「インストール先の選択」画面で「次へ」ボタンをクリックする
- 5 「セットアップの完了」画面で、「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」が選択されていることを確認して、「完了」ボタンをクリックする
本機が再起動します。

VersaBay IVの機器を交換する

電源が入っている状態で機器を交換する

電源が入っている状態で機器の交換をするときは、Windows MeまたはWindows 98の場合は「BaySwapユーティリティ」を使用します。Windows 2000の場合は「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」を使用します。
次の手順にしたがって機器の交換を行ってください。

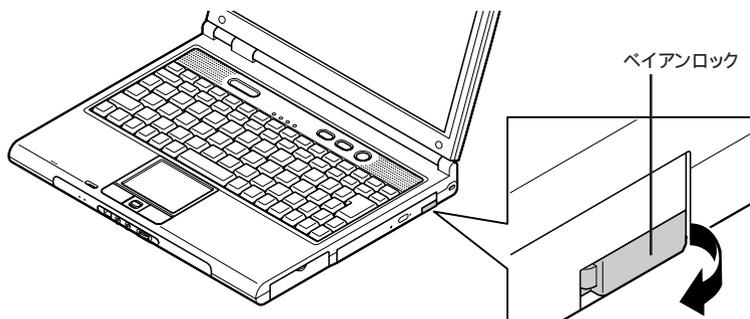
Windows Me / Windows 98の場合

- 1 インジケータ領域(タスクトレイ)の をクリックする
「Swappable Bay のデバイス(****)の交換」と表示されます。
****には、セカンドバッテリーパックが取り付けられている場合や何も取り付けられていない場合は「Empty or Battery」と表示されます。それ以外の機器が取り付けられている場合は「Inserted」と表示されます。

- 2** 「Swappable Bay のデバイス(****)の交換」をクリックする
「BaySwap」画面が表示されます。
デバイスを安全に取り外すことができるという内容のメッセージが表示されるのを確認してください。

- チェック!!**
- ・ここでは、「OK」ボタンはクリックしないで次の手順に進んでください。「OK」ボタンは機器の交換が完了した後でクリックします。「OK」ボタンをクリックしてしまった場合は、もう一度手順1からやり直してください。
 - ・電源が入っている状態で機器の交換をするときは、必ず手順1～2を行ってから次の手順に進んでください。

- 3** 本体の右側面を少し持ち上げながら、ベリアンロックを図のように本機の手前側に引き起こす



- 4** 起こしたベリアンロックを押す
機器が少し飛び出します。
- 5** 本体の右側面を少し持ち上げながら、機器を引き抜く
- 6** 取り付ける機器をカチッと音がするまで差し込む

- チェック!!** VersaBay IVに機器を取り付けるときは、本体の右側面を持ち上げずに、水平に近い状態にして機器を押し込んでください。本体の右側面を上にして、立てた状態で機器を落として取り付けたりすると、本体や機器の故障の原因となる場合があります。

- 7** ベリアンロックを倒して、もとの位置に戻す

8 「BaySwap」画面で「OK」ボタンをクリックする

Windows 2000の場合

- 1 インジケータ領域(タスクトレイ)にあるをダブルクリックする
「ハードウェアの取り外し」画面が表示されます。
- 2 取り外す機器を選択し、「停止」ボタンをクリックする
- 3 「OK」ボタンをクリックする
安全に取り外せるという内容のメッセージが表示されます。
- 4 「OK」ボタンをクリックする
- 5 「閉じる」ボタンをクリックして、「ハードウェアの取り外し」画面を閉じる
- 6 「電源が入っている状態で機器を交換する」の「Windows Me / Windows 98の場合」(p.163)の手順3～7にしたがって機器を交換する

スタンバイ状態 / 休止状態 / 電源が切れている状態で機器を交換する

スタンバイ状態や休止状態、または電源が切れている状態で機器の交換をするときは、Windowsでの設定は必要ありません。

「電源が入っている状態で機器を交換する」の「Windows Me / Windows 98の場合」(p.163)の手順3～7にしたがって機器を交換してください。

USBコネクタ

USB対応機器は、一般の周辺機器と異なり、パソコンの電源を入れた状態のまま、接続したり取り外すことができます。

USBとは

本機にはUSB対応機器を取り付けるためのコネクタが3つあります。USBとはUniversal Serial Busの頭文字をとったもので、コネクタの形状が統一されており、127台までの機器を接続することができます。また、電源を切らずにプラグの抜き差しが可能で、プラグ&プレイ機能にも対応しています。現在利用できる主なUSB対応機器として、次のようなものがあります。

- ・ マウス
- ・ プリンタ
- ・ イメージスキャナ
- ・ デジタルカメラ
- ・ ISDNターミナルアダプタ
- ・ USBポートバー
- ・ キーボード
- ・ テンキーボード
- ・ 携帯電話 / PHS接続ケーブル
- など

USB対応機器の、本機での動作確認情報については、各機器に添付のマニュアルをご覧ください。各機器の発売元にお問い合わせください。なお、NEC製のUSB対応機器の情報は、NECのホームページ「121ware.com (ワンツワンウェア ドット コム)」をご覧ください。
<http://121ware.com/>

USBコネクタに接続する

⚠警告



感電注意

雷が鳴りだしたら、本機や電源ケーブル、ACアダプタ、モジュラーケーブル(電話線)、USBケーブルに触れたり、周辺機器の取り付け、取り外しをしないでください。落雷による感電のおそれがあります。

接続する前に

機器によっては、接続する前や接続したあとにドライバのインストールや、各種設定スイッチなどの設定が必要な場合がありますので、接続するUSB対応機器のマニュアルを読んでおき、ドライバなどインストールに必要なCD-ROMやフロッピーディスクが添付されていれば用意してください。

別売のUSBマウスなどには、接続してすぐ使うことができるものがあります。ただし、いくつかの機能が制限される可能性がありますので、必ず添付のマニュアルをよく読んでください。

USB対応機器は、パソコンの電源を入れたままの状態でも接続できますので、接続前に電源を切る必要はありません。

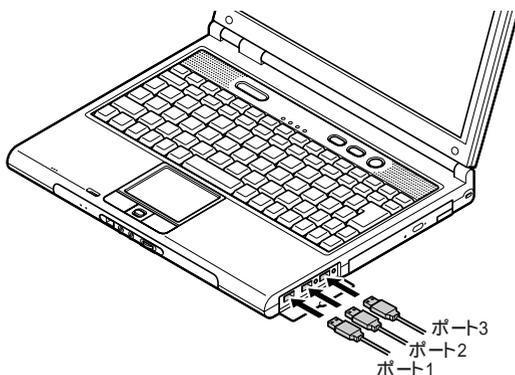
接続するときの注意

- ・「デバイスマネージャ」の画面にある「USB (Universal Serial Bus) コントローラ」の記述は削除しないでください。
- ・USB対応機器の抜き差しを行うときは、3秒以上の間隔をおいて行ってください。
- ・USBコネクタにプラグをすばやく差ししたり斜めに差ししたりすると、信号が読みとれずに不明なデバイスとして認識されることがありますので、その場合はプラグをUSBコネクタから抜いて、もう一度正しく接続しなおしてください。
- ・はじめてUSB対応機器を接続したときに、画面に何も表示されない場合は、USBコネクタにプラグを正しく差し込めていない可能性があります。いったんプラグを抜き、再度差し込んでみてください。
なお、USB対応機器は、一度設定をすれば、次回からはプラグを差し込むだけですぐに機器が使用可能になります。このとき画面には何も表示されませんが、故障ではありません。
- ・スタンバイ状態中、スタンバイ状態へ移行中、スタンバイ状態から復帰中、休止状態中、休止状態へ移行中、休止状態から復帰中のときは、USB対応機器を抜き差ししないでください。
- ・USB対応機器を接続した状態では、スタンバイ状態に移行できない場合があります。スタンバイ状態に移行する前にUSB対応機器を外してください。
- ・本機はUSBハブを内蔵しており、ポート2 / ポート3はハブを経由します。ハブの接続数に制限のあるオプションのUSB対応機器をポート2 / ポート3に接続して正常に動作しない場合は、ポート1に接続してください。

- ・ USBマウス使用時にNXパッドを無効にしたい場合は、BIOSセットアップメニューの「詳細(Advanced)」メニューの「NXパッド(Internal Mouse)」の設定を「使用しない(Disabled)」にしてください(p.179)
- ・ 外付けUSBハブ経由でUSB対応機器を使用するときは、USBハブを本機に接続してからUSB対応機器を接続するようにしてください。USBハブにUSB対応機器を接続した状態でUSBハブを本機に接続すると、USB対応機器が正常に認識されないことがあります。

USBコネクタに機器を取り付ける

- 1 USBコネクタのカバー()を開き、USBコネクタにプラグを差し込む
プラグは、どのUSBコネクタに接続してもかまいません。



接続したUSB対応機器が正しくパソコンに認識されたかどうかを確認してください。確認する方法は、機器の種類によって異なります。機器によっては、接続後さらに別の設定作業が必要になる場合があります。詳しくは、各USB対応機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

USBコネクタから機器を取り外す

-  **チェック!!** USB対応機器は、必ず次の手順で取り外しを行ってください。正しい手順で取り外しを行わないと本機が正常に動作しなくなることがあります。

- 1 インジケータ領域(タスクトレイ)にあるをダブルクリックする
「ハードウェアの取り外し」画面が表示されます。
が表示されていない場合は手順6へ進んでください。
- 2 取り外したい機器名をクリックして「停止」ボタンまたは「中止」ボタンをクリックする
機器名が表示されていない場合は、手順5へ進んでください。
- 3 「ハードウェア デバイスの停止」画面で取り外したい機器名をクリックして「OK」ボタンをクリックする
安全に取り外すことができるという内容のメッセージが表示されます。
- 4 「OK」ボタンをクリックする
- 5 「閉じる」ボタンをクリックして「ハードウェアの取り外し」画面を閉じる
- 6 取り外す機器のプラグを、本体のUSBコネクタから取り外す

別売の外付けUSBキーボードの接続

別売の外付けUSBキーボードは、USBコネクタに取り付けます。別売の外付けUSBキーボードには、USBコネクタが用意されており、別売のUSB機器を取り付けることができます。

 **チェック!!** セーフモードやWindows 98のMS-DOSモードで起動したときは、外付けUSBキーボードを使うことはできません。

外付けUSBキーボードの設定は、本機のキーボードと同じように、Windowsで設定することができます。

その他の機器

本機で使用できるその他の機器

本機では、次のような別売の機器を使用することができます。

種類	機器
オーディオ機器	ヘッドホン、マイクロホン、オーディオ装置など
入力装置	マウス、外付けキーボード、テンキーボード、デジタルカメラ、イメージスキャナなど
通信機器	携帯電話、PHS、外付けモデム、ターミナルアダプタなど

本機のどのコネクタに機器を接続するかは、機器が使用しているインターフェイスによって異なります。また、機器によってインターフェイスが決まっている訳ではありません。詳しくは、各機器のマニュアルをご覧ください。

- **チェック!!** ・本機がスリープ状態のときは、周辺機器を接続したり、接続していた機器を取り外したりしないでください。本機の機器構成が変更されると、データが消えてしまうことがあります。
- ・本機はシリアルコネクタを搭載していません。シリアル対応機器を接続するには、別売のUSBポートバー(PK-UP012S / PK-UP012NS)が必要です。

別売のキーボードやテンキーボードを使うには

本機には、別売のUSBタイプのキーボードやテンキーボードを接続することができます。別売のUSBタイプのキーボードはUSBコネクタに接続します(p. 166)。別売のPS/2タイプのテンキーボードを使用するには、別売のUSBポートバー(PK-UP012S / PK-UP012NS)が必要です。

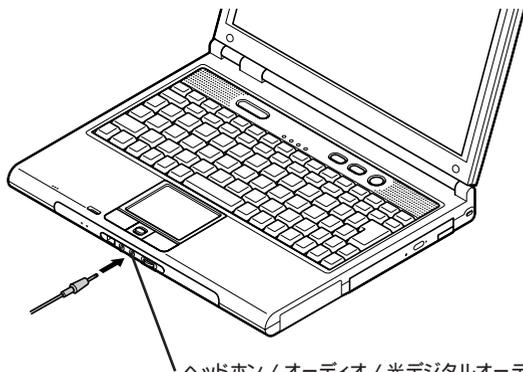
パラレルコネクタ

別売のプリンタを取り付けるためのコネクタです。
パラレル対応機器であればプリンタ以外の機器も接続することができます。
なお、WindowsではプリンタポートまたはLPT1と呼んでいます。

- **チェック!!** 本機にパラレル対応機器を接続するには、別売のパラレル変換ケーブル(PC-VP-BK03)または別売のUSBポートバー(PK-UP012S / PK-UP012NS)が必要です。

ヘッドホン / オーディオ / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子

デジタル入力を持ったオーディオ機器を接続することができます。



ヘッドホン / オーディオ / 光デジタルオーディオ
(S/PDIF)出力端子

デジタル入力を持ったオーディオ機器を接続する場合、市販の光デジタルケーブルを使用します。パソコン本体側の端子は光ミニ端子です。

- チェック!!**
- ・ 機器によっては、デジタル入力端子が光デジタルではない場合があります。このような場合、別途、変換ユニットが必要になる場合があります。
 - ・ 本機の光デジタル出力のサンプリングレートは48KHzです。デジタル入力のあるオーディオ機器を接続する場合、そのオーディオ機器が48KHzのサンプリングレートに対応している必要があります。オーディオ機器のマニュアルやカタログで確認するか、販売店、メーカーにお問い合わせください。

ヘッドホン / オーディオ / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子には、通常のヘッドホンやオーディオ機器も接続することができます。

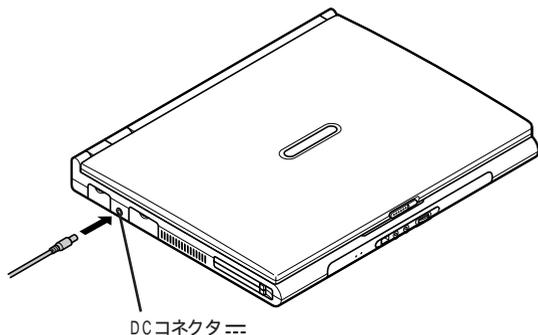
DCコネクタ

添付のACアダプタを取り付けるコネクタです。ACアダプタ以外に、カーアダプタ PC-VP-WP05-08 を接続することができます。

カーアダプタを使うと、車のシガーライターからバッテリーを充電することができます。

カーアダプタを使用する場合は、カーアダプタ本体(PC-VP-WP05)とカーアダプタケーブル(PC-VP-WP05-08)の両方を用意する必要があります。

- チェック!!** ・カーアダプタを接続する場合は、必ず本機の電源を切ってから接続してください。
- ・車が走行しているときには本機の電源を入れないでください。振動 / 衝撃などによって本機が故障するおそれがあります。



システムの設定

セキュリティや省電力など、本機の使用環境の設定について説明します。設定方法をまちがえると正しく動作しなくなってしまうので、十分注意してください。また、必要がある場合以外は設定値を変更しないでください。

BIOSセットアップメニュー

BIOSセットアップメニューは、本機の使用環境を設定するためのものです。

BIOSセットアップメニューを使ってできること

次のような設定ができます。

- ・ 現在の日付と時間の設定
- ・ BIOSセットアップメニューで使用する言語の選択
- ・ ハードウェア環境の確認と変更
- ・ セキュリティの設定
- ・ 起動デバイスの起動順位の設定

BIOSセットアップメニューを日本語表示にするには

1 電源を入れて、「NEC」のロゴが表示されたらすぐに【F2】を押し続ける

次のような画面が表示されます。

チェック!! BIOSセットアップメニューが表示されない場合は、いったん電源を切り【F2】を押しながら電源を入れ直してください。

PhoenixBIOS Setup Utility				
Main	Advanced	Security	Boot	Exit
System Time:		[hh:mm:ss]		Item Specific Help <Tab>,<Shift-Tab>,or <Enter> selects field.
System Date:		[mm/dd/yyyy]		
Language:		[English(US)]		
▶ Internal HDD		[XXXXMB]		
Internal CD/DVD		[CD/DVD]		
Boot Display Device:		[Both]		
System Memory		XXXXKB		
Extended Memory		XXXXXKB		
CPU Type		XXX		
CPU Speed		XXXXXX MHz		
BIOS Version		XXXXXXXX		
F1 Help	↑ ↓ Select Item	F5/F6 Change Values	F9 Setup Defaults	
Esc Exit	← → Select Menu	Enter Select ▶ Sub-Menu	F10 Save and Exit	

2 【 】または【 】を押して「Language:」を選び、【Enter】を押す

3 【 】または【 】を押して「日本語 (JP)」を選び、【Enter】を押す

4 【F10】を押す
確認の画面が表示されます

5 「はい」になっていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。
以降、BIOSセットアップメニューが日本語で表示されるようになります。

BIOSセットアップメニューを使う

BIOSセットアップメニューの起動とメイン画面

1 電源を入れて「NEC」のロゴが表示されたらすぐに【F2】を押し続ける
次のようなメイン画面が表示されます。
画面上では「PhoenixBIOSセットアップユーティリティ」と表示されます。

 **チェック!!** BIOSセットアップメニューが表示されない場合は、いったん電源を切り、【F2】を押しながら電源を入れ直してください。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ				
メイン	詳細	セキュリティ	起動	終了
	システム時刻: システム日付: 言語:	[hh:mm:ss] [yyyy/mm/dd] [日本語(JP)]		項目ヘルプ
▶	内蔵HDD 内蔵CD/DVD	[XXXXMB] [CD/DVD]		<Tab>キー、<Shift+Tab>キー、<Enter>キーは、項目を選択します。
	起動時表示デバイス:	[両方]		
	システムメモリ 拡張メモリ CPUタイプ CPU速度 BIOSバージョン	XXXXKB XXXXXXKB XXX XXXXXX MHz XXXXXXXX		
F1	ヘルプ	↑ ↓ 項目の選択	F5/F6 値の変更	F9 デフォルトの設定
Esc	終了	← → メニューの選択	Enter ▶ サブメニューの選択	F10 保存して終了

BIOSセットアップメニューの基本操作

- ・操作はキーボードで行います。
- ・【 **X** 】でメニューを選び、【 **X** 】で設定項目を選びます。
- ・設定内容の値は【F5】【F6】で変更します。

BIOSセットアップメニューを終了する

変更を保存して終了する

1 【F10】を押す

セットアップ確認のダイアログボックスが表示されます。
終了を中止したいときは【Esc】を押してください。

2 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。

メニューバーの「終了」で「変更を保存して終了する」を選んでBIOSセットアップメニューを終了することもできます。

変更を保存せずに終了したいときなどは、次の「メニューバーから終了する」で終了してください。

メニューバーから終了する

【 **X** 】でメニューバーの「終了」を選ぶと、以下のメニューが表示されます。

変更を保存して終了する

変更内容を保存してBIOSセットアップメニューを終了します。

変更を保存せずに終了する

設定値を保存せずにBIOSセットアップメニューを終了します。設定の変更を行った場合も、すべて無効にして終了します。

デフォルト値をロードする

すべての設定項目にデフォルト値を書き込みます。これによりBIOSセットアップメニューの設定値は工場出荷時の状態に戻ります。

変更を取り消す

すべての設定項目に対して変更前の値を読み込みます。BIOSセットアップメニューは終了しません。

変更を保存する

変更値を保存します。BIOSセットアップメニューは終了しません。

バッテリーリフレッシュ

バッテリーリフレッシュはバッテリーの機能を回復させるための機能です。バッテリーリフレッシュの詳しい手順については、PART1「バッテリー」の「バッテリーリフレッシュ」(p.61)をご覧ください。

工場出荷時の値に戻す

- 1** キーボードの【F9】を押す
セットアップ確認のダイアログボックスが表示されます。
- 2** 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す
デフォルト値を読み込みます。
- 3** キーボードの【F10】を押す
セットアップ確認のダイアログボックスが表示されます。
- 4** 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す
設定の変更を保存して終了します。

メニューバーの「終了」で「デフォルト値をロードする」を選んで工場出荷時の値に戻すこともできます。

設定項目一覧

ここでは、BIOSセットアップメニューでどのような設定ができるかを説明しています。

表中の は、購入時の設定です。

「メイン」メニューの設定

 **チェック!!** 「内蔵HDD / 内蔵CD/DVD」の設定を変更すると、内蔵ハードディスクが動作しなくなる場合がありますので、通常は初期設定のまま使用してください。

設定項目	設定値	説明
システム時刻(時: 分:秒)	-	現在の時刻を「時:分:秒」(24時間形式)で設定します。
システム日付(年 /月/日)	-	日付を「年/月/日」(西暦)で設定します。「言語」を「英語」に設定している場合は、「月/日/年」で入力します。
言語	English(US) 日本語(JP) Francaise(FR)	BIOSセットアップメニューで使用する言語を設定します。標準では「English(US)」に設定されています。
内蔵HDD / 内蔵 CD/DVD	-	現在接続されているIDEデバイスが表示されます。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を押すと設定画面が表示されます。表示できるのは「内蔵HDD」の項目のみです。【Esc】を押すとメイン画面に戻ります。
タイプ	自動 ユーザ CD/DVD なし	BIOSが自動的にシリンダ、ヘッド、セクタを設定します。設定は変更しないでください。
32ビットI/O	使用しない 使用する	32ビットIDEデータ転送を使用するかどうかを設定します。
起動時表示デバイス	両方 CRT LCD	起動時に表示するディスプレイを設定します。
システムメモリ	-	搭載されているシステムメモリ容量を表示します。
拡張メモリ	-	搭載されている拡張メモリを表示します。
CPUタイプ	-	CPUタイプを表示します。
CPU速度	-	CPU速度を表示します。
BIOSバージョン	-	BIOSのバージョンを表示します。

「詳細」メニューの設定

設定項目	設定値	説明
起動時Num-Lock	オン オフ	起動時にNum Lockをオンにするかを設定します。
NXパッド	使用する 使用しない	USBマウスを使用するときにNXパッドを無効にしたい場合は、「使用しない」に設定します。
LCDパネルの拡張表示	オフ オン	LCDパネルの拡大表示を行うかどうかを設定します。「オン」に設定すると、LCDパネルの最大表示サイズ以下の表示画面では拡大されて表示されます。
スリープ時警告音	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、スリープモード移行時に警告音を鳴らします。
セットアップ移行画面表示	非表示 ¹ 表示	「表示」に設定すると、セットアップの移行画面に関するメッセージが表示されます。
ハイパネーション警告表示	表示 非表示	「表示」に設定すると、ハイパネーションの警告に関するメッセージが表示されます。本機では「非表示」で使用してください。
セットアップ情報画面	使用しない 使用する	起動時にシステム設定状況を表示します。
サイレントブート	自己診断画面 ロゴ画面 非表示 ¹	ブート時の画面を設定します。
リモート電源制御 ²	使用する 使用しない	リモート電源制御を行うかどうかを設定します。
Intel(R) SpeedStep™テクノロジーの設定	バッテリー 自動 使用しない	「自動」に設定すると、AC電源でコンピュータ使用時に自動的に最高性能で動作します。「バッテリー」に設定すると、常にバッテリー最適性能で動作します。「使用しない」に設定すると、Intel® SpeedStep™テクノロジーは使用できません。

1: BIOSセットアップメニューを起動する場合は、電源を入れた後、1秒おきに【F2】を押すことを何度かくりかえしてください。

2: LAN内蔵モデルのみ表示されます。

設定項目	設定値	説明
周辺機器設定	-	各周辺機器の設定を行います。この項目にカーソルを合わせて【Enter】を押すと設定を行うことができます。
パラレルポート	使用しない 使用する 自動	「自動」に設定すると、BIOSが自動的にパラレルポートの設定を行います。「使用する」に設定すると、ユーザがパラレルポートの「モード」「I/Oベースアドレス」を設定できます。「使用しない」に設定すると、パラレルポートは使用できません。
モード	出力のみ 双方向 E P P E C P	パラレルポートのモードを設定します。
I/Oベースアドレス	378 3BC 278	パラレルポートを「使用する」に設定すると表示されます。パラレルポートにI/Oベースアドレスを設定します。
USBフロッピィ	使用しない 使用する	USBフロッピィを設定します。

「セキュリティ」メニューの設定

スーパーバイザパスワード設定

スーパーバイザパスワードの設定または変更を行います。

【Enter】を押すとパスワード設定の画面が表示されるので設定を行ってください。

参照 ▶ パスワードの設定 PART1の「セキュリティ機能」(p.84)

ユーザパスワード設定

ユーザパスワードの設定または変更を行います。

スーパーバイザパスワードを設定していないとユーザパスワードは設定できません。

【Enter】を押すとパスワード設定の画面が表示されるので設定を行ってください。

参照 ▶ パスワードの設定 PART1の「セキュリティ機能」(p.84)

設定項目	設定値	説明
セキュリティモード	パスワード スマートカード ¹ 指紋 ²	設定するセキュリティのモードを選びます。設定値のいずれかを選ぶと、それぞれのセキュリティ機能を設定できるようになります。
起動時のパスワード	使用しない 使用する	システム起動時にパスワード入力を行うかどうかを設定します。
ハードディスク起動セクタ	通常動作 書き込み禁止	ウイルス感染防止のため、ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかどうかを設定します。
ディスクアクセス ³	スーパーバイザ ユーザ	「スーパーバイザ」に設定すると、ユーザパスワードで起動した状態ではディスクドライブに対してアクセスできなくなります。

1: 「スマートカード」を選ぶためには、別売のセキュリティ関連の拡張機器が必要です。

2: 「指紋」を選ぶためには、指紋認証ユニットまたは別売のセキュリティ関連の拡張機器が必要になります。

3: スーパーバイザパスワードを設定していないと「ディスクアクセス」は設定できません。

スマートカード

「スマートカード」の各設定は、セキュリティモードで「スマートカード」を選ぶと設定できるようになります。詳しくは、スマートカード発行ツール(PK - SM002V2 など)またはスマートカードアプリケーション(PK - SM005、PK - SM006)に添付のマニュアルをご覧ください。

指紋

「指紋」の各設定は、セキュリティモードで「指紋」を選ぶと設定できるようになります。詳しくは、このマニュアルのPART1「セキュリティ機能」の「指紋認証機能」(p. 91)または、PCカード用指紋認証ユニット(PK - FP001M)に添付のマニュアルをご覧ください。

ハードディスクのパスワードの設定

【Enter】を押すと、ハードディスクのパスワードの設定画面が表示されます。

設定項目	設定値	説明
内蔵HDDパスワードの設定	使用する 使用しない	ハードディスクのセキュリティを有効にするかどうかの設定を行います。

-  **チェック!!** ・ハードディスクのパスワードが設定されていないと「内蔵HDDパスワードの設定」の設定を変更することはできません。
- ・ハードディスクのパスワードを忘れてしまった場合、お客様ご自身で作成されたデータが消えてしまい、ハードディスクを有償で交換することになります。ハードディスクのパスワードは忘れないよう十分に注意してください。

 **参照** ハードディスクのパスワードの設定方法について PART1の「セキュリティ機能」の「ハードディスクのパスワード」(p.88)

起動順位の設定

「起動」メニューでは、起動するデバイスを優先順に従ってリスト表示します。本機を起動するときには、上から順にOSを検索します。もしOSが存在しないなど起動に失敗した場合は次のデバイスから起動します。

起動デバイスの表示と順位の変更

デバイス名の左に+の表示があるデバイスにカーソルを合わせて【Enter】を押すと展開表示されます。

起動するデバイスを変更するには【**↑**】を使用して変更したいデバイスにカーソルを合わせます。【**←**】のキーと【Shift】を同時に押すとリストの上側に移動し、【**→**】を押すとリストの下側に移動します。

なお、ニューメリックロックキーランプ()が点灯しているときには前面に【+ **↑** -】の刻印のあるキーでもリストの上下にカーソルを移動させることができます。

P A R T

4

付録

ここでは、本機の機能に関連した補足情報を記載してあります。

本機のお手入れ

ここでは、パソコンのお手入れの方法を説明しています。

お手入れをはじめる前に

⚠注意



感電注意

お手入れの前には、必ず本機や本機の周辺機器の電源を切り、電源コードをACコンセントから抜いてください。

電源を切らずにお手入れをはじめると、感電することがあります。

準備するもの

汚れが軽いとき

やわらかい素材の乾いたきれいな布

汚れがひどいとき

水かぬるま湯を含ませ堅くしぼったきれいな布

OA機器用クリーニングキットも汚れを拭き取るのに便利です。

OA機器用クリーニングキットについてはご購入元、NECフィールディングの各支店、営業所などに問い合わせてください。



参照 NECのお問い合わせ先 『NEC PC あんしんサポートガイド』

お手入れをする

パソコンのお手入れをするときは、次のことに注意してください。

- ✔ **チェック!!** ・水やぬるま湯は、絶対に本機に直接かけないでください。本機の傷みや故障の原因になります。
- ・シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんなどは使わないでください。本機の傷みや故障の原因になります。

液晶ディスプレイ

やわらかい素材の乾いたきれいな布で拭いてください。水やぬるま湯、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんは使わないでください。

本体 / NXパッド / キーボード

やわらかい素材の乾いたきれいな布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、堅くしぼったきれいな布で拭いてください。キーボードのキーのすきまにゴミが入ったときは、専用のクリーナーなどでゴミを取ってください。ゴミが取れないときは、ご購入元、NECフィールディングの各支店、営業所に問い合わせてください。

参照▶ NECのお問い合わせ先 『NEC PC あんしんサポートガイド』

フロッピーディスクドライブ

クリーニングディスク(別売)を使ってフロッピーディスクドライブをクリーニングします。ひと月に一回を目安にクリーニングしてください。

電源コード

電源コードのプラグを長時間にわたってACコンセントに接続したままにしていると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的にはこりを拭き取るようにしてください。



補足情報

別売のUSBポートバー使用時の設定

Windows 98で、別売のUSBポートバー(PK-UP012N / PK-UP012NS)
を使用するときの注意

Windows 98で、別売のUSBポートバー(10Base-Tインターフェイス付) PK-UP012N / PK-UP012NS)を使用するときには、次の手順に従って設定を行ってください。

別売のUSBポートバー(PK-UP012 / PK-UP012S)を使用する場合は、以下の設定は必要ありません。

- 1** 本機にUSBポートバーを接続する
USBポートバーが自動的に認識され、汎用USBハブ、USB互換デバイスドライバが自動的にインストールされます。
- 2** 「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面に「次の新しいドライバを検索しています :CATC NetMate2 Ethernet Adaptor」と表示されたら、「キャンセル」ボタンをクリックする
次の各ドライバが自動的にインストールされます。
 - ・ NEC USB to Serial
 - ・ USB ヒューマンインターフェイスデバイス
 - ・ NEC USB to Parallel
 - ・ NEC USB COM Port
 - ・ NEC USB LPT Port
- 3** 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックする
- 4** 「名前」欄に以下のように入力するか、または「参照」ボタンをクリックして表示される「ファイル名の場所」で以下のファイルを選ぶ
C : ¥OPTIONS¥OTHER¥NEC¥PK-UP012¥SETUP . EXE

- 5 「OK」ボタンをクリックする
LANドライバのインストールプログラムが起動します。
- 6 「NEXT」ボタンをクリックする
- 7 「Disconnect the USB cable (if connected) from the CATC USB/Ethernet Link. 」と表示されたら、USBポートバーを本機から取り外して「OK」ボタンをクリックする
- 8 「Connect the USB cable to the CATC USB/Ethernet Link. 」と表示されたら、USBポートバーを本機に接続する
- 9 「This installation of the CATC USB Ethernet Link Software is complete. 」と表示されたら、「Finish」ボタンをクリックする
- 10 本機を再起動する

以上で設定は終了です。

別売のUSBハブに別売のUSBポートバーを接続するときの注意

別売のUSBハブ(PK-UP002またはPK-UP003)を2つ以上続けて接続し、その2つ目以降のUSBハブに別売のUSBポートバー(PK-UP012 / PK-UP012N / PK-UP012S / PK-UP012NS)を接続した場合、USBハブに接続してある他の機器(USBポートバーも含む)が正常に動作しなくなることがあります。この場合は、本機に取り付けた1つ目のUSBハブにUSBポートバーを接続してください。

サウンド機能について(Windows Meモデルのみ)

音楽CDを利用する

音楽CDを再生する

Windows Meでは、Windows Media Playerを使って音楽CDを再生することができます。Windows Media Playerには、インターネットでCDのデータの検索をしたり、音楽CD再生中に視覚エフェクトを表示させる機能もあります。

参照▶ 音楽CDの再生について Windows Media Playerのヘルプ

本機では、音楽CDをデジタルで再生したり、アナログで再生することができます。購入時は、デジタルで再生するように設定されています。

チェック!! 音楽CDをデジタル再生で再生しているときに、ほかのアプリケーションを使用すると、音楽CDの再生音が音飛びする場合があります。その場合は、ほかのアプリケーションを終了するか、音楽CDの再生方法をデジタル再生からアナログ再生に変更してください。

参照▶ 音楽CDの再生方法を変更する 次の「音楽CDの再生方法の変更」

音楽CDをハードディスクにコピーする

Windows Media Playerの「CDオーディオ」の「音楽のコピー」で、音楽CDをハードディスクにコピーすることができます。

参照▶ 音楽CDのハードディスクへのコピーについて Windows Media Playerのヘルプ

本機では、ハードディスクに音楽CDをデジタルでコピーしたり、アナログでコピーすることができます。

参照▶ 音楽CDのハードディスクへのコピー方法を変更する 「音楽CDからのコピー方法の変更」(p.192)

音楽CDの再生方法の変更

次の手順で、音楽CDの再生方法をデジタル再生、またはアナログ再生のどちらかに設定することができます。

Windows Media Playerの場合

- 1 「スタート」ボタン 「プログラム」 「Windows Media Player」 をクリックする
Windows Media Playerが起動します
- 2 メニューバーの「ツール」 「オプション」をクリックする
- 3 「CDオーディオ」タブをクリックし、「再生の設定」欄の「デジタル再生」を設定したい再生方法にあわせて選択する
 - ・ デジタル再生にする場合
「デジタル再生」をにします。
 - ・ アナログ再生にする場合
「デジタル再生」をにします。
- 4 「OK」ボタンをクリックする
- 5 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」が表示されます。
- 6 「デバイスマネージャ」タブをクリックする
- 7 「CD-ROM」の左の \oplus をクリックし、表示されたデバイス名をダブルクリックする
CD-ROMデバイスのプロパティが表示されます。
- 8 「プロパティ」タブをクリックする
- 9 「デジタルCD再生」欄の「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」を設定したい再生方法にあわせて選択する
 - ・ デジタル再生にする場合
にします。
 - ・ アナログ再生にする場合
にします。

10 「OK」ボタンをクリックする

設定した再生方法によって音楽CDの音量の調整方法が変わります。

その他のプレイヤーの場合

Windows Media Player以外のプレイヤーでの音楽CDの再生方法を変更するときは、「Windows Media Playerの場合」(p.191)の手順5～10を行ってください。

音楽CDからのコピー方法の変更

次の手順で、音楽CDからのコピー方法を設定することができます。

- 1 「スタート」ボタン 「プログラム」 「Windows Media Player」をクリックする
Windows Media Playerが起動します
- 2 メニューバーの「ツール」 「オプション」をクリックする
- 3 「CDオーディオ」タブをクリックし、「コピーの設定」欄の「デジタルコピー処理」を設定したいコピー方法にあわせて選択する
 - ・ デジタルでコピーしたい場合
「デジタルコピー処理」をにします。
 - ・ アナログでコピーしたい場合
「デジタルコピー処理」をにします。
- 4 「音楽CDの再生方法の変更」の「Windows Media Playerの場合」(p.191)の手順4～10を行う
音楽CDの音量の調整は、設定した再生方法によって、音楽CDの音量の調整方法が変わります。

参照 ▶ 音楽CDの再生音量を調整する 次の「音楽CDの音量を調整する」

音楽CDの音量を調整する

チェック!! 本機を再起動すると、再起動前にボリュームコントロールで調整した音量が調整前の音量に戻っている場合があります。この場合は、再度音量を調整してください。

再生音量を調整する

「音量の調整」画面で音楽CDの再生音量の調整をすることができます。音楽CDの再生音量の調整方法は、音楽CDの再生方法によって異なります。

■ 購入時の状態では、音楽CDはデジタル再生するように設定されています。

参照▶ 音楽CDの再生方法を変更する 「音楽CDの再生方法の変更」(p. 190)

1 「スタート」ボタン 「プログラム」 「アクセサリ」 「エンターテインメント」 「ボリュームコントロール」 をクリックする
「音量の調整」画面が表示されます。

2 音楽CDの再生方法に応じて、「音量の調整」画面の以下の項目の音量つまみを上下にドラッグして音量を調整する

- ・ デジタル再生に設定している場合
「音量の調整」または「WAVE」
- ・ アナログ再生に設定している場合
「音量の調整」または「CD オーディオ」

チェック!! ・ Windows Media Player以外のプレーヤーを使用する場合は、再生方法にかかわらず、「音量の調整」または「CDオーディオ」で音量を調整してください。
・ 「音量の調整」はスピーカから出力されるすべての音量を調整する項目です。音楽CDの再生音量のみを調整したい場合は「WAVE」または「CD オーディオ」で調整してください。

録音音量を調整する

次の手順で、音楽CDからの録音音量を調整できます。

1 「音量の調整」画面のメニューバーの「オプション」 「プロパティ」をクリックする

- 2 「音量の調整」で「録音」を選択し、「表示するコントロール」で「ミキサー」にチェックを付けて「OK」をクリックする
「録音の調整」画面が表示されます。
- 3 「ミキサー」の「選択」にチェックを付ける
- 4 「ミキサー」の音量調整つまみを上下にドラックして録音音量を調整する

 **チェック!!** 購入時、音楽CDからの録音はデジタル録音に設定されています。「録音の調整」の「CD オーディオ」は、音楽CDからアナログで録音する場合の音量を調整する項目です。デジタル録音に設定しているときに「CD オーディオ」を設定しても録音することはできません。

「CD オーディオ」での録音は、音楽CDからの録音をアナログ録音に設定することで可能になります。次の手順で、音楽CDからの録音をアナログ録音に設定できます。

- ・ 音楽CDからの録音方法を変更する

- 1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」が表示されます。
- 2 「デバイスマネージャ」タブをクリックする
- 3 「CD-ROM」の左の \oplus をクリックし、表示されたデバイス名をダブルクリックする
CD-ROM デバイスのプロパティが表示されます。
- 4 「プロパティ」タブをクリックする
- 5 「デジタルCD再生」欄の「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」がになっている場合はにする
- 6 「OK」ボタンをクリックする
- 7 「OK」ボタンをクリックする
- 8 「音楽CDの再生方法の変更（ p.190 ）の手順に従って、音楽CDの再生方法をアナログ再生に変更する

機能一覧

仕様一覧

の項目は、ご使用のモデルによって異なります。

機種名	VA70J/VH	
CPU	インテル® SpeedStep™ テクノロジ対応 モバイル Pentium® プロセッサ700MHz	
	内蔵キャッシュメモリ	32Kバイト
セカンドキャッシュメモリ	256Kバイト(CPU内蔵)	
メモリ	ROM	512Kバイト(BIOSほか)
	メインRAM	64Mバイト / 128Mバイト / 192Mバイト / 320Mバイト(システムバス100MHz対応)
		最大
	ビデオRAM	8Mバイト
表示機能	表示素子 ¹	バックライト付12.1型(XGA)TFTカラー液晶ディスプレイ
	ウインドウアクセラレータ	ATI RAGE™ Mobility-M1標準搭載(ビデオアクセラレーション機能対応) 640×480ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 800×600ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1,024×768ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1,280×1,024ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) ² 1,600×1,200ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) ²
	別売のCRTディスプレイ接続時	640×480ドット(16色 / 26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 800×600ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1024×768ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1,280×1,024ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1,600×1,200ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色)
サウンド機能	サウンドチップ	ESS Technology社ES1988
	PCM録音・再生機能	内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/22.05KHz/44.1KHz)全二重化対応
	MIDI音源機能	内蔵
	スピーカ・マイク	ステレオスピーカ・マイクロホン内蔵

機種名	VA70J/VH	
通信機能	モデム	モデム内蔵 データ転送速度 最大56Kbps(K5flex/V.90)エラー訂正V.42/ MNP4データ圧縮V.42bis/MNP5)
	携帯電話 / PHS 接続ケーブル	なし / ケーブル添付 携帯電話:9.6Kbpsデータ通信 / 9.6Kbps・28.8Kbps/パケット通信(DoPa) cdmaOne:14.4Kbpsデータ通信 / 64Kbps/パケット通信(PacketOne) PHS(NTTドコモ / アステル):32Kデータ通信 / 64Kデータ通信(PIAFS2.0) PHS(DDIポケット):32Kデータ通信 / 64Kデータ通信(PIAFS2.1)
	FAX	内蔵(データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17)FAX制御クラス1)
	LAN	なし / 内蔵(100BASE-TX / 10BASE-T)
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな) Fnキー(ホットキー対応) 12ファンク ションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・右Ctrlキー付
	ポインティングデバイス	NXパッド標準装備 なし / USBマウス添付
補助記憶装置	フロッピー ディスクドライブ	外付3.5型フロッピーディスクドライブ(USBインターフェイス)×1(720K/1.2M/ 1.44Mバイトタイプの3モードに対応)
	固定ディスクドライブ	約10Gバイト / 約20Gバイト / 約30Gバイト ³⁾
インターフェイス	CD-ROMドライブ / CD-R/RWドライブ ⁴⁾ / CD-R/RW with DVD-ROMドライブ ⁴⁾	CD-ROMドライブ / CD-R/RWドライブ / CD-R/RW with DVD-ROMドライブ / なし ・CD-ROMドライブの場合: CAV方式、CD-DA(オーディオCD)、CD-ROM MODE1/2、CD-ROM XA MODE2(FORM1/2)、マルチセッション対応 最大24倍速(平均17倍速)、 データ転送速度はCD-ROMの最内周で10.3倍速、最外周で24倍速 ・CD-R/RWドライブの場合: 読み込み最大24倍速(CD-ROM) / 12倍速(CD-RW)、書き込み最大8倍速 (CD-R)、書き換え最大4倍速(CD-RW) ・CD-R/RW with DVD-ROMドライブの場合: 読み込み最大24倍速(CD-ROM) / 12倍速(CD-RW) / 8倍速(DVD-ROM)、 書き込み最大8倍速(CD-R)、書き換え最大4倍速(CD-RW)
	サウンド関連	ヘッドホン出力 / ライン / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力共用(ステレオ、ミ ニジャック / 光ミニジャック)、マイク入力(モノラル、ミニジャック)、マイク入力イン ピーダンス2.2k 入力レベル5mVrms(バイアス2.5V)、ライン出力レベル1Vrms
PCカードスロット ⁵⁾	TYPE II×2スロット(TYPE III×1スロットとしても使用可) / 指紋認証モデルの場 合はTYPE II×1スロット PC Card Standard標準、CardBus対応	
パワーマネージメント	自動または任意設定可能	
セキュリティ機能	ユーザパスワード機能、スーパーバイザパスワード機能、盗難防止用ロック(市販の盗 難防止用ケーブルを使用)、スマートカード(別売)、指紋認証ユニット(別売)	
指紋認証機能	あり / なし	

機種名	VA70J/VH
バッテリー駆動時間 ⁶	約1.1～1.8時間(オプションバッテリー接続時約8.0～12.0時間)
バッテリー充電時間 ⁶	約2.5時間(オプションバッテリー接続時最大10.0時間)
バッテリーによるスタンバイ状態保持時間 ⁶ (バッテリーフル充電時)	約2日
電源	リチウムイオンバッテリー(DC11.1V、1,900mAh) ⁷ またはAC100V ± 10%、50/60Hz(ACアダプタ経由) ⁸
消費電力	約17W 内蔵オプション最大接続時 約60W
温湿度条件	5～35℃、20～80%RH (ただし、結露しないこと)
外形寸法	283(W)×238(D)×28.5(H)mm(最上部34(H)mm 突起部含まず)
質量 ⁶	約1.76kg(CD-ROMドライブ搭載時) ¹⁰ / 約1.58kg(拡張ベイカバー搭載時)

- 1 : 液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのむらや、微細な斑点が現れることがあります。故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがあります。故障ではありません。
- 2 : Windows Me、Windows 98ではバーチャルスクリーン表示。Windows 2000では表示不可
- 3 : 固定ディスク容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。0Sから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。
- 4 : Orange Book PartⅠ(CD-R)およびPartⅡ(CD-RW)に準拠
- 5 : Windows 98のMS-DOSモードでは使用できません。
- 6 : 時間や質量は、本機のご利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。
- 7 : バッテリーパックは消耗品です。
- 8 : ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全規格を取得していますが、添付の電源コードはAC100V用(日本仕様)です。日本以外の国で使用する場合は、別途電源コードが必要です。
- 9 : 18～25℃、45～75%RHでの使用を推奨。
- 10 : 質量は搭載する機器によって異なる場合があります。

内蔵FAXモデム機能仕様

機能概要

項目	規格
CPU I/F	PCIローカルバスインターフェイス
NCU部	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイヤルパルス送出機能 ・リング検出機能
モデムチップセット部	<ul style="list-style-type: none"> ・CPU直結パラレルアクセスによる高スループット K56flex, V.90 V.34 V.32bis V.32, V.22bis, V.22, V.21 V.42LAPMおよびMNP2-4エラー訂正 V.42bisおよびMNP5データ圧縮 ・最高14.4Kbpsのファクス・モデム送受信速度 V.17, V.29, V.27ter, V.21チャンネル2 ・HayesATコマンドセット準拠 ATコマンド Sレジスタ ・回線品質モニタリングおよびオートリトレイン ・受信ライン信号品質に基づく自動ライン・スピード選択 ・フロー制御およびスピード・バッファリング ・パラレル非同期データ ・自動ダイヤルおよび自動アンサー ・トーンおよびパルスダイヤリング (DTMFトーン、ダイヤルパルス制御)

FAX機能

項目	規格
交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/300bps
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	TCM: 14400/1200bps QAM: 9600/7200bps DPSK: 4800/2400bps FSK: 300bps
送信レベル	-9 ~ -15dBm(出荷時 -15dBm)
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド(CLASS 1)

: 回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

データモデム機能

項目	規格
適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	送受信 33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/ 14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps ¹ 受信 56000/54666/54333/54000/52000/50666/50000/49333/ 48000/46666/46000/45333/44000/42666/42000/41333/40000/ 38666/38000/37333/36000/34666/34000/33333/32000/30667/ 29333/28000bps ¹
通信規格	K56flex ITU-T V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21
変調方式	PCM:56000/54666/54333/54000/52000/50666/50000/49333/ 48000/46666/46000/45333/44000/42666/42000/41333/40000/ 38666/38000/37333/36000/34666/34000/33333/32000/ 30667/29333/28800bps TCM:33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/ 14400/12000/9600/7200/4800/2400bps QAM:9600/7200/4800/2400/1200bps DPSK:4800/2400/1200bps FSK:300bps
エラー訂正	ITU-T V.42(LAPM) MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis MNP class5
送信レベル	-9 ~ -15dBm(出荷時-15dBm)
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 ²

1: 回線状態によって、通信速度が変わる場合があります。

2: ATコマンドについては、以下のファイルを参照

Windows Me/Windows 98の場合:

C:\¥Windows¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

Windows 2000の場合:

C:\¥WINNT¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

NCU機能

項目	規格
適用回線	加入電話回線
ダイヤル形式	パルスダイヤル(10/20PPS) トーンダイヤル(DTMF)
NCU形式	AA(自動発信/自動着信型)
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 EIA-578拡張ATコマンドAT(class 1)

携帯電話 / PHS接続機能

携帯電話 / PHS接続機能は、携帯電話 / PHS接続ケーブルが添付の場合、または別売の携帯電話 / PHS接続ケーブルを別途購入された場合のみ使用できます。

個別仕様

種類	項目	規格
PHS (NTTドコモ / アステル) 接続ケーブル	適用回線	移動電話回線(PHS後位16芯)
	通信速度	PIAFS 32Kデータ通信: 29.2Kbps(実効値)
		PIAFS 64Kデータ通信: 58.4Kbps(実効値)
PHS (DDIポケット) 接続ケーブル	適用回線	移動電話回線(PHS後位12芯)
	通信速度	PIAFS 32Kデータ通信: 29.2Kbps(実効値)
		PIAFS 64Kデータ通信: 58.4Kbps(実効値)
携帯電話 (DoPa/PDC) 接続ケーブル	適用回線	移動電話回線(PDC5式携帯電話端末後位16芯)
	通信速度	9.6Kbps(データ通信)9.6Kbps(パケット通信) 28.8Kbps(パケット通信)
cdmaOne 接続ケーブル	適用回線	移動電話回線(CDMA方式携帯電話端末後位18芯)
	通信速度	14.4Kbps(データ通信) 最大64Kbps(パケット通信)

共通仕様

種類	規格
制御コマンド	ATコマンド
網制御機能	A A

: ATコマンドについては、以下のファイルを参照

Windows Me/Windows 98の場合:

C:\¥Windows¥SCmodem¥Atc¥Html ¥Atc000.HTM

Windows 2000の場合:

C:\¥WINNT¥SCmodem¥Atc¥Html ¥Atc000.HTM

内蔵LAN機能仕様

内蔵LAN機能は、LAN内蔵モデルのみの機能です。

規格概要

項目	規格概要
準拠規格	ISO 8802-3、IEEE802.3、IEEE802.3u
ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時:100Mbps 10BASE-T使用時:10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時:UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時:UTPカテゴリ3または5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
ステーション台数	最大1024台 / ネットワーク
ステーション間距離 / ネットワーク経路長	100BASE-TX:最大約200m / ステーション間 10BASE-T:最大約500m / ステーション間 最大100m / セグメント
メディアアクセス制御方式	CSMA / CD方式

:リピータの台数など、条件によって異なります。

割り込みレベルとDMAチャネル

割り込みレベルとDMAチャネルについて

パソコンで使用できる周辺機器は、すべて「リソース」というものを使用しています。リソースには、大きく分けて「割り込みレベル(IRQ)」「DMAチャネル」などがあります。

これらのリソースは、それぞれの機器ごとに違う設定をしなければなりません。リソースが複数の機器に割り当てられている状態(リソースの競合)では、機器が正常に使用できないばかりか、システム全体の動作も不安定になってしまいます。

割り込みレベル

「割り込みレベル(IRQ)」は、複数の機器から同時にCPUにアクセスしたときに、どのような順序で処理していくかを定めるものです。このパソコンでは、工場出荷時には次のように割り当てられています。

IRQ	インターフェイス	IRQ	インターフェイス
0	システムタイマ	9	ACPI用システム制御割り込み
1	キーボード	10	アクセラレータ
2	割り込みコントローラ		サウンド
3	(空)		CardBusコントローラ
4	(空)		IEEE1394 ¹
5	USBホストコントローラ	11	内蔵FAXモデム ¹
	CardBusコントローラ		内蔵LANインターフェイス ²
	IEEE1394 ¹	12	(空)
6	(空)	13	NXパッド
7	プリンタポート	14	数値データプロセッサ
8	システムクロック	15	IDEコントローラ(内蔵ハードディスク)
			IDEコントローラ(ペイ用デバイス)

1: OSにより異なります

2: LAN内蔵モデルのみ

DMA チャンネル

「DMAチャンネル」は、CPUを経由せずに周辺機器とメモリとのデータのやり取りを制御する機能のことです。このパソコンでは、工場出荷時には次のように割り当てられています。

DMA	インターフェイス			
	デフォルト	プリンタポートを ECPで使用する 場合(#1使用時)	プリンタポートを ECPで使用する 場合(#0使用時)	プリンタポートを ECPで使用する 場合(#3使用時)
#0	(空)		ECP	(空)
#1	(空)	ECP		(空)
#2				(空)
#3		(空)		ECP
#4				DMAコントローラ

: Windows 2000モデルのみ



索引

索引

英字

ATコマンド	101, 112
BaySwapユーティリティ	163
BIOSセットアップメニュー	174
CD-ROMドライブ	16, 42
CD-R/RW with DVD-ROMドライブ	16, 42
CD-R/RWドライブ	16, 42
CRTディスプレイ	141
DCコネクタ	17, 125, 172
DMAチャンネル	203
FAT32ファイルシステム	38
FAXモデム	96, 198
FDISK	38
【Fn】(エフエヌキー)	25
IEEE1394コネクタ	16, 125, 159
Intel® SpeedStep™テクノロジー	82
LAN	114, 201
LAN用モジュラーコネクタ	17, 115
NXパッド	16, 27, 137
NXパッドドライバ	29
NXパッドの設定	32
PCカード	147
PCカードイジェクトボタン	149
PCカードスロット	17, 125, 147
TV-OUT端子用ケーブル	143
USB	166
USBコネクタ	16, 125, 166
USBマウス	133
VersaBay IV	125, 162
Virtual CD 2	44

あ

アクセスランプ	19, 42
イジェクトボタン	42
インターネット設定切替ツール	103
映像出力端子	17, 125, 143
液晶ディスプレイ	16, 48

お手入れ	186
音量調節つまみ	16

か

解像度	49, 50, 141
外部CRT用コネクタ	17, 125, 142
外部ディスプレイ	141, 144
外部マイクロホン端子	16, 125
仮想CD-ROMドライブ	44
画面回転機能	55
画面回転支援ユーティリティ	56
画面の伸縮	48
画面表示の調整	48
輝度	48
キーボード	16, 23
キーボードの設定	26
キャップスロックキーランプ	19
休止状態	72, 79
クライアントモニタリング	117
クリック	27
クリックボタン	27
携帯電話 / PHS接続機能	108, 200
コントロールパネル	5

さ

サウンド機能	93
サスペンド	68, 71
指紋認証機能	91
指紋認証ユニット	91
充電	59
周辺機器	124, 126
省電力機能	68
スーパバイザパスワード	85
スクロールロックキーランプ	19
スクロールスライドスイッチ	28
スタンバイ状態	71, 74
スピーカ	16
スマートカード	91

スリープ状態 68
 セカンドバッテリーパック 63, 67
 セキュリティ機能 84
 増設RAM ボード 151

た

タイマ 81
 ダイアル設定 109
 タップ 27
 ダブルクリック 27
 データ通信 112
 デバイスドライバ 130
 デュアルディスプレイ機能 52
 テンキーボード 170
 テレビ 143
 電源スイッチ 16
 電源の自動操作 81
 電源ランプ 18
 電話回線用モジュラーコネクタ ... 17, 97
 盗難防止用ロック 16, 92
 ドラッグ 27

な

ニューメリックロックキーランプ 19
 ネットワークブート 118

は

パーチャルスクリーン 51
 ハードディスク 33
 ハードディスク起動セクタへのウイルス感染防止 92
 ハードディスクのパスワード 88
 ハイパネーション 68
 パスワード 84
 バッテリーアンロック 17, 64
 バッテリー残量 60
 バッテリー充電ランプ 19
 バッテリスロット 125
 バッテリーの充電 59

バッテリーパック 17, 63
 バッテリーパックの交換 63
 バッテリーユニット(LL) 63, 125
 バッテリー容量を増やす 65
 バッテリーリフレッシュ 61
 パラレルコネクタ ... 17, 125, 131, 170
 パラレル変換ケーブル 132
 ビープ音 25
 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力機能 ... 94
 非常時ディスク取り出し穴 42
 表示色 49, 50, 141
 表示の切り替え 144
 表示ランプ 16, 18
 フォーマット(ハードディスク) 34
 復帰 74
 プラグ&プレイ 130
 プリンタ 131
 プロジェクタ 142
 フロッピーディスクアクセスランプ ... 40
 フロッピーディスクイジェクトボタン ... 40
 フロッピーディスクドライブ 40
 ベイアンロック 16, 164
 ヘッドホン/オーディオ/光デジタルオーディオ
 (S/PDIF出力端子) ... 16, 94, 125, 171
 ホットキー機能 25
 ポリウムコントロール 93

ま

マウス 133
 マスタパスワード 88
 メモリ 151
 メモリスロット 17, 125, 152
 モデム(内蔵) 96, 198

や

ユーザパスワード 85, 88
 ユニバーサル管理アドレス 116

ら

リソースの競合	127
リモートコントロール	118
リモートパワーオン機能	81, 119
領域の確保	34
リング機能	81
レジューム	68, 74
ロックレバー	16

わ

割り込みレベル	150, 202
ワンタッチスタートボタン	16, 20
ワンタッチスタートボタンの設定	20



活用ガイド

ハードウェア編

PC98-**NX** SERIES

VersaPro

VA70J/VH

初版 2001年5月

NEC

P

853-810060-044-A